

321  
144

0<sup>m</sup> 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10<sup>m</sup> 1 2 3 4 5

始





321  
144

産業調査報告書

第拾九卷

(水産ノ部其五)

北海道廳



321-144



本調査ハ主トシテ左記ノ委員之ヲ擔當調査セリ

委員	委員
森脇幾茂	小島孝造

大正  
4. 3. 25  
内交





# 産業調査報告書

第拾九卷

(水産ノ部其五)

## 目次

第四	江差海産物市場	一、	總製	市場ニ顯ハル、商品	(イ)(ア)	鮮魚	二、	鮮魚	市場ニ於ケル商取引規約及習慣	(イ)(ア)	出入荷方面ニ關スル調査	三、	出入荷方面ニ關スル調査	(イ)(ア)	榎山郡漁業組合共同販賣ニ關スル調査	三、	移入海産物表	四、	移入海産物表	(イ)(ア)	海銀	第五	岩内海産物市場	一、	總製	商品ノ方面ニ關スル調査	(ア)	市場ニ顯ル、商品並ニ需給方面ト時期	(イ)	海産物	(ロ)	貨物	(ハ)	物	(ニ)	集散方	價	表
----	---------	----	----	-----------	--------	----	----	----	----------------	--------	-------------	----	-------------	--------	-------------------	----	--------	----	--------	--------	----	----	---------	----	----	-------------	-----	-------------------	-----	-----	-----	----	-----	---	-----	-----	---	---

一 二 二 三 三 四 六 一 一 三 五 五 五 五 八 八























# 産業調査報告書 第拾九卷

## (水産ノ部其五)

### 第四 江差海産物市場

#### 總説

當江差ハ昔時漁業ヲ以テ唯一ノ生命トナシ平年漁高三十万石ノ多數ヲ算セリト雖モ明治三十年頃ヨリ漸ク斯業ノ衰亡ヲ  
 來シ此狀況ハ約九ケ年間ヲ繼續セリ爲ニ明治三十年頃ノ人口ハ二万千餘人ナリシモ現今ハ約七千人ヲ數フルニ過キ去ル  
 明治四十一年頃ヨリ再ヒ鯉ノ來游ヲ見引續キ漸ク恢復ノ域ニ向ントセルモ昔日ノ疲弊尙存シ漁業ハ多ク歩方組織トス然レ  
 トモ鯉漁業衰微ノ打擊ハ同時ニ一方ニ於テ鯉以外ノ他種漁業ニ着手スルノ結果ヲ呈セルハ注意スヘキ事ニ屬ス左ニ最近ニ  
 於ケル當港ヨリノ水産物輸出入額ヲ表示セン



種別	年別	明治四十四年		大正元年		大正二年	
		入	出	金額	金額	金額	金額
輸	入		四五二六五	八四九六〇	六二四二九九		
輸	出	三五七三六		六一四〇七		一五二八九	

種別	年別	明治四十四年		大正元年		大正二年	
		入	出	金額	金額	金額	金額
輸	入		八六二	一四七二	九一六〇		
輸	出	四八		六〇〇		四四七	



海産物以外ノ輸出品ニアリテハ農産物主ニ大豆ニシテ約十二三万圓トス  
 檜山支廳管内産物ノ大部分ハ當地ニ於テ集散ヲナス今大正元年度ニ於ケル荷爲替ノ取組高及之カ取組地別ケニ見ル時ハ仕  
 向高中海陸産物ハ六十二万〇四百餘圓内海産物ハ其大部分則チ四十八万七千二百餘圓ニ達シ鯨類ハ主トシテ函館、敦賀、伏  
 木、直江津、青森、佐渡、柏崎、新潟、魚津ニ、鰯ハ神戸、横濱、東京、土崎、函館ニ仕向ケ而シテ農産物ハ僅カニ十二  
 三万圓トス次ニ被仕向額ハ五十三万八千八百餘圓ヲ算シ其取組地ハ前記ノ場合ト畧同一ナリトス則チ仕向及被仕向總額約  
 百十四五万圓ニ達セリ

以上ハ當市場ノ概觀ナルカ商圏範圍ヨリ見ル時ハ勿論函館市場ニ屬セル一集散市場ニシテ小樽市場トハ其關係(則チ資本  
 並ニ取引ノ上ヨリ)密接ナラスシテ反テ數年來青森市場(殊ニ鮮魚類ハ然リ)ト直接取引甚タ顯著ナルモノトナレリ

一、製品市場

(ア) 市場ニ顯ハル、商品  
 肥料 胴鯨、白子、笹目等

食料品 鰻、身欠、鯨鱈、粒鯨、鹽干魚、海參、干鮑、干貝類及ヒ若布等  
 工業用品 海羅、銀杏草等

就中最モ多キハ鰻ニシテ明治四十四年度ニ十二万四千餘圓大正元年度ニ十二万六千餘圓大正二年度ニ十二万餘圓トス而シテ  
 最近三ヶ年平均輸出年額十五万六千餘圓ニ達セリ

(イ) 當市場ニ於ケル商取引規約及習慣  
 海産商ハ江差物産商組合ヲ組織シ以テ營業ノ利益ヲ増進スルヲ目的トセリ而シテ組合員カ賣買委託ヲ受ケタル際ノ手数料  
 ハ左ノ割合ニヨル

輸出物貨		輸入物貨	
海參、干鮑、鰻、鯨鱈、鯨搾粕、白子、胴鯨	百分ノ二五	米穀	百分ノ二五
昆布、生魚類	百分ノ五	雜穀、雜品類	百分ノ三
身欠、笹目、一切	百分ノ三	繩、莖、葉物、水物一切	百分ノ五
細布、若布、木材	百分ノ八	青物、石材、引割物類	百分ノ五

海産物ノ受渡ニハ左ノ規定ニ據ルノ習慣トス

鯨搾粕 一個ニ付二十五貫目以上	五分引	胴鯨 荷造付(風袋有目引、入目)	
鯨鱈 一個ニ付二十五貫目以下	五分引	鰻 荷造付(風袋有目引、入目)	
白子 二十五貫目以下	一貫二百五十目引	海參 二分五厘トス	
不撰	一貫二百五十目引	干鮑	

以上ノ外海産物俵裝物一切、五分引  
 一般的ノ商習慣ハ輸出貨物ニ對スル保險料ノ割戻シハ通信料其他ノ費用ニ充ル爲メ返戻セス

二、鮮魚市場

當市場ニ於テ取扱フ重要鮮魚ノ種類及期節ハ左ノ如シ

- 一月以降五月迄ハ鯨、蘇魚、鯨、
- 五月以降六月迄ニハ王余魚、鼠鯨、海鼠、帆立、白魚及ヒ和布トス
- 七、八月ハ鰯、鯨、鱈、秋刀魚、鰻、鮪、「フクラゲ」ヲ主トシ
- 十一月ヨリ翌年五月迄鰻、鯨等トス

(ア) 出入荷方面ニ關スル調査



入荷ハ江差及附近ヲ主トシ種レニ當支廳管内各地ヨリトス而シテ出荷方面ハ函館、青森市場ニシテ便船ニヨルカ又大漁ノ際ハ陸路函館ニ出スモ概テ不利ノ狀況ナリシカ近時冷蔵船當地ニ寄港スルニ至リ魚價一般ニ約一割ヲ高上スルニ至レリ

(イ) 檜山郡漁業組合共同販賣

本販賣所取扱ノ重要魚類ハ鯉、王余魚、鯉、油鮫、鰻、鮭、比目魚、鱈ニシテ江差町近海ノ組合員ノ魚獲セルモノ、ミニシテ地理上ノ關係全組合員ノ漁獲物ヲ當共同販賣所ニ集合セシメ競賣スルモノニ非ス左ニ本販賣所ニ於テ取扱タル生魚販賣高ヲ示ス

年度	品目	月別	販賣金額	品目	月別	販賣金額
大正元年	鯉、蘇魚、雜魚、油鮫	一月	二四九六〇	鯉、蘇魚、雜魚、油鮫	五月	四一七〇〇
		二月	一六九五七〇		六月	三四二七五〇
		三月	五三三七〇		七月	四九〇四三〇
		四月	二四八七〇		八月	三五八三三〇
		五月	八四二二〇		九月	三五九六二〇
		六月	四三五四七〇		十月	一四六二二〇
		七月	三八七〇		十一月	一四五〇〇
		八月	四六五〇		十二月	一五三七〇
		九月	九一〇、二二〇			一七六八〇
		十月	一八七八〇			一五八三〇
		十一月	二五七〇			四六三四〇
		十二月	二七二四六〇			二九八三三〇
合計	一八〇四九〇		二六五八九〇			

備考 右取扱高ハ第一區ニシテ第二區ヨリ第十區間ハ自由販賣ヲナス  
販賣手数料  
鯉、王余魚 二分五厘 戻ナシ  
其他雜魚 七分 戻金一分トシテ貯金ヲナス

鯉ハ漁業者ト仲買人ノ相對賣買トシ該賣買價格ノ一分ヲ戻金トナシ組合ニ徴收ス  
備考 鯉ハ製造スルト否トニ拘ラス鮮魚販賣ノ標準ニヨリ玉筋魚ハ第一區ニアリテハ前個ニヨリ其他ノ地區ニアリテハ製造スルト否トニ拘ラス其賣價ノ一步ヲ販賣者ヨリ徴收ス

共同販賣規定摘要

- 一、共同販賣所ニハ書記一名賣捌人一名ヲ置ク  
但シ組合事務員ヲ以テ之ニ充ツ
- 一、組合員ハ本組合ノ設置シタル共同販賣所ニ於テ其漁獲物及同製造物ヲ販賣スルモノトス  
但シ臨時販賣事務開始ノ區部ニシテ其開始前ニ於ケル鮮魚ハ隨意販賣スルコトヲ得
- 一、共同販賣所未設置ノ區部ハ組長日時ヲ定メ毎回事務員ヲ派遣セシムルカ或ハ區總代ヲシテ其時々販賣事務ヲ開始セシム  
但シ組合員ノ漁獲物ヲ取纏メ共同販賣所ヨリ他ノ市場ニ輸送スル場合ニ於テ販賣所ノ名義ヲ以テ委託販賣ヲ爲スコトアルヘシ
- 一、年二回販賣高ヲ算定表示シ六月末日及十二月末日ノ現在ニヨリ其手数料金額ノ一割ヲ歩戻シ各自ノ名義ヲ以テ郵便貯金トシ其通帳ハ本組合ニ保管スルモノトス  
但シ鮮魚ニアリテハ鯉、王余魚其他製品ニ對シテハ歩戻シヲナサス







品目	單位	輸	量	價	出	格	輸	量	價	入	格
生身鯧	石		一八〇	一八〇	三三〇〇						
白鯧	同		四七八	四七八	六六九七						
雜子	同		三三四九	三三四九	七〇〇〇						
籠目	同		四二八	四二八	五二〇〇						
鱈	同		七二四	七二四	一〇〇〇七						
昆布	同		四一五〇	四一五〇	五〇〇〇九						
鮮魚	貫		三三三〇	三三三〇	一七〇四八						
干魚	同		五三	五三	四七						
鹽魚	同		一三八〇	一三八〇	三三〇〇						
若布	同		四三六四八	四三六四八	一四七二						
海鯉	同		三三六五	三三六五	二八二六						
海鰻	同		一九四四	一九四四	七七八						
錫節	同		一八五〇	一八五〇	四八四						
鮑類	同		一〇〇	一〇〇	一三〇						
干貝	斤		一〇八〇〇	一〇八〇〇	六四〇						
干鮑	貫		二八七三〇	二八七三〇	二六六三						
干鮑	同		一〇〇〇	一〇〇〇	七〇五						
干鮑	同		五六〇〇	五六〇〇	三三〇						
干鮑	同		四一八三	四一八三	一〇四八						

大正二年ノ分

品目	單位	輸	量	價	出	格	輸	量	價	入	格
魚海食鹽	二罐入		九五	九五	二八						
油苔	個		一二五〇	一二五〇	三〇〇〇						
鮭	石		二七	二七	八四九六〇						
鱈	同		六	六	四〇八〇						
筋子	同		一六	一六	一六一						
銀杏	貫		九二〇	九二〇	二七〇〇						
合計	石		二七	二七	八四九六〇						



品目	單位	輸出		輸入	
		數量	價格	數量	價格
昆布	石	3000	3000	181	1635
鮮魚	貫	2389	9160	1275	447
干魚	貫	1770	799	3400	1360
鹽魚	同	1340	675	9805	4903
若布	同	1780	392	450	1017
海節	同	40	58	760	760
海鯉	同	110	880	480	1680
錫	斤	1095	870	6240	4680
干鮑	同	7530	2253	44520	6678
貝類	同	985	780	1700	875
魚子	同	840	580	2400	1200
油	二罐入	237	683		
海苔	個	50	150		
食鹽	半斤入	4	200		
鹽	石	32	80	552	2678
鹽	同			100	1800
筋	同			100	1200
銀杏	貫			60	1800
鍊	石				

合計	六四三九九	一五二八九二
----	-------	--------

四、商業機關

(ア)

港内輸出入船荷賃

品名	個數	容量	解賃	摘要
胴	1個	八束入	三錢五厘	船積倉庫入
同	2千束付		十四圓	
身欠	1個		三錢	
開鱈、笹目	同		七錢五厘	
鯨、白子、ハ粘	同		六錢	
鯨、干鮑、海參	同	二十三貫目以下	六錢	
棒	同	十八貫目以下	五錢	
元	同	八束入	十二錢	
三ッ石昆布	同	十六束入	六錢	
鯨、雜	同		四錢	
細目昆布	同		六錢	
四斗樽入魚菜漬物	100個		十錢	







類別	銀行	口數	利歩	合金貨業	口數	利歩
農	三〇〇〇	三	最高 日歩四錢	三六七〇	二八	最高 日歩三錢
商	一七五二五〇	一七	最高 日歩四錢	一五七五〇	四七	最高 日歩三錢
工	六五〇〇	一〇	最低 日歩三錢	一七六〇	四	最低 日歩七厘
漁	五八六〇〇	四六	最低 日歩三錢	一七七八〇	二八	最低 日歩七厘

備考 小商、工、漁業者ハ金貸業者ニヨルモノトス利率高キノ見アルハ當地ノ状態然ラシムルモ交通ノ不便モ一因ナリ  
北海道銀行江差支店ト他地方銀行トノ取組

取組地	仕向額	被仕向額	取組地	仕向額	被仕向額
北海道	四八八八二	七六〇五五	秋田	四三三八一	七九四六〇
大坂	七五三二〇	五二一六九	福井	七九七二八	九四三三
神奈川	一一三三九	一七二六一	福山	六五四四八	四五二九〇
兵庫	三三六三三	八九〇一	東京	一〇一、一〇九	二八七〇七
新潟	九四六〇三	一九〇六七	計	一、三九四五一	一、三四六〇四
青森	三五四四〇	八〇〇二五			

備考 本店ハ小樽ニアルヲ以テ當地トハ金融ノ繁閑ノ事情ニヨリ互ニ融通ヲナスヲ以テ殊ニ本道トノ取引多額ニ上レリ  
預金額、平時當地ノ預金三十餘万圓見當トス  
倉庫業 營業倉庫トシテ特ニ記スヘキモノナシ

### 第五 岩内海産物市場

#### 總説

當岩内港ハ本道西海岸ニ於ケル須要ナル港灣ノ一ニシテ是レカ修築完成ノ曉ハ本道拓殖上其効果甚大ナリト信ス然レトモ當港ヲシテ純然タル商港ニラシメ函館、小樽、兩港ノ中間ニ介在シテ其覇ヲ爭ハント欲スルカ如キハ當港ノ將來ニ對シテ熱慮ヲ要スル點ナリトス是レヲ以テ最初ヨリ本港ヲ本道西海岸ニ於ケル近海漁ノノ根據地タル漁港タラシムルノ目的ヲ確定シテ之ニ適應スル諸般ノ設備修築ヲナスヲ可トス今當港輸出入貨物ノ大要ヲ見ルニ最近一ケ年平均輸出ニ於テ約二百萬圓以上輸入ニ於テ百八十九萬圓ニ達ス而カモ其輸出ノ八割ハ水産物ナリトシ輸入ニ於テハ日用品ノ外ハ何レモ漁業物資ヲ其主要ナルモノトス

當地ノ商圏ハ一方ハ古宇郡ヨリ他方ハ壽都、江差ニ及ヒ内方ハ俱知安、狩太ヲ挾トス又道外ニ於テハ東京、大阪方面ヲ除キテハ北陸道方面ヲ主要地トシ青森之ニ次クト雖モ元來當港ハ小樽、函館兩市場商圏ノ干渉點ニ當リ從テ金融ノ二大原動力ハ實ニ該二港ニ係ル今當市場ニ於ケル有力ナル北銀支店ノ總出入金額ヲ見ルニ明治四十四年度ニ於テ二千五百餘萬圓ニ達シテ斯クテ此等ノ資金ハ其大部ハ實ニ水産業ニ向テ投資運轉セラル是ヲ以テ今當市場ニ於ケル金融界ノ一般の變動ヲ知ルハ即チ海産物分配ノ狀況ヲ見ル上ニ於テ甚タ必要ナリトス毎年十一月頃ヨリ漁業仕込ニ對シ金融繁忙ヲ極メ金利昇騰ス二月、三月ハ市場一般ハ閑散ニシテ六月以降海産物出廻期ニ入レハ資金廻收預金ノ増加ヲ常トシテ十月迄ニ及ヒ又再ヒ前軌ヲ繰リ返ス故ニ當市場ノ盛衰ハ漁業ノ農凶ニヨリテ左右セラル、モノトス

#### 一、製品市場

#### (ア) 商品ノ方面ニ關スル調査

#### (イ) 市場ニ顯ル、商品並ニ需給方面ト時期

第五 岩内海産物市場



肥料 鯨粕、身欠、胴鯨、笹目、白子、雜粕  
食料品 棒鯨、開鱈、開鰯、海參、鮑、鰻及ヒ昆布類トス  
供給方面ト時期

鯨類 (粕、身欠、笹目、白子、胴鯨等) 古宇郡ヨリ岩内郡ノ間ニシテ殊ニ古宇郡ヲ最トシ四月末ヨリ九月迄トス  
雜粕 (小鯨粕、鮭ノワタ、鱈ノ頭、其他) 岩内郡一圓ニシテ年中出廻レトモ殊ニ五六月ヲ最トス

鯨粕 同一ニシテ二四兩月ヲ盛トス

棒鯨 岩、宇兩郡ニシテ七分ハ岩内郡三分ハ古宇郡トス六月出廻り期トス

開鱈 岩内郡ニシテ一月ヨリ三月ヲ其時期トス

開鰯 岩、宇兩郡ニシテ三、四兩月ハ古宇郡ニ多ク八、九、十月ハ岩内郡ニ多シ

鰻 同一ニシテ同量ナリ八月ヨリ十月迄トス

鮑 同一ニシテ九月後トス

海參 同一ニシテ岩内郡四分、古宇郡六分トシ六月ヲ時期トス

昆布類 同一ニシテ駄昆布最モ多ク棒昆布ヲ上等トス花折少シ時節ハ七月ヨリ十月迄トス注意スヘキハ駄昆布ニシテコハ

下場所ヨリ出廻り期節早ク從テ高價ナリ盛ニ支那國ヘ仕向ケラル

需要方面

鯨粕 大阪、兵庫、尾ノ道、敦賀、伏木、魚津、滑川、青森、四日市等ノ諸港ニ仕向ケラル而シテ敦賀ハ主トシテ滋賀  
縣下ニ伏木、滑川等ハ越中方面、徳島縣下ハ兵阪經由、群馬縣下及若松、郡山方面ハ青森經由トス殊ニ群馬縣下  
上州高崎方面ハ最モ盛ンナリトス

身欠 敦賀ヲ第一トシ新潟、青森、東京、群馬、直江津、伏木、兵阪、京都、函館、小樽

胴鯨 越中、佐渡、敦賀、尾ノ道、兵阪等

笹目 伏木(八分)旭川(二分)

白子 敦賀(八分)大阪(二分)

鯨 大阪、東京、函館、各地(三分ノ二)小樽(三分ノ一、廣海商店)

雜粕 越中、伏木

棒鯨 大阪、敦賀ニシテ主トシテ滋賀縣下ニテノ需要

開鱈 神戸、函館、東京

開鰯 東京(大部分)敦賀、京都、函館

鰻 神戸、横濱、函館、敦賀、京都

海參 函館、横濱

鮑 同上

駄昆布 兵阪(大部分)伏木(一部分)

棒昆布 伏木

時期ハ一般ノ商品ニ通シテ一度市場ニ出廻レハ直ニ上記ノ仕向地ヘ輸送スルモノニシテ長ク當市場倉庫内ヘ入置キ價格ト  
時期ヲ見合スル等ノ如キハ當市場未タ幼稚ナルト資金ノ關係上甚タ少シ恰モ室蘭市場ニ見ルカ如シ

(ろ) 海産物價格

當市場ニ於ケル海産物價格ハ前記需要地ノ其ニヨリ自然的ニ決定シ來ルハ勿論ナルモ其種類ニヨリ自ラ相場ノ標準地ヲ異  
ニス即チ身欠ハ主トシテ大阪及ヒ東京、胴鯨ハ北陸方面及ヒ兵阪トス、鯨、鮭及昆布類ハ兵阪、鮑、海參ハ東京、横  
濱等ナレトモ當市場ハ函、樽兩市場勢力圏ノ合復スル地點ナルヲ以テ自然兩市場ノ相場ハ著シク當地市場ノ其レニ影響ヲ  
及ス



(は) 貨物ノ集散方法

海産物聚集ノ方法ハ產地買付、及ヒ買付委託ノ二方法最モ普通ニシテ仕込關係ヲ結ヒ貨物ノ委託販賣ヲ受ルモノハ大ニ減少シ是レ兩者共ニ不利ノ存スルアレハナリ  
積出シノ方法ハ大抵產地積取り直ニ仕向地へ輸送スルモノ多ク一度當市場へ入荷ノ後仕向クル如キハ甚タ少シ之レ當市場ハ集散市場ト見ルヨリモ寧ロ需用地ヨリノ買付委託ニヨリ單ニ取次ノ職能ヲナスニ留マルモノナリト倉庫モ其數及ヒ面積僅ニシテ約三万石位ノ收容力ヨリ有セス之ヲ要スルニ未タ充分ナル資力ノ伴ハサルヲ其原因トス而シテ當市場ニ聚集スル小部分ノ海産物ハ大抵近地ヨリハ川崎船ニヨル是等ハ後段海運ノ段下ニ述フ  
價格決定ニ就テハ主ニ乘値ニヨリ貸込ハ小部分ニシテ委託販賣ノ方法ニヨルモノ是レ又次第ニ減少シ大部分ハ買付注文ニテ乘貸込ナリトス

(ロ) 物價表

品目	單位	品質	地名	自一月至三月平均	自四月至六月平均	自七月至九月平均	自十月至十二月平均
白米	一石	上越	後	一七〇〇〇	一九三〇〇	二二四〇〇	一九五〇〇
同	同	中秋	田	一六〇〇〇	一八五〇〇	二一四〇〇	一八八〇〇
同	同	下新	潟	一六五〇〇	一九一〇〇	二二五〇〇	一九五〇〇
品目	單位	品質	地名	自一月至三月平均	自四月至六月平均	自七月至九月平均	自十月至十二月平均
鯨鮫	百石	三	月	一八〇〇〇〇〇	一七〇〇〇〇〇	一七五〇〇〇〇	一六八七〇〇〇
同	同	同	月	一七〇〇〇〇〇	一六〇〇〇〇〇	一六〇〇〇〇〇	一五五〇〇〇〇

品目	單位	品質	三	月	六	月	九	月	十二	月	平均
體身欠	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
鯨鮫	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
鹽鱈	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
棒鱈	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
開鱈	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
海參	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
乾鮑	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
長切昆布	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
元搦昆布	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

(ほ) 賣買及受托ノ方法

當市場ニ於テ行ル、賣買方法ヲ左ノ四種ニ分ツコトヲ得

- 一、現金賣買 成立後三日以内ニ現品受渡ト同時ニ代金ノ支拂ヲナスモノトス
- 一、通常賣買 成立後三日以内ニ現品受渡ヲナシ現品受渡ノ日ヨリ十日以内ニ代金ノ支拂ヲナスモノトス
- 一、代金延へ賣買 成立後三日以内ニ現品ノ受渡ヲナシ賣買双方ニ於テ定メタル期日ニ於テ代金ノ支拂ヲナス者トス
- 一、先物賣買 賣買双方合意シタル期日ニ於テ契約ニ基キ履行スルモノトス

而シテ特定ナキ賣買ハ一般ニ海産物及ヒ雜穀ハ現金賣買トス不可抗力ノ爲メ受渡シ期間ニ履行スルコト能ハサル時ハ順延トスレトモ双方ノ合意上伸縮ナシ得又手附金ヲ交附シタルモノニシテ賣買不履行ノ際ハ特定ナキ限りハ買主ニ於テ違約シタル時ハ之ヲ賣主ニ於テ沒收シ又賣主ニ於テ違約シタル時ハ其ノ倍額ヲ買主ニ支拂フ尤モ受渡シ以前ニ於テ天災ノ爲メ亡



失シタル部分ハ特定ナキ限り賣買解除シタルモノトス但シ先物賣買ハ此ノ限リニ非ス  
受托方法ハ左ノ如シ

輸入受托、受托貨物ノ賣買直段ハ總テ受托者ノ承諾ヲ得ルコトヲ要シ其手数料ハ一般物産商組合ノ規定ニヨル而シテ受托者ヨリ特別ノ指定ナキモノハ海産物及雜穀ハ現金賣買トセリ荷爲替及ヒ運賃其他ノ立替金ハ時價八掛ノ程度ヲ以テ受托シ若シ之ニ超過スルモノハ電信爲替ヲ以テ「差金」ヲ受ケタル後荷受ス尤モ相場ニ變兆アリト認ムル時ハ此限ニ非ス尙請求シタル差シ金送附ナキ時ハ受托者ハ勿論之ヲ謝絶ス且ツ又荷爲替通知ニ接スルモ受托品積載ノ船舶入港シ現品ノ調査ヲナシタル後ニ非レハ支拂ハサルモノトス此際延滞日歩ハ受托者ヨリ受ケ相場ノ變動ニヨリ立替金ノ程度ニ異動アリト認ムル時ハ受托者ニ對シ追敷金ヲ請求スルコトヲ得若シ入金運滞シ立替金ヲ填補スヘキ餘裕ナク尙時價下落ノ虞アリト認ムル時ハ受托者ニ通知シ其意見ニ拘ラス直ニ賣却ノ處分ヲナス尤モ立替金ニ對シテハ相當ノ利子ヲ受ケ又受托品ハ時價ヲ見積リ貨物火災保險ヲ付スルコトアリ

受托貨物ニ對シ受托者ヨリ受ケヘキ諸掛リ左ノ如シ

- 一、手 數 料 一、火災保險料 一、立替金利子 一、運 搬 費 一、藏 敷 料
- 一、受 渡 費用 一、電 信 料 一、送金手数料 一、其他必要ノ實費

受托替ヲナス時ハ手数料ハ規定ノ半額ヲ受ケ又受托品到着後着荷店ノ倉庫ニアリテ荷印ノ仕譯完了セサル爲メ受托者指定ノ倉庫ニ引取ラサル以前ニアリテハ荷爲替支拂濟ト雖トモ其貨物ノ受ケタル總テノ損害ハ受托者ノ負擔トス仕切決算不足金又ハ違算書損等ニヨリ生シタル不足金ヲ受托者ヘ請求スルモ入金運延スルカ其他受托者ニ於テ不都合ノ所爲アル時ハ之カ反省ヲ求メ又單ニ貨物ノ取次ヲ依頼セラレタル場合ハ時價一分ノ手数料ヲ受ケ

輸出受托、買付受托ノ場合ニ於ケル「差金」ハ賣買成立ノ即日ニ於テ左ノ區別ニヨリ電信爲替ヲ以テ受ケ即チ

- 一、海産物及雜穀見積價格ノ一割五分以上三割迄
- 一、其他同上二割以上五割迄

船乘直段ニシテ受托ノ際ハ本船積入済ニ至ル迄ノ一切ノ費用ハ其直段ニ含マル但シ海上保險料荷爲替打歩又立替金ノ日歩及船内人夫賃ハ別ニ受托者ヨリ受ケ而シテ買付貨物ノ引渡後ハ凡テ受托者ノ責任ニ歸スルハ勿論又買付受托貨物ノ代金ハ荷爲替取組ミ精算シ立替金ニ對シテハ荷爲替取組ミ迄ノ間相當ノ利子ヲ受ケ買付貨物品位、量目等ハ産地又其他ニ於テ引渡ヲ受ケタル後ハ總テ受托者ノ責任ニ歸ス買付貨物ハ本船又ハ船ニ對シ海上保險ヲ付スル事アリ受托貨物ハ陸上ニ於テハ貨物火災保險、海上ニ於テハ海上保險ヲ付スルコトアリト雖モ保險ヲ付スルコト能ハサル土地若クハ通信不便ナル土地ニ於テハ罹災損害ハ受托者ノ負擔トス相場ノ變動ニヨリ「追差金」ヲ要スル場合ハ受托者ニ請求スルコトヲ得而シテ「差金」ノ請求ニ對シ受托者ニ於テ理由ナク送金ヲ怠リ其間俄然相場ノ變動ニヨリ送金「差金」ヲ送附セサル場合ハ直ニ受托ヲ解除シ之ニヨリ生スル損害ハ受托者ヘ請求ス若シ又受托者ニ於テ「差金」ノ請求ニ應セサル場合ハ其受托貨物ハ受托者ノ獨斷ヲ以賣却シ過金ハ返戻シ不足金ハ請求スルモノトス買付受荷貨物ヲ受托者指定ノ場所ニ積送リ貨物到着後二週間ヲ經過スルモ荷爲替金ヲ支拂ハサル時ハ受托者ハ其當時ノ成行相場ヲ以テ賣却シ過金ハ返戻シ不足金ハ請求スルモノトス又荷爲替ヲ取組ムコト能ハサル貨物又金融上ノ都合ニヨリ荷爲替ヲ取組ムコト能ハサル場合ハ輸送前代金其他諸掛ノ全額ヲ受ケ買付受托貨物ニ對スル諸掛リ左ノ如シ即チ

- 一、手 數 料 但シ仲立業者ニ對スル手数料ヲ含有ス 一、海上保險料 一、火災保險料
- 一、荷爲替打歩 一、解及船内人夫賃 一、繩蒔及手直賃 一、電信料及送金料 一、立替金利子
- 一、藏 敷 料 一、其他必要ノ費用

受托者ヨリ船名又船積停止等ノ指示ニヨリ積出方延引シ之カ爲メ生シタル諸掛リ其ノ他ノ危險ハ凡テ受托者ノ責任トシ仕切決算不足金又違算書損等ヨリ生シタル不足金ヲ受托者ヘ請求スルモ入金運延シ其他受托者ニ於テ不都合ノ所爲アル時ハ之レカ反省ヲ求ムル等ハ其重要ナル規約及慣例ナリトス

以上ハ専ラ問屋業ニ對シ述ヘタルモノナルカ故ニ當市場ニ於ケル仲買人及ヒ仲立人ニ對スルモノヲ述ヘン  
仲立人及ヒ仲買人ハ岩内港仲買、仲立二業組合ヲ組織シ互ニ團結シテ一定ノ規約ニ從ヒ營業ニ從事セリ賣買其他諸般周旋



ニ關シ仲買業者仲立周旋業者ノ受クヘキ手數料額割合等ハ左ノ表ニ示ス如シ  
海産物移出入口錢割合

干海石棒雜花昆身笹白鯨鯛鱈雜鯨	品名	口移	仲買戻	仲立戻
鮑參菜鱈布折布欠日子鱈鯨粕粕粕	目	錢出		
二二四四四四二二三二二二三一		五五〇〇〇〇五〇五〇五〇七	五五五五五五五五五五五五	
青四鱈帆鹽生海若北經鱈鮭魚帆鰯	品名	口移	仲買戻	仲立戻
物物子干魚魚羅布貝節胃子油柱	目	錢出		
七五五五五五四四四		〇〇〇〇〇〇〇〇	五五五五五五五五五五五五	三分五厘

海産物賣買其他周旋手數料

干海石棒雜花昆身笹白鯨鯛鱈雜鯨	品名	口移	仲買戻	仲立戻
鮑參菜鱈布折布欠日子鱈鯨粕粕粕	目	錢出		
二二四四四四二二三二二二三一		五五〇〇〇〇五〇五〇五〇七	五五五五五五五五五五五五	
四鱈帆鹽青若鯉鱈鮭魚帆鰯	品名	口移	仲買戻	仲立戻
物物子干類物布節胃子油柱	目	錢出		
同同同同同同同同同同同同		同同同同同同同同同同同同	同同同同同同同同同同同同	同同同同同同同同同同同同

岩内海陸物産商組合規則摘要  
一、本組合ハ岩内町ニ現在スル海陸物産商及問屋業ヲ以テ組織ス  
一、本組合ニ左ノ役員ヲ置ク



- 一、會長ハ本組合ヲ總理ス其事務ノ概目左ノ如シ
- 一、組合規約、細則及組合會議ノ決議ヲ施行スル事
- 一、組合ノ庶務ヲ整理スルコト
- 一、組合會議ヲ召集シ之ヲ開閉スルコト
- 一、決議ノ事項實行シ難シト認ムル時ハ再會議ニ附スル事
- 一、組合員ノ信認金ヲ保管スルコト
- 一、書記以下ノ任免點陟ニ關スル事
- 一、會計ノ事務ヲ管理スル事
- 一、違約者ニ對シ説諭ヲナシ若クハ違約處分ヲ施行スル事
- 一、本組合ノ會議ハ左ニ區分ス
  - 一、定期總會
    - 一、臨時總會
    - 一、役員會
  - 一、入會及ヒ退會ノ手續其他各會議等ニ關スル事項ハ一般他市場ノ其等ト同一ナルヲ以テ畧ス
  - 一、本組合員ハ會費トシテ毎定期總會ニ金一圓宛醸出スルモノトス
  - 一、本組合員ハ信認金トシテ入會ト同時ニ金三十圓ヲ納入スルモノトス
  - 一、會長ニ於テ信認金ヲ領收シタル時ハ細則ニ規定シタル書式ニヨリ領收證ヲ差出スモノトス
  - 一、信認金ハ會長ノ名ヲ以テ確實ノ銀行ニ小口當座預金ヲナスモノトス
  - 一、信認金ノ利子ハ毎定期總會ニ於テ其處分法ヲ議スルモノトス

- 一、本組合ノ仲立人タラントスルモノハ組合員二名ノ紹介ニヨリ第四號書式ノ依頼書ヲ差出スヘシ（書式畧ス）
- 一、仲立人承諾ヲ得タル時ハ信認金十圓並ニ第五號書式ノ契約書ヲ差出スヘシ本組合ハ信認金ニ對シ第六號書式ノ預り證ヲ交附ス（書式畧ス）

岩内港仲買、仲立二業組合規約摘要

- 一、本組合ハ岩内郡ニ現住スル公ナル周旋仲立業者及仲買業者ヲ以テ組織ス
- 一、本組合ハ和親ヲ旨トシ各其本義ニ於ケル從來ノ弊習ヲ矯正シ専ラ斯業ノ隆盛ヲ計ルヲ以テ目的トス
- 一、本組合員ハ賣買其他周旋ニ付委託ヲ受ケタル時ハ品質數量其他ノ要件ヲ充分精密ニ調査シテ取引ノ最モ正實ニ行ハル事ヲ期ス
- 一、本組合員ハ買賣双方立會ノ上現品ニ付或ハ現場ニ於テ之ヲ審査シ時價ニ基キテ之ヲ評價シ双方合意ノ上金錢物品ノ授受交換ヲ周旋スル者トス
- 一、本組合員ハ賣主又ハ買主ノ委託ニ因リ區域外ノ地方ニ出張シタル時ハ規定ノ手数料外ニ相當ノ實費ヲ申請スルモノトス
- 一、賣買貸借其他ノ周旋成立シタルニモ拘ラス委託者ニ於テ之レカ破談ヲナシタル時ハ本組合員ハ規定ノ報償ヲ受クルモノトス
- 備考、役員及權限並ニ會議、入會、退會等ニ關スル事項ハ特記スヘキ必要ナキヲ以テ畧ス
- 一、本組合員ハ經費トシテ毎年金五十錢ヲ定期總會ノ節醸出スルモノトス
- 一、本組合ノ經費收支決算ハ其翌年ノ定期總會ニ於テ報告スヘキモノトス

二、鮮魚市場

鮮魚市場序説



合資會社岩内魚市場、明治四十五年三月ノ創立ニ係リ五千圓ノ合資會社組織ニシテ組合員五名内一名ヲ有限責任社員タリ當地唯一ノ魚市場トス茲ニハ專ラ當會社ニ就テノ狀況ヲ示シテ當市場ニ於ケル一般鮮魚分配ノ消息ヲ知ルニ資セン

(ア) 入荷方面ニ關スル調査

(イ) 供給地及期節

當市場ニ於ケル入荷最大時期ハ秋冬ニシテ四、五月ハ鯨ノ爲ニ壓セラレ殆ント入荷ナシ

春期、鯨、鰈、北寄貝、油子、章魚、比目魚、鯨

夏期、同上、(鯨ハ年中漁獲アルモ此時期ハ出漁セス)

秋期、鮭、鰯、北寄貝、蘇魚、油子、章魚、鮪

冬期、鯨ノ外ハ春夏ト大同小異ナレトモ鯨ヲ重トス

以上ハ主トシテ地廻リ物ニシテ他所物トシテハ左ノ如シ

壽都地方、比目魚、蘇魚、油子、鯨、鰯等(九月、十一月)岩内ト同一ナレトモ交通不便ノ爲メ入荷少シ

函館、鰯、鯛ニシテ殊ニ鮪ヲ主トス(秋期)此等ハ冬期西海岸時化ノ際ヲ見テ入荷アルモノニシテ好天氣續キノ時ハ入荷ナシ

荷ナシ

森、長万部方面、鮪(秋冬期)鮭(秋冬期)鰻(鹽又生ニテ秋期ナリ重ニ鯨餌トス)其他ふくらげ、鯛

小樽、余市、積丹方面、鮭(小樽)鰯、鮪(余市、秋)比目魚(積丹二、三月)而シテ積丹方面ハ風向ノ如何ニヨリ岩内又ハ余市

市場ノ何レニカ入荷アリ

(イ) 出荷方面ニ關スル調査

(イ) 仕向地及期節

東京、鼠鮫、鰯、鯨、比目魚、鮪、鰯ニシテ最重要ノ仕向地タリ

青森、同上、外ニ夏時鰯ヲ出荷ス

仙臺、秋田、山形、伏木、直江津、此方面ニモ仕向ケラル伏木ハ粒鯨、直江津ハ鰯、鮫類トス

西京、大阪、敦賀、主トシテ粒鯨、鰯、鰈トス

本道内仕向地ハ函館、小樽、札幌、旭川ヲ主トシテ外ニ岩見澤、瀧川ニ仕向ク

出荷數量ハ入荷數量ニ對シ約半ニシテ其ノ時期ハ入荷時期ト同一ナルヲ以テ畧ス茲ニ注意スヘキハ春期生鰯ノ佐渡、越後、

越中、直江津方面ニ出荷數多量ニシテ此等ハ開鮪ニ製造シ更ニ東京、大阪地方ニ仕向ラル而シテ諸地方ノ製造者ハ其原料

ヲ當岩内ニ仰ケリ近來當市場ニ於テモ製造品トシテ京、阪、地方へ出荷スルモノ漸ク多キヲ加ヘタリト雖トモ尙生原料トシ

テ前記地方へ出荷シツ、アリ此等ハ尙研究ノ要アリト信ス

(ウ) 會社ト荷主及仲買人トノ關係調査

荷主及仕切並ニ歩戻、百圓以上ノ出荷者ニハ歩戻シ一步トシ積立テ置キ年二期ニ之ヲ割戻ス但シ無利子トス仕切ハ翌日拂ニシテ旅者ハ立仕切トス荷主ニ對スル貸出ナシ之レ漁業者ノ經濟良好ナルニヨル地廻ハ荷主ハ其數百名トス

仲買人及ヒ歩戻、仲買人ハ以前百名餘アリシモ現今ハ五十名ニ減セリ資格ハ大仲買小仲買トアリ前者ハ主トシテ地方送リ

ヲ專務トシ保證金ハ十圓ヨリ二十圓迄ニシテ大抵百圓内外ヲ買求ムレトモ後者ハ市中賣ニシテ保證金ハ五圓トス計算ハ每

月末ニシテ殘金ハ翌月三日迄トシ若シ未精算ノ時ハ規定ノ歩戻ヲナサス、仲買人ハノ歩戻シハ二分五厘トス

市場手数料、賣價ノ一割ヲ手数料トスレトモ此ノ内荷主歩戻一步、仲買歩戻二分五厘ナルヲ以テ市場ノ實收入ハ六分五

厘トス但シ鹽干魚ハ五分トス

販賣法、競賣羅上法トス

(エ) 會社ノ營業方面ニ關スル調査























珊内、岩内間

品名	身欠 鮭目 干魚 笹魚 羽	品名	身欠 鮭目 干魚 笹魚 羽
數量	一本 一本 一本 一本 一本	數量	一本 一本 一本 一本 一本
貨金	一五〇〇 一五〇〇 一三〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇	貨金	一五〇〇 一五〇〇 一三〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇
品目	鮭 鮭 鮭 鮭 鮭	品目	鮭 鮭 鮭 鮭 鮭
數量	一本 一本 一本 一本 一本	數量	一本 一本 一本 一本 一本
貨金	一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇	貨金	一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇

神惠内、岩内間

品名	身欠 鮭目 干魚 笹魚 魚	品名	身欠 鮭目 干魚 笹魚 魚
數量	一本 一本 一本 一本 一本	數量	一本 一本 一本 一本 一本
貨金	一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇	貨金	一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇
品目	鮭 鮭 鮭 鮭 鮭	品目	鮭 鮭 鮭 鮭 鮭
數量	一本 一本 一本 一本 一本	數量	一本 一本 一本 一本 一本
貨金	一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇	貨金	一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇

孟、岩内間

品名	身欠 鮭目 干魚 開魚 海	品名	身欠 鮭目 干魚 開魚 海
數量	一本 一本 一本 一本 一本	數量	一本 一本 一本 一本 一本
貨金	一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇	貨金	一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇
品目	鮭 鮭 鮭 鮭 鮭	品目	鮭 鮭 鮭 鮭 鮭
數量	一本 一本 一本 一本 一本	數量	一本 一本 一本 一本 一本
貨金	一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇	貨金	一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇

泊、岩内間

品名	白子 笹目	品名	白子 笹目
數量	一本 一本	數量	一本 一本
貨金	一〇〇〇 一〇〇〇	貨金	一〇〇〇 一〇〇〇
品目	鮭 鮭	品目	鮭 鮭
數量	一本 一本	數量	一本 一本
貨金	一〇〇〇 一〇〇〇	貨金	一〇〇〇 一〇〇〇



品目	數量	貨金	品目	數量	貨金
鮭 魚 油	一 兩	二〇〇	魚 鱈 魚	一 兩	一四〇
鮭 魚 鱈	一 束	二五〇	鮭 魚 鱈	一 束	一八九
生 魚	同	三三〇	鮭 魚 鱈	同	一八〇
比 目	一 枚	一六〇	鮭 魚 鱈	同	一八〇
鮭 魚 鱈	一 束	一六〇	鮭 魚 鱈	同	一八〇
鮭 魚 鱈	一 束	四〇	鮭 魚 鱈	同	一八〇

(ウ) 銀行 業

當地ニ於ケル金融業者ノ重ナルモノハ北海道銀行岩内支店、北海道拓殖銀行支店、拓殖貯蓄銀行支店トシ今主トシテ北海道銀行岩内支店ニ就キ調査セルモノヲ本トシテ當市場ニ於ケル金融狀況ノ一般ヲ示スコト左ノ如シ

當地ハ漁業ヲ主トシ農業、礦業之レニ次クト雖モ農作物ハ一年約四十餘万圓、礦業ハ他地方ノ資本家ニヨリテ經營セラル、モノニシテ當町ノ金融界ニハ直接ノ關係ナキヲ以テ當市場金融界ノ中心の動力ハ則チ漁業殊ニ鮭漁業、鱈、鱈漁業トス例年十一月、十二月頃ヨリ鮭漁業ノ資金融通ヲ始メ金利昂騰シ市中金融逼迫ノ極ニ達スルヲ常トス而シテ四月末五月初旬ヨリ海産物殊ニ鮭目、身欠、胴鮭ノ順序ニ次テ鮭、鱈等ノ出廻リヲ見ルニ至リ六月、七月頃迄ニ約其半ヲ九月迄ニ全部ノ出荷ヲ終ル此等ト同時ニ漁業資金ハ漸次回收セラレ預金モ次第ニ増加シテ六月頃ヨリ十月迄ハ最モ預金増加ノ時期ナリトス八月末ヨリ九月ニ掛ケ農産物ノ出廻リヲ見ルニ至リテ多少金融ノ繁忙ヲ來スモ金利ノ高低ヲ左右スルニ至ラス以上ノ要綱ヲ示セハ當地ハ純然タル漁業港ト見得ヘキモノトス

銀行ノ營業狀況

株式會社 北海道銀行岩内支店

金銀出納

年次	入 金	出 金
明治四十三年	一、三四九七、〇〇〇	一、三四八七、〇〇〇
同 四十一年	一、二七七二、〇〇〇	一、二七九〇、〇〇〇
同 四十五年	七八〇二、〇〇〇	七八〇九、〇〇〇

總預金高

年次	預 金	總 額
明治四十三年	二四六八、〇〇〇	二四六八、〇〇〇
明治四十年	二三九七、〇〇〇	二三九七、〇〇〇
明治四十五年	二四七五、〇〇〇	二四七五、〇〇〇
明治四十五年	二二九五、〇〇〇	二二九五、〇〇〇
明治四十五年	二九〇四、〇〇〇	二九〇四、〇〇〇

貸付金、割引手形、當座貸越總高

年次	貸 越	金 額
明治四十三年	五〇五、〇〇〇	五〇五、〇〇〇
明治四十三年	五五六、〇〇〇	五五六、〇〇〇







總預金高

年次	預金總高
明治四十四年中	一七九一、七三八・五六〇
明治四十五年迄	九〇九、八二一・四〇〇

貸付金、割引手形、當座貸越總高

年次	貸越金額
明治四十四年中	五二四、九二八・八二〇
明治四十五年迄	三三〇、一〇八・五〇〇

荷爲替取組高

年次	金額
明治四十四年中	二七三、四五〇・二四〇
明治四十五年迄	一四九、二八九・五四〇

被仕向荷付爲替手形取立高

年次	金額
明治四十四年中	二五、五六五・六六〇
明治四十五年迄	二八、三八三・四二〇

仕向返金高

年次	金額
明治四十四年中	四七三、三七三・三四〇
明治四十五年迄	二三八、八一九・〇六〇

被仕向送金爲替高

年次	金額
明治四十四年中	一九六、九八九・一七〇
明治四十五年迄	一三二、九三九・八二〇

北海道銀行岩内支店ノ海産物荷爲替取組高ヲ各地別調表(明治四十四年度)

地名	五月	六月	七月	八月	九月
東京	六六五、〇〇〇	一一、〇〇〇	一一、三〇〇	一一、五〇〇	
大阪	二一七、三六五	一〇、八七八	一五、〇〇〇	八、八五七	
神戸	五四六、五〇〇	四、八五七	三、四〇〇	四、六三七八	



地名	五月	六月	七月	八月	九月
横濱	五二一三五〇〇〇	五九八〇四五九〇	一九九三二七〇	二七五五九二〇	
敦賀	二二二二二〇〇〇	七四六六一〇〇	二二〇〇七〇	一六二四五〇四〇	
伏木	三三二七八四〇〇	一六六六〇〇〇	六三九五七〇	二二〇八九六〇	
新湊	三四七〇〇〇〇		三〇七五〇		
高岡	六八四七五〇		三八九五〇	一三八四九六〇	
高津	六六四〇〇〇〇		八八〇〇〇〇	四四〇七六九〇	
小魚津	七五〇七四〇		五九四二〇〇	一〇七二七二七〇	
青森	三九三三三〇〇〇	一九七九三〇〇			
青森市	三六七七二六〇	二二四一七八〇			
下橋		六〇〇〇〇〇			
宇宮		一三六八六五〇			
伊勢	二二二二二〇〇〇	一三三三三〇〇	一一六〇一八〇	二二九九六八二〇	
三浦		六〇〇〇〇〇			
弘前	四三三〇〇〇〇	三三三〇〇〇〇	六八六〇〇〇		
小足山		四四一〇〇			

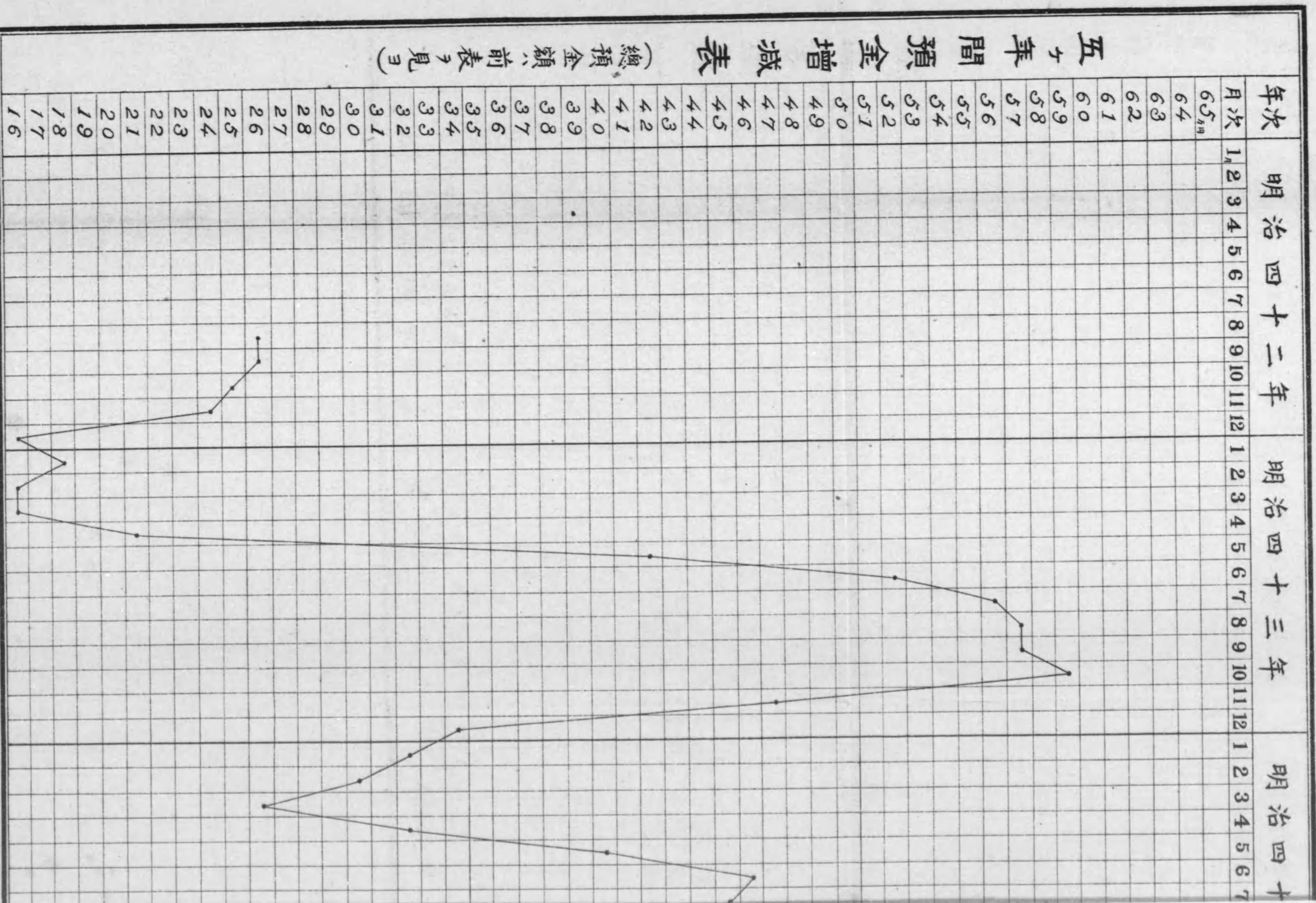
地名	五月	六月	七月	八月	九月
新湊	一四〇〇〇〇		五〇〇〇〇〇		
若松	一九七九二二〇		八〇四〇〇〇		
横手			二五七五八〇		
釜石			一一六八〇〇〇		
岩田	一七五〇〇〇〇		一七〇五三三〇	二五七六五〇	
石道	四二二二二〇〇	六四二五二四〇	一〇一六八四七〇	五七〇七七二〇	
尾津	七五〇三九六〇				
直江		六二八五八六〇			
下ノ多		一一二八二三〇			
喜方		一一七〇〇〇〇			
郡山		一七七一四〇〇			
旭川		八五〇〇〇〇			
七尾		八九〇〇〇〇			
大寺		七五四三八〇			
大甲		六〇〇〇〇〇〇			
鹽釜		五〇〇〇〇〇〇			
金澤		四〇〇〇〇〇〇			
酒田		三〇〇〇〇〇〇			
福井		二四〇〇〇〇〇			
井田		一六七〇〇〇〇			



最近五ヶ年間北海道銀行岩内支店ノ預金表ヲ擧ケテ當市場金融界ノ趨勢ヲ大觀スルノ便ニ供ス



五ヶ年間預金増減表 (總預金額、前表ヲ見ヨ)



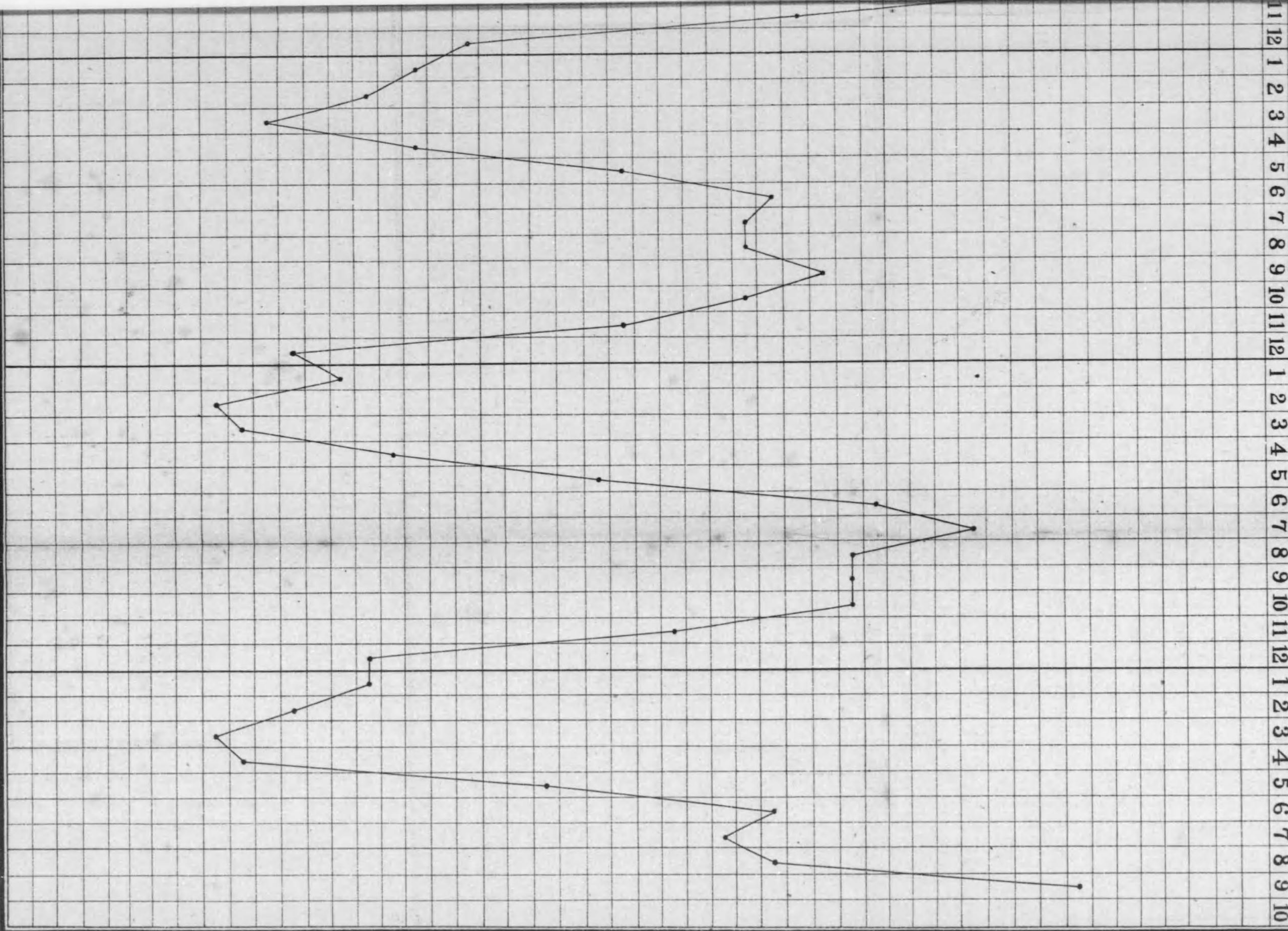


1112 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

明治四十四年

大正元年

大正二年





(エ) 保 險 業

保險ニ於テハ海上保險ニ關スルモノニ神戸海上火災運送株式會社、東京海上火災運送保險株式會社、橫濱海上火災運送保險株式會社、日本海上火災運送保險株式會社、帝國海上保險株式會社、東洋海上保險株式會社ノ六會社ノ各代理店及貨物火災保險ニ關シテハ小樽貨物火災保險株式會社及一外國會社ノ各代理店アリ

附 錄

岩 内 漁 港 一ノ四 現 狀

當港ハ將來本道ニ於ケル重要漁港タルノ運命ヲ有スルト共ニ將來ノ企劃並ニ設備ノ上ニ於テ甚タ緊要ナルモノナレハ今其現狀ヲ特ニ陳述セン

當港ハ毎年四月ヨリ十月迄ハ輸出尤モ繁瀕ヲ極ムル時期ニシテ而シテ其重ナル貨物ハ水産物殊ニ鱈類、鱈及鱈ノ製品トス之ニ小部分ノ農産物豆類ヲ以テス其他ノ時期ハ海上時化多ク屢々交通ヲ絶ツ入港船ノ重ナルモノハ近海航路船ノ五百噸内外ノモノ輸入品ハ米鹽、雜貨、漁業物資ニシテ何レモ大部分ハ產地トノ直取引トス現今船組合一、及個人二戸アリ仲仕人數九十人、船數八、通船五ナリトス

平均一日ノ荷役力海産物肥料類ハ約二千五百石農産物ハ二千五百石乃至三千石ニシテ石炭ハ四百噸乃至五百噸トス

備 考 船ハ長五十五尺幅十五尺深三尺二寸積載量三百石トス

今左ニ大正元年度ニ於ケル出入船數及貨物ノ類別ヲ詳記セントス即チ之ニヨリテ當港ニ於ケル最近ノ動靜ヲ查ニスルコトヲ得ン

大 正 元 年 自 十 二 月 滿 壹 々 年 間



岩内港出入汽船ノ數	同出入ノ噸數	摘
一千二百十八艘	六十四万二千八百八十六噸	外ニ對岸往復ノ汽船古宇郡壽郡、磯谷 新古字丸、根分丸、古余丸、大古丸 (計四隻ヲ除キ)
要		

内 譯

各地航路	汽船艘數	汽船噸數	各地航路	汽船艘數	汽船噸數
自函館 岩内入港	二二八	共三六	自伏木 岩内入港	四九	三八三二
自岩内 函館行	一九八	七二八九	自岩内 伏木港行	六七	五三四四
自小樽 岩内入港	一七六	一〇七五八	自敦賀 岩内入港	三三	九六三
自岩内 小樽行	一五二	七二二六	自岩内 敦賀港行	四四	三四一九四
自青森 岩内入港	二六	八四七七	自直江津 岩内入港	二二	八〇六
自岩内 青森行	一六	四九九	自岩内 直江津行	一六	九二〇
自酒田 岩内入港	三三	五〇六	自尾ノ道、兵阪、東京横濱	五	四三〇〇
自岩内 酒田行	九	三二六七	自岩内 岩内入港	四七	四八五〇
自新潟 岩内入港	七九	三六三六	尾ノ道、兵阪、横濱行	一五	四六六一
自岩内 新潟港行	五〇	一七八八	自岩内 古字行	二	八六〇
自壽郡 岩内入港	二	四一八	自樺太 岩内入港		
西洋形帆船	一七	一三三〇			
日本形帆船	九	三〇六			
		港錢單價一噸ニ付			同上金額
		百石ニ付			同上金額

外ニ避難船參拾貳艘

種別	人員	一名ニ付徵收額	全徵收額	輸入貨物	輸出貨物	同上金額
船客	四二四人	二〇	八四八〇	同	同	一六六八三六一 一三二二六六

内貨物ノ類別

貨物	木	材	石	材	硫	黄	レ	ール	石	炭
	三七五、四四〇	四一七、七四三	六六七	七七六、三三七				二七、五七		二六、二五

種別	類	艘數	一隻ニ付徵收額	金	額
港内曳入ノ鯨粹船	艘	五二艘	一五〇〇		七八〇〇〇

種別	上半期入港數	下半年期入港數	半徵收額	徵收金額	摘	要
漁舟川崎船	四二	五〇	一、〇〇〇	一八四〇〇	同	稻穂崎ヨリ御録内川マ
同中船	五	五	一、〇〇〇	一〇、〇〇〇	同	
磯船	四〇	四二	五〇〇	四一、〇〇〇	同	
通船	六	六	七五〇	九〇〇〇	同	
解船	八	一〇	二五〇〇	四五〇〇〇	同	















一魚共親社 仲買人三名小買人十名ニシテ荷主ハ近海漁業者及大謀經營者トス夏期ハ殆ント休業ナレトモ冬期ハ川崎船三十艘ノ漁獲物アリ  
 手數料及戻金 手數料ハ一割トス戻金ハ大謀物ニハナシ(大謀經營者ハ同時ニ市場經營者ナリ)他ハ漁業者ヘ二分、仲買ヘ三分トス鹽干魚ハ手數料五分トシ戻金ナシ一ケ年取扱高二万五六千圓ヨリ三万圓トス約半分ハ大謀物ナリ  
 兩市場鮮魚取扱高(四十一年)

種名	數量	價	額	種名	數量	價	額
鱈	八二五二		二二三五	鱈	一九四八五八		三二、七五
鮭	二六六六		五、一九	雜	一〇八九六		二、五三六
鮪	二、〇五六		一四、三五	魚	(大正元年度)		三、九五五
比目魚	一、六九〇		三、四二	計			七、七九四〇
			五、三二八				

魚類仕向地

- 鱈類 殆ト全部東京送ナレトモ夏期ニ至リ輸送ノ關係上山地方及函館向トス  
 鮭類 大部分東京向ケ  
 鮪類 大物ハ全部東京向ケ小物ニ限リ旭川、札幌等山地方向ケトス  
 鮭ノ分配狀況 鮭ハ生鮭及粒鮭ノ二種トシ生鮭ハ主トシテ山地方ニ粒鮭ハ主トシテ道外送リトス  
 (一) 道内需要地(主トシテ生鮭) 函館、俱知安、旭川方面  
 (二) 道外需要地(主トシテ粒鮭) 青森、土崎、酒田、本庄、新潟

(一)ハ鐵道便ニ(二)ハ汽船帆船便ニヨル今數年間ノ輸出數量ヲ示セハ左ノ如シ

鐵道	帆船	汽船	明治四十一年	明治四十二年	明治四十三年	明治四十四年
便	便	便	一四八〇〇〇尾	三、一〇〇、〇〇〇尾	一、〇〇〇石	一、一四〇石
			五〇〇、〇〇〇尾	三、八三、〇〇〇尾	一、三、七石	△〇〇石
			四八〇、〇〇〇尾	三、八〇、〇〇〇尾		



### 第七 留萌海產物市場

#### 總 說

當市場ハ小樽市場ノ商圏内ニ屬シ資本ノ大部分ヲ該市場ニ仰ク而シテ當地市場ニ於ケル海產物(鮮魚ヲ除ク)分配ノ概觀ハ概テ其收穫時期ニ至レハ小樽及内地商人ハ留萌及増毛ニ入込ミ來リ土地仲買人ノ手ヲ經テ之ヲ買占メ或ハ小樽へ或ハ直接内地需要地へ向ケ積出スモ其過半ハ實ニ小樽商人ノ手ニヨリテ分配セラレズ如キ狀態ナルヲ以テ土地商人(海產商)ハ主トシテ仲買又仲介人ノ業務ヲ行ヒ從テ一般商業機關甚タ不備ニシテ二倉庫營業者及一絲屋銀行支店アルノミトス

總輸出入額約百万圓ヲ超過シ能ク其平衡ヲ保持セリ而シテ輸出額ハ五十五万六千餘圓中海產物ハ其七八分ヲ算ス之ヲ以テ見レハ當港モ亦岩内、余市市場ト同シク全ク海產物ノ盛凶如何ニヨリ其盛衰ヲトスルニ足ル若シ其鮮魚ノ分配ノ狀況ニ至リテハ鐵道ノ開通ト共ニ水揚數量並ニ金額ヲ増加シ本道山地方ノ農村ハ勿論冬期間ハ直接東京、神奈川、青森地方ニ向テ出荷ヲ増加シ鮮魚總取扱高約五万圓以上ニ達ス

以上ハ實ニ當港現時ノ狀態ナリトス故ニ築港完成ノ曉ニ於テハ一層ノ發展ヲ見ルハ明カナリト雖トモ若シ當港カ將來ニ於テ海產物ヲ輕視シ深ク本道内地ノ物資吸集ヲ主目的トシテ小樽市場ト互ニ競争ノ方策ヲ探ルニ至ランカ其利、容易ニ判ス可ラス水産業上ノ見地ヨリシテ當留萌港ハ岩内港ト共ニ將來本道西海岸ニ於ケル純然タル漁港タラシムルヲ以テ最モ策ノ得タルモノト信ス

#### 一、製 品 市 場

(ア) 市場ニ顯ル、商品並ニ需給方面ト時期

肥料 鯨粕、胴鯨、白子、笹目、鱈粕、河豚粕等  
 食料品 身欠、鯨鱈、干鮑、干鮑、海參、棒鱈、開鱈及昆布、石花菜等

#### 工業用品 鯨油

供給方面 及 時期

鯨製品及鯨油、 増毛郡全部トシテ特ニ阿分、舍熊、増毛、別蒔、岩尾ヲ主トシ五月ヨリ九月ニ至ル  
 干 鮑、 別蒔、岩尾ヲ重要地トシ自九月末至十二月  
 海 參、 阿分、舍熊、留萌ヲ重要地トシ自七月至九月  
 棒鱈及開鱈、 別蒔、岩尾ニシテ殊ニ岩尾ヲ重要地トス自十二月至翌年六月  
 鱈 粕、 同斷  
 昆 布、 全沿岸ニシテ八月初メヨリ出廻ル

#### 需用方面

鯨 粕、 東京、四日市、兵阪、小樽ニシテ殊ニ小樽、大阪トス  
 魚 油、 横濱、神戸、小樽トシ殊ニ横濱ヲ主トス  
 干 鮑、 同斷  
 海 參、 函館、横濱、小樽トス  
 胴 鯨、 笹目、 越中及本道山方面ナレトモ殊ニ越中方面及小樽トス  
 天 草、 大阪ヲ主トス  
 身 欠、 東京、越後、小樽トス殊ニ大阪トス  
 鯨 鱈、 東京、越後ニシテ殊ニ東京トス  
 棒 鱈、 兵阪ヲ主トス  
 開 鱈、 神戸、横濱トス

以上示ス如ク主トシテ小樽、北陸方面及東京、兵阪トスレトモ大部分ハ小樽市場ノ勢力圏ニヨリ左右セラレ從テ内地直輸



送ノモノト雖モ小樽市場商人ノ手ニヨリテ分配セラル、モノニシテ直接内地市場ヨリノ買附ノ如キハ甚タ少シ

(イ) 海産物價格

當市場ニ於ケル海産物價格ハ其勢力中心點タル小樽市場ニヨリテ直接其ノ影響ヲ受クルト雖トモ亦東京、兵阪地方需要地ノ價格如何モ幾分カノ影響ヲ及スナキニ非スサレハ其大局ヨリ云フ時ハ未タ獨立市場ニ非スシテ資本ノ大部分ハ小樽商人ノ手ニヨリテ運轉セラル此點ニ就テハ岩内市場ノ狀態ニ稍類似シテ尙未タ其小ナルモノトス

(ウ) 貨物ノ集散方法

鯨粕ノ如キ大荷物ハ各產地前濱積取リナレトモ其他ノ小荷物ハ馬車及解ニテ當市場ニ送付シ來ル而シテ此等ノ取引ハ當地商人(主トシテ仲買人)カ小樽商人又内地商人ノ委託ニヨル買附カ或ハ仕込ノ方法ニヨルモノニシテ其ノ流動資本ノ大部ハ小樽市場ヨリ來ルモノトス以上ノ如キ狀態ナルヲ以テ需要地(主トシテ小樽或ハ内地諸地方)トノ取引ハ賣附若クハ需要地商人ノ出張員ノ委託ニヨル買付ニシテ從テ當地商人ハ一種ノ仲立人又ハ仲買人ノ業務ヲ行フ口錢ハ魚粕ニ就テハ百石ニ付十圓ヲ普通トス

當地積込ミ内地へ直輸送ニ要スル日數ハ既チ東京十二日間、兵阪十四日間、名古屋、四日市、十三日間トス

(エ) 鐵道開通ト留萌市場

鐵道開通(明治四十四年度)ハ當市場ノ發展ヲ來セルハ次表ニヨリテ其ノ集散貨物ノ増加ニヨリ知ルコトヲ得殊ニ鮮魚輸送ノ便開ケタルハ直接ニ其ノ價格ニ高上ヲ來シ間接ニ漁業ノ發展ヲ促セルハ明カナル事實ナリトス從來輸送機關不完全ノ爲メ運賃高値ニシテ物資ノ需給平衡ヲ失セリト雖モ現今ニ於テハ當市場ト本道内地市場トニ於ケル貨物(水産物ヲ含ム)價格ノ開キヲシテ甚タ僅少ナラシムルニ至レリ其他直接間接ノ好結果ハ決シテ少シトセス  
左ニ開通前後ニ於ケル二三ノ統計的調査ヲ示シテ參考ニ資ス

輸出額

年	別	礦	農	林	水	產
明治四十三年度		50,143	28,537	34,800	8,283	118,763
明治四十四年度		110,511	99,551	41,000	11,838	262,899
		51,905	14,331	81,551	11,538	155,325
		22,800	51,114	10,615	134,755	289,284
大正元年度		11,100	15,730	34,460	28,633	90,923
		44,800	24,960	45,542	34,463	150,765

船舶出入

年	度	期	汽船	帆船	船	和船	船
艘數	噸	艘數	噸	艘數	噸	艘數	噸
明治四十三年	定期	638	48,588	73	1,679	144	4,410
明治四十四年	定期	663	26,756	65	1,538	122	4,868
大正元年	定期	169	23,459	62	1,164	74	3,010
同上	不定期	335	16,134	148	3,044	301	10,147

戶數調

年	度	總戶數	總戶數中物品販賣業者數
明治四十三年		1,147	435
明治四十四年		1,354	507
大正元年		1,475	533



(オ) 築港ト留萌市場

將來當港完成ノ曉ニ於テハ鐵道トノ連絡ヲ圓滿ニシ交通機關ノ完備ト相待テ一般産業ハ勿論水産業ノ開發上其効果甚大ナルモノアリト信ス然レトモ始メヨリ當港ヲシテ純然タル漁港タラシムルノ一大方針ヲ確定シ以テ適當ノ設備ヲ施シ海陸トノ連絡ヲ圓滿ナラシメ眞ニ漁業根據タルノ形式ト内容ヲ有セシムル時ハ一層顯著ナル拓殖ノ實ヲ舉ルニ近シト信ス況ンヤ現今ニ於テモ當港ハ既ニ鐵道ノ開通ト共ニ増毛郡一帯ノ漁獲物ハ勿論遠ク利尻、禮文、天賣、焼尻ノ漁船ヲ集中セシメ直ニ當市場ヨリ東京、青森市場並ニ本道山地方へ鮮魚ノ輸送ヲナシツ、アルノ傾向ヲ呈セルヲヤ是レヲ以テ當港ヲシテ以上ノ如キ方針ノ基ニ完成センカ實ニ漁業上ノ一大根據地トシテ本道水産ノ開發上大ニ見ル可キモノアルト信ス

二、鮮魚市場

當地ニ於ケル鮮魚市場トシテハ株式会社留萌魚菜市場アルノミ故ニ專ラ該魚市場ニ於ケル鮮魚集散ニ關スル調査ヲ記ス

(ア) 市場ニ顯ハル、鮮魚ノ種類供給地及時期併ニ數量

鯉及雜魚、中歌、別苺ニシテ約一萬兩(石油兩)自一月至四月  
鱒、別苺方面ニシテ約二百兩自一月至三月  
鮭及鮭、増毛町前濱ニシテ約二百石自九月至十一月  
鮑、自岩尾至別苺方面ニシテ三十乃至四十兩自十月至一月  
鱈、自増毛至留萌方面ニシテ數量約一萬箱トス  
鯨及雜魚、主ニ釣物ニシテ六月乃至八月  
(雜魚トハ比目魚、蘇魚、油子、章魚、鮎等ヲ云フ)  
以上ノ外島方面(離島全部)ヨリモ入荷アレ其重要地トシテハ増毛郡全部ニシテ入荷總量ノ約六分ヲ供給ス而シテ上記中

鯉及鮭ハ最主要魚類ニシテ殊ニ鯉ハ明治四十年頃ヨリ激増ノ傾向ヲ呈セリ鮭ハ一定セス

(イ) 出荷鮮魚ノ種類時期及方面

大体ヨリ云フ時ハ入荷數量ノ約半數ハ本道内地旭川ニ向フ殘額ノ半數ハ夕張、札幌、岩見澤、瀧川、砂川方面ナリ内地向ハ鯉ニシテ東京、神奈川、青森、弘前等殊ニ東京、神奈川ヲ主トシ時期ハ冬期全体ナリト雖トモ就中一月、二月、三月ヲ最盛期トス鮭ハ小樽及東京ニシテ東京行キハ荒卷トス生鯉ハ旭川迄ノ鐵道沿線諸地方ナレトモ便船アル時ハ青森、秋田方面ニ至ル鮑ハ小樽及旭川トシ鱒ハ深川、旭川ニ至ル各驛トス

荷作及運搬

荷作ハ本道一般市場ノモノト異ルコトナシ増毛ヨリ東京ハ五日乃至六日間ヲ要シ小樽行キハ汽船便東京行キハ汽船ト鐵道便ニヨリ運賃一兩ニ付小樽十五錢内外東京行キ九十五錢ヲ要ス生鯉ノ如キ主トシテ本道内地消費ノモノハ全部鐵道便ニヨルハ勿論ナリトス停車場迄石油箱一個五錢、ビール箱一個八錢ヲ要ス連絡機關ハ馬車トス

魚價

鯉、一月、二月十錢ニ付四枚半乃至七枚、三月同十枚乃至十三枚普通六枚乃至七枚トス  
鱒、一兩ニ付一圓二十錢内外  
鮭、一尾走物七八十錢次テ四十錢内外トナル輸送品ハ主ニ五十錢内外ノ時期ノモノトス  
鱈、一本(千二十尾)ニ付五圓乃至六圓(石油箱ニハ百七十尾乃至百八十尾入)  
雜魚、一兩ニ付六七十錢内外

(ウ) 會社ト荷主及仲買人トノ關係

荷主及歩戻







一、金二千五百四圓九拾二錢  
 一、金二千二百四拾圓三拾二錢二厘  
 差引金三百二拾二圓八拾一錢六厘  
 此配當左ノ如シ

- 一、金拾五圓
- 一、金二百八拾圓
- 但シ一株壹圓四拾錢宛七朱割
- 一、金二拾五圓九拾錢
- 一、金壹圓九拾一錢六厘

貸借對照表

借方 (資産ノ部)		貸方 (負債ノ部)	
科目	金額	科目	金額
貸附金勘定	九四〇〇〇	資本	四〇〇〇〇〇
營業用什器	四七四九〇	借入金	七〇五〇
建物	八七六〇八	新株拂込保證金	一、五〇〇〇〇
假拂勘定	五四八五〇三	仲買保證金	七四八〇〇〇
立替金勘定	八六二五	積立金	一〇〇〇〇
仲買人勘定	三五九八八〇	荷主勘定	五八〇六五
鯨船勘定	四六四〇〇	當期利益金	三二八二六
合計	三三四八九五	合計	七、七〇八五二

六八  
 當期總損金  
 當期總益金  
 法定積立金  
 株主配當金  
 新株拂込保證金利息  
 後期繰越高

三、移出入海産物表

移入部		移出部	
品目	数量	品目	数量
身欠	二三四	身欠	二三四
鯨	八九七	鯨	八九七
鯨	二七五	鯨	二七五
干鮑	二五八	干鮑	二五八
鯨	四〇〇	鯨	四〇〇
鯨	三三二	鯨	三三二
鯨	五三〇	鯨	五三〇
鯨	六〇五	鯨	六〇五
鯨	一一二〇	鯨	一一二〇
鯨	二八〇〇	鯨	二八〇〇
鯨	二二〇〇	鯨	二二〇〇
鯨	七六九〇	鯨	七六九〇
鯨	一八〇〇〇	鯨	一八〇〇〇
鯨	一四九八	鯨	一四九八
鯨	七〇	鯨	七〇
鯨	二六〇〇	鯨	二六〇〇
合計	五三〇六九	合計	五三〇六九



要ナルモノトシ殆ト其全部ハ小樽港トス  
 其他詳細ノ品別、港別ヲ畧ス  
 備考 輸出ハ大部分小樽ニシテ大阪、伏木、東京、廣島等アリ石炭、角材ハ東京、名古屋、大阪向トス

四、商業機關

(ア) 運送業

當市場ニ於ケル陸運業者ハ留萌運送組、(2)運送組(何レモ合資會社)ニシテ海運業者ハ村田回漕店、對馬回漕店アリ(何レモ個人經營)而シテ當港ト重要市場並ニ生産地トノ直接交通ハ前者ニ於テハ小樽港、増毛港ニシテ後者ハ鬼鹿及諸離島及ヒ稚内方面ナリトス勿論材木積取等ノ爲メ及鯨漁期ニ於テ直接内地市場トヲ連絡スル爲メ汽船ノ回航アルモ是レ全ク不定期ナリ要ハ小樽市場ニ於ケル交通關係ノ範圍ニ屬ス  
 荷役方法及平約一日ノ荷役力  
 今石炭ニ就テ言ヘバ百斤入吠ニシテ本船ハ掛廻シ受取ノ方法ニヨリテ積込ヲナス又荷役力ハ一日平約八百噸乃至千二百噸見當トス

解ノ種類數及積載量  
 種類ハ普通ノ手船ニシテ其數二十艘ヲ有ス一艘ノ積載量石炭二十五噸トス  
 解貨概額表

品名	目	個數	貨價	金額	摘要
鯨粕、鯨胃	一個	六		錢	

白子、鯨、雜粕、吠入干鮑、海參、帆立、子、粘、魚、油、石、油、函、生、魚、開、鱈、棒、鱈、鯛、鯨、(八束合)吠入生魚、蕨包鮭、及、鯨、昆布(五貫目)	同	七	錢	五	厘	鮑、海參ニシテ函入ノモノハ九錢
沃度	同	拾	錢			八束合セ
函入鮭	同	一	錢	五	厘	十尾入
昆布	同	八	錢			抱合此割合
沃度	同	二	十	五	錢	

至各港運賃概表

品名	單位	小樽	濱東	京名	古市	神戶	大坂
白子	百石	三、五〇〇	一、四三〇	一、四六〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇
身欠	同	三、七〇〇	一、五三〇	一、五四〇	一、五〇〇	一、四八〇	一、五〇〇
胴鯨	同	四、一〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇	一、六八〇	一、七〇〇
魚油	一箱	〇、八〇	二、六〇	二、六〇	二、六〇	二、六〇	二、六〇
鯨目	百石	四、二〇〇		三、三〇〇			
笹目	同	五、三〇〇					
昆布	同	四、六〇〇					
蕨包鮭	同	三、一〇〇					



品名	單位	小樽	濱東	京四名	古市	神戶	大阪
石棒花菜鱈	百石	六五〇〇〇					
干鮑、貝柱	一斤	二二〇〇〇	五七〇〇〇	五九〇〇〇		七二〇〇〇	七九〇〇〇

備考 數量ノ増加ニヨリ左ノ割合ヲナス

品名	單位	一百石以上	二百石以上	三百石以上	五百石以上
魚粕、白子	十圓引	九圓引	十一圓引	二十圓引	二十一圓引
身欠、胴鯨	十圓引	十一圓引	十二圓引	十三圓引	十四圓引

(イ) 倉庫業

當市場ニ於ケル倉庫業者左ノ如シ

留萌倉庫株式會社

棟數 一棟

留萌倉庫合資會社

棟數 二棟

外ニ大島、林兩氏ノ個人倉庫アリ其ノ内容ハ倉庫業ヲナセリ

保管料定額表 (留萌倉庫株式會社)

品名	單位	一月月保管料	品名	單位	一月月保管料
鯨絞粕	二十五貫目迄	三錢	魚油	石油函入	一錢八厘

子	胴	同	鯨	身	笹	白	雜	干	海
粕	鯨	上	鱈	欠	目	子	粕	鮑	參
一個	一個	一束	一個	一個	一個	一個	一個	一個	一個
五錢	三錢六厘	六厘	四錢	二錢二厘	五錢六厘	三錢六厘	三錢	五錢	五錢
鹽	昆	干	建	大	中	實	系	實	子
鮭	布	莖	莖	莖	細	繩	繩	網	網
一枚	一枚	一枚	一枚	一枚	一枚	一枚	一枚	一枚	一枚
一尾	一個	一個	一個	一個	一個	一個	一個	一個	一個
一厘五毛	二錢	一錢二厘	一錢六厘	一錢四厘	七厘	三錢	六錢	三錢六厘	三錢六厘

- 一、保管料一箇月一圓五十錢ニ充タサル貨物ニ對シ證券ヲ發行スル時ハ一枚ニ付金十錢ヲ申受クヘシ
  - 一、寄託貨物ヲ賣買讓渡セラレタル場合ハ直ニ當會社ヘ通知ノ上其承諾ヲ得ラルヘシ
  - 一、證券書換ヲ請求セラル、時ハ一通毎ニ金十錢ヲ申受クヘシ
  - 一、保管料ハ其月十五日ヲ界トシ二期ヲ以テ計算ス
  - 一、保管料ハ毎月末又ハ貨物出庫ノ際申受クヘシ
- 但シ内出ノ際ハ其都度申受クヘシ

(ウ) 銀行業

當地ニ於ケル商取引ニ關スル主要ナル金融機關ハ絲尾銀行支店ノ唯一ナリトス故ニ今該銀行ニ於ケル大正二年度ノ營業概況ヲ示シ以テ參考ニ資ス



大正二年度上半期

預金貸付金及利息歩合

科目	前期		本期		最利息高	最歩合
	金額	末額	金額	末額		
預金	五五四七、八三〇	四〇一七、七〇〇	二六六、六四〇	一〇四六、二四八〇	日歩四錢五厘	日歩三錢
貸付金			日歩六分五厘	年六分五厘	日歩一錢三厘	年六分一錢

金銀出納

營業日數	入金	高	出金	高
一四九	一四八七、三二六八〇		一四九四、九四二、四五	

諸預金

勘定科目	總預金高	拂戻金高	現預金高
定期預金	二二四、〇六七〇	四、六九五、〇〇〇	七七、二五六七〇
當座預金	五、九四八、一三五〇	四七六、〇五九、八八〇	五三、四一五、三七〇
小口當座預金	一四八、三四一、四七〇	一〇五、〇四三、三三〇	四三、一九九、一一〇
別段預金	一五、三六三、三二〇	一四、八四〇、九〇〇	五、五二一、三三〇

借入金

勘定科目	總借入高	返済高	現借入高
再割入手形	二、五五〇、〇〇〇	六、八〇〇、〇〇〇	五、七五〇、〇〇〇

諸貸金

勘定科目	總貸高	返済高	現貸高	口數
貸付金	九、三二一、〇〇〇	六、九六五、〇〇〇	二、四七〇、〇〇〇	九
當座預金貸越	六、四七〇、〇六〇	六、一八八、四四〇	二、二八六、六四〇	二

右金額ヲ抵當質物ノ種類ニヨリ區別スレハ

現貸金高	抵當質物種類
四〇〇、〇〇〇	社債
二六八、六四〇	株券
六〇〇、〇〇〇	地所並ニ建家用
一、三四七、〇〇〇	信

割引手形

手形種類	枚數	當金	所額	枚數	地金	所額
約束手形	一七七		二、五二七、六〇〇	三四		一、四一五、五六八〇



荷爲替手形

各地 枚数	向ケタルモノ 金額	各地 枚数	ヨリ受ケタルモノ 金額
二五	五七七五〇〇〇	一九	六七〇〇〇〇

送金爲替手形

爲替金種類	各地 枚数	向ケタルモノ 金額	各地 枚数	ヨリ受ケタルモノ 金額
普通	八八	三四六九八四〇	三三九	一四三六三九〇

右ノ内組戻シタルモノ

爲替金種類	各地 枚数	向ケタルモノ 金額	各地 枚数	ヨリ受ケタルモノ 金額
普通	一	五〇〇〇	三	三三〇七五〇

代金取立手形

手形種類	枚数	當金	所	枚数	他金	所
約束手形	二	五〇〇〇〇		一		
爲替手形	三五	五七八八四〇		一六	八七九五〇〇	
小切手	二	一五五二〇〇		一七	八二二三〇〇	

右ノ内仕拂拒絶ノ爲メ組戻シタルモノ

手形種類	枚数	當金	所	枚数	他金	所
約束手形	一	一三〇〇〇		一		
爲替手形	二	七九一三〇		三	六二〇〇〇	

大正二年度下半年期

預金、貸金、利息、歩合

科目	前期	末期	利率	歩合
貸金		五五四七八三〇	日歩四分	日歩三分
預金		四〇一七三七〇	年六分五厘	日歩一分
			日歩一錢二厘	日歩一錢

金銀出納

營業日数	入金	出金
一四二	一〇一八三二五五五	九九六六四四六〇

諸預リ金

勘定期預金	總預金高	拂戻金高	現預金高
九四八八七七〇	三六七六七三〇	六五〇〇〇〇	二九八八七七〇
		三五〇五九七八〇	一七〇一九四九〇



勘定科目	總預金高	拂戻金高	現預金高
小口當座預金	九九七六八六〇	七九六九九六〇	一〇〇,七二七〇
別段預金	三,九七六九〇	三,七九四〇〇	一三,八九〇

諸貸金

勘定科目	總貸高	返済高	現貸高	口數
貸附金	七五五,〇〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	五三三,五〇〇	三
當座預金貸越	一三,四九〇,一〇	一,一六二,九〇	一三,三二八,二〇	二

右貸金高ヲ抵當質物ノ種類ニヨリ區別ス

現貨金	高	抵當質物種類
一五,〇〇〇	社債	
二,三二,八二〇	株券	
五,三〇〇,〇〇〇	信託用券	

割引手形

手形種類	枚數	當金	所	枚數	他金	所
約束手形	九三	五〇六,七五〇,〇〇		二二	八八,五九六,〇〇	

荷爲替手形

各地	向ケタル分	各地	ヨリ受ケタル分
七二	四四一,六九三,〇〇	八	四六二,四四〇

送金爲替手形

爲替種類	各地	向ケタル分	各地	ヨリ受ケタル分
普通	七六五	一五二,七四八,八三〇	三〇九	一〇七,八七三,〇〇

代金取立手形

手形種類	枚數	當金	所	枚數	他金	所
約束手形	一三	四七,七九六,〇〇		二	四九〇,〇〇〇	
爲替手形				三	一,五五〇,〇〇〇	
小切手				一五	一五,一〇〇,一〇〇	

右代金取立手形ノ内仕拂拒絶ノ爲メ組戻シタルモノ

手形種類	枚數	當金	所	枚數	他金	所
爲替手形	四	六五八,六八〇				



### 第八 網走海產物市場

#### 總 說

當市場ハ西海岸ニ於ケル岩内市場ト殆ント同一ノ状態ニアリ即チ小樽、函館南商圏ノ境界點ニシテ以北ハ小樽ノ勢力圏ニ以東ハ函館市場ノ其ニ屬スト雖トモ寧ロ後者ヲ主トスコハ從來ノ資本關係其他ニヨルトハ云ヘ現今ノ狀況ニ於テハ海運貨ニ於テモ函館送リハ小樽送リヨリモ約一割ノ安價ナリ明治四十五年鐵道開通以前ハ殆ト全部函館ヲ中心トシ物資ノ供給海陸物產ノ輸出等ノ關係ニ有シ其取引モ亦延取引ナリシ然ルニ鐵道ノ開通並ニ一般交通ノ發達ト共ニ漸ク其ノ舊態ヲ脱シ小樽釧路ノ勢力侵入スルト共ニ取引モ亦現金トナリ彼我ノ信用ハ互ニ明瞭トナルニ從テ其取引ノ狀況モ大ニ革新セラル、ニ至レリ

當市場ハ毎年十二月下旬ヨリ翌年四月上旬迄休航期ニシテ全ク運輸杜絶ノ状態トナリシモ鐵道開通後ハ此ノ期間專ラ汽車便ニヨルニ至レリ然レトモ其運賃海運ニ比シ二倍乃至四倍ナルヲ以テ他ノ時期ニアリテハ輸出入貨物ノ大部分ハ尙海運ニヨル翻テ海運ノ狀況ニ見ルニ補助航路及社外船共ニ毎月平均十二三回外ニ千噸内外ノ材木積取内地直航船每年百五六十艘ノ入港アリ從テ近時ニ至リ漸ク物資ノ内地直移入漸次増加ノ傾向ヲ呈セリ

今當市場ヲ水産業ノ見地ヨリ見ル時ハ到底根室市場トノ競争甚タ困難タルヘタ又之ヲ釧路、室蘭等ニ比シ本道内地ヘノ水産物供給上優勝地ト云フヘカラス然レトモ築港ニシテ完成ノ曉ハ北見沿岸ノ漁獲物ヲ集聚シ以テ本道内地ヘノ供給必シモ悲觀スヘキニ非ス少クトモ北見沿岸ニ於ケル將來ノ漁業發展上一中心市場タランコトヲ疑ハス

#### 一、製品市場

(ア) 市場ニ顯ル、商品並ニ需給方面ト時期

肥料 練粕、雜粕、鮫粕

特用品 貝柱、開鱈、小鮫鱈、鱈鹽藏品、干公魚等

需給方面ト時期

品名	時期	供給地	需要地
練粕	六月	網走	東京、名古屋
雜粕	五月—十月	同上	同上
開鱈	六月—七月	網走	函館
貝柱	七月—八月	網走	同上
小鮫	同上	同上	同上
鹽藏鱈	六月—八月	同上	東京、函館、旭川、岩見澤、夕張
干公魚	四月—五月	網走	内地

#### (イ) 海產物價格

當地ノ海產物價格ハ其主要仕向地タル函館市場ノ相場ニヨリ決定セララル、モ粕類ノ如キ内地需要品ハ近時直取引開始ノ機運ニ向ヒタルノ結果主トシテ其取引地タル横濱ノ市價ニヨリナ左右セララル、ニ至レリ而シテ實際ノ取引ニ際シテハ小樽、神戸、横濱市場ノ相場ヲ參考トス

#### (ウ) 物價表

明治四十三年分







品目	單位	名立	稱物	三月	六月	九月	十二月	平均
大麥	一石	本道産		六〇〇〇	八〇〇〇	八〇〇〇	七〇〇〇	七二五〇
大豆	同	同		九〇〇〇	九五〇〇	一〇〇〇〇	九〇〇〇	九三七五
小豆	同	同		一三〇〇〇	一五〇〇〇	一五〇〇〇	一三〇〇〇	一四七五〇
鯉節	一貫	土佐		六五〇〇	六五〇〇	六五〇〇	六五〇〇	六五〇〇
牛肉	百英斤	本道産		一五〇〇〇	一五〇〇〇	一五〇〇〇	一五〇〇〇	一五〇〇〇
醬油	一石	越後		三六〇〇〇	三八〇〇〇	三八〇〇〇	三八〇〇〇	三八〇〇〇
蠶繭	十枚	佐渡		一五〇〇〇	一五〇〇〇	一五〇〇〇	一五〇〇〇	一五〇〇〇
鹽	百石	本土		一七〇〇〇〇〇	一七〇〇〇〇〇	一七〇〇〇〇〇	一七〇〇〇〇〇	一七〇〇〇〇〇
鯨	百石	本道		一三〇〇〇〇〇	一三〇〇〇〇〇	一三〇〇〇〇〇	一三〇〇〇〇〇	一三〇〇〇〇〇
鯨粕	百石	本道		一三〇〇〇〇〇	一三〇〇〇〇〇	一三〇〇〇〇〇	一三〇〇〇〇〇	一三〇〇〇〇〇

(エ) 貨物ノ集散方法

生産者トノ取引ハ大抵仕込又ハ買附ニシテ貨物ハ直ニ函館又ハ内地商人へ委託ヲナスモノ多ク當地ニ於テ庫入シ以テ金融ノ便ヲ計ル如キハ甚タ少ク取引市場ヨリ金融ヲ付クルヲ普通トス而シテ荷爲替ハ普通七乃至八掛ナリトス

(オ) 網走ニ於ケル商人ノ組合及商慣習

當地ニ於ケル海産商ヲ初メ一般商人ノ組合ハ海陸物産商組合、網走商業組合ノ二組合アルモ未タ十分ノ活動ナキカ如シ其他一般ノ商習慣トシテ特ニ記載スヘキ事項ナシ

二、鮮魚市場

鮮魚市場序説

當地ニ於テハ特ニ鮮魚市場ト稱スヘキモノナク單ニ三十餘人ノ鮮魚商アリテ生産者ニ就キ各自適宜ニ相對賣買ヲ行フニ過キス右ノ中稍ヤ資力アルモノハ僅カニ三四人ニ過キスシテ大部分ノ鮮魚ハ彼等ノ手ニミリテ旭川ニ仕向ケラル注意スヘキハ鮭鱈ハ從來鹽藏ナリシモ大正元年鐵道開通後ハ鮮魚ノマ、移出スルノ狀況ヲ呈セリ

(ア) 市場ニ顯ハル、鮮魚ノ供給地時期及數量價格

重要鮮魚	供給地	時期	數量	價額
大鮭	常呂及斜里	四月—六月	—	五〇〇〇
鮭	網走、斜里、常呂	七月—八月	七〇〇	七〇〇〇
公鮭	同上	九月—十一月	一〇〇〇	一〇〇〇〇
鮫	常呂、斜里、網走	七月—八月	—	三〇〇〇
計				三五〇〇〇

此ノ外雜魚ヲ合計スル時ハ一ヶ年取引總鮮魚ハ約五万圓ニ上ルコトヲ推知シ得

(イ) 鮮魚取引ニ關スル慣習

當地ニ於ケル鮮魚取引ハ生産者ト直接ニ相對賣買ナルヲ以テ別ニ一定ノ慣習ナク從テ他魚市場等ニ見ルカ如ク委託ニヨル手數量其他ノ規定ナシ然レトモ二三ノ有力鮮魚商ハ生産者ニ對シ前貸又ハ仕込ノ關係ヲ有スルモノ少カラス

(ウ) 最大小入荷ノ時期



最大入荷ノ時期ハ六月以降十一月迄ニシテ殊ニ秋期ヲ最トシ冬期殊ニ十二月ヨリ翌年三月迄ハ海上氷結又ハ危険ノ爲メ出漁殆ントナク寧ロ釧路旭川方面ヨリ入荷スルノ状アリ

(エ) 鐵道開通後鮮魚市場ニ及セル影響

鐵道開通前ハ鮮魚輸送甚タ少ク多ク鹽藏トナシ殊ニ鮭鱒屬ノモノ然リシカ開通後ハ旭川其他ニ向クル數量著シク増加スルニ至リ從テ一般魚價約一割ノ高騰ヨリ來シタリト云フ

三、移出 入海産物表

網走港道外移出海産物表

品名	明治四十四年度		仕向地	品名	大正元年		仕向地
	數量	價額			數量	價格	
鹽 鮭	三三三	六六〇	大 阪	四三	九八九	東 京	
鮭 類	二九	四三五	東 京、 四日市、 名古屋、 大阪	七	五〇	神 戶	
海 扇	三九〇	三三八	東 京	一〇七	一九四〇	大 阪	
計	二一〇〇	一四五二	東 神、 新 戸、 橫 濱、 京 濱	二九七	二九七九	阪 庫	

網走港道内移出海産物表

(四十四年)

品目	輸 出		仕向地	品目	輸 入		仕向地
	數量	價格			數量	價格	
干 鮑	四三八〇	二二九〇	同 館	食 鹽	一〇〇〇	三三三	小 樽
其他 鮑	二〇	二四〇	同 館	若 布	二五	四〇	同 樽
同 魚 類	二五	一五八	同 館	計	一〇二五	三三三	同 樽
鯨 鮑	八	八〇	同 館				
鯨 鮑	三	六〇	同 館				
鹽 鮑	三七	二五六	同 館				

同道内移出 入海産物表 (大正元年)

品目	輸 出		仕向地	品目	輸 入		仕向地
	數量	價格			數量	價格	
干 鮑	一〇〇	七五	同 館	鹽 鮑	一九六	三三三	良 牛







北見地方ノ補助航路ハ日本郵船會社ニシテ東西ノ航路アリ東ハ函館ヲ起點トシ釧路、厚岸、根室、羅臼及斜里等ニ寄港毎月三回ノ往復アリ西ハ小樽ヲ起點トシ稚内、枝幸、幌内、雄武、興部、沙留、湧別、常呂ニ寄港シ毎月八回以上ノ往復アリ其他社外船函館ヲ起點トシ定期ノ如ク二回乃至三航海スルモノ藤野回漕店ノ蛟龍丸(七百七十七噸)伊吹丸(九百九十九噸)ノ二艘アリテ是等ヲ合算スルトキハ毎月(冬期ヲ除ク)十二三回以上ノ海路交通アリ其他材木積取ノ爲メ二千噸以上五千噸ニ至ル大船ノ入港スルコト一ケ年百五六十艘ニ達ス

解及仲仕人

解組合ハ昨年解散シ現今ハ其組合ナシ解船數十三艘、内補助船五艘ヲ含ム仲仕人ハ專業者ナク解人夫ノ兼業トシ賃金ハ單ニ解賃トシテ請求スルノ状態ナリ今左ニ重ナル賃金ヲ示セハ

米 一石 十四錢五厘 魚 粕 一俵 十三錢 鹽 一俵 六錢

當港ヨリ重要市場間ノ運賃表

品名	最高—最低	小樽	函館	横濱	神戶	新潟
米一石	最高 六七〇 最低 六〇〇 平均 六三五	七〇〇	七〇〇	九八〇	九八〇	一〇〇〇
雜穀一石	同上	六〇〇	六〇〇	九〇〇	九〇〇	一〇〇〇
魚粕一石	同上	五五〇	五五〇	九〇〇	九〇〇	一〇〇〇
木材一石	同上	九〇〇	九〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇

網走港出入船舶

(大正元年度)

類別	定期		不定期		合計	
	船數	噸數	船數	噸數	船數	噸數
入港	七	10,111	七	3,146	14	13,257
出港	七	10,111	七	3,146	14	13,257
計	一四	20,222	一四	6,292	二八	26,514

(ウ) 保險業

陸上保險トシテハ小樽貨物火災保險株式會社(詳細ハ小樽市場參照)海上保險トシテハ横濱火災海上運送信用保險株式會社 神戸海上運送火災保險株式會社、日本海上運送火災保險株式會社ノ各代理店アリ

(エ) 銀行業

當地ニ於ケル銀行業者ハ根室銀行支店、北海道銀行支店ノ二行トス今最モ廣ク活動セル前者ニ就テ調査セルモノヲ記シ以テ一般金融界ノ狀況ヲ知ルニ參考トス

當地ニ於ケル一般金融狀況ハ五、六、七月頃ハ主トシテ材木輸出ノタメ資本ノ運轉繁多ナリ然レトモ多クハ内地ヨリノ送金取次ニ過キス而シテ一般商取引ハ鐵道開通前ハ延取引ニシテ年一二回ノ決算ナリシモ開通後ハ現金取引トナリ又當地商人モ農村ニ於ケル取引ヲ開始シ此等ノ事情ハ從來ノ延取引ヲ全ク打破シテ生産地並ニ需要先ニ於ケル兩者ノ商人ト當地商人トハ互ニ其信用ヲ知悉スルコトヲ得ルニ從リ從テ開通前トハ大ニ其趣キヲ異ニセリ

左ニ根室銀行支店ニ於テ調査セルモノヲ示セハ次ノ如シ

送金手形 (四十四年度)







科目	大正元年下半年		大正二年上半年	
	金額	單位	金額	單位
現貨	五五四一〇〇〇	円	六二七五〇〇〇	円
總返	十四三〇〇〇〇〇	円	七三六〇〇〇〇	円
割引手形	五四一〇〇〇〇〇	円	五三三〇〇〇〇	円
當所荷爲替手形	一四一〇〇〇〇〇	円	一四三〇〇〇〇	円
他所同	一四四三九五〇〇〇	円	一六六七〇〇〇〇	円
送金受	七七八二〇〇〇	円	三四五九〇〇〇	円
送金拂	四七四六八四〇〇〇	円	一六二七〇〇〇	円
當所代金取立手形	五五五四〇〇〇	円	一〇六四〇〇〇	円
他所代金取立手形	四〇八〇五〇〇〇	円	三〇七九六五〇〇〇	円
其他	四一五九〇〇〇	円	四六四七〇〇〇	円
合計	六八六〇〇〇	円	四〇一六〇〇〇	円

### 第九 根室海產物市場

#### 總說

根室ハ函館市場勢力圏内ニ於ケル水産物ノ一重要集散地ニシテ從來ヨリ物資並ニ資本ノ上ニ互ニ密接ノ關係アリシカ近年ニ至リ之レカ勢力圏ヲ脱シテ既ニ内地殊ニ東京、兵阪地方ト直接取引ヲ開始スルニ至レリ然レトモ特種ノ水産物（昆布並ニ鮫鱈ノ如キ）ハ今尙函館市場ト取引ヲ繼續セリ

當地ノ全輸出額ハ約四百七十餘万圓ニ達シ全輸入額ハ畧々之ニ相對ス而シテ全輸出入總額約九百万圓ノ九割以上ハ實ニ水産物ノ占ムル處ニシテ内九万圓ハ海外直輸出品トス而シテ該金額中道内移入三百七十餘万圓道外輸入五十餘万圓ニ對シ道内移出三百七十餘万圓道外移出百餘万圓ナリ之ヲ以テ見レハ當地ノ本道ニ對スル經濟上ノ價值決シテ輕視ス可カラス尤モ道内移出中ニハ函館仕向ケノ大部分ハ直ニ道外移出トナルモノトス之レヲ要スルニ根室ハ本道東北端ニ於ケル水産業ニ關スル唯一ノ策源地タルト共ニ集散地ナリ殊ニ千島水産業ノ開發ニ關シテハ當市場ノ活動蓋シ大ナルモノアリ

將來釧根鐵道開通ノ曉ハ函館市場ニ對スルヨリモ寧ロ釧路市場トニ於テ密接ノ關係ニ立チ一方ニ於テ從來ノ如ク内地市場ト直接取引ヲ繼續スルト同時ニ他方ニ於テハ少ナカラス釧路市場トノ商關係ヲ密接ナラシムルニ至ラン然レトモ釧路ト對立シテ純然タル商港的發展ヲ望ムハ稍困難ノ事ニ屬ストスルモ北見一半ヨリ根室全沿岸並ニ千島諸島ニ於ケル水産業ノ企劃地トシテ將タ本道ニ於ケル東北方面ノ漁港トシテハ將來甚タ有望ナル地點タルヲ疑ハス此見地ヨリシテ漁港ノ修築ヲナスト同時ニ千島諸島（村上灣迄）函館港、内地港及支那方面ニ於ケル直接航路ノ開始ト共ニ一般交通機關ノ便ヲ開ク事最モ急務ナリト信ス

#### 一、製品市場

#### 製品市場序說



當市場ニ於ケル一ケ年ノ移入水産物ハ其總額約百六十三萬六千餘圓ヲ算シ内鮮魚ハ僅カニ一萬圓内外ニ過キスシテ殆ント其全部ハ製造品トス就中多額ノモノハ蟹ヲ初メ其他ノ罐詰類約八十万圓内外昆布類ノ約二十五萬圓内外鹽鮭、鱒類ノ約二十萬圓内外トス此等ハ一方ハ落石花咲及色丹、水晶、國後、諸離島ヨリ他方ハ羅臼、知床、斜里方面ヨリ供給シ移出ハ多額ニシテ約四萬圓ニ達シ蟹罐詰ノ百萬圓、昆布類ノ八十萬圓、鱒類ノ五十餘萬圓、鹽鮭、鱒ノ二十五萬圓及鮭鱒罐詰ヲ初メ其他ノ罐詰類四十八萬圓ハ其重要ナルモノトス而シテ其仕向地ハ兵阪、東京、橫濱及函館ヲ主トス鹽干魚類ハ僅カニ本道中釧路、厚岸、霧多布、網走及函館等トス故ニ當市場ノ水産製造品取引ハ大部分兵阪、橫濱方面ニシテ道内ニ於テハ函館ヲ主トシ當市場ニ對シ函館ノ勢力ハ未タ必スシモ輕視スルコト能ハス

外國直輸出水産製造品ハ約九萬圓ニ達シ仕向地ノ重ナルモノハ上海、天津、漢口、大連、鎮南浦、晚香波ニシテ昆布、鹽干魚罐詰類ヲ主トシ殊ニ昆布ハ全額ノ九割ヲ占ム

(ア) 商品ノ方面ニ關スル調査

(イ) 市場ニ顯ハル、商品

食料品

魚貝類 鹽鮭、鹽鱒、筋子、棒鱈、海參、貝柱、鮫鱈、昆布、乾北寄、蟹身、蛇身

罐詰類 蟹罐詰、鱒罐詰、蝦罐詰、北寄罐詰、帆立罐詰

工業用品 鯨油、鱈油、鯨油、鯨油

藥用品 沃度、鹽化加里

肥料 鯨粕、鯨粕、鯨粕、鯨粕、蟹粕、雜粕

(ロ) 品位等級

鹽鮭鱒 等級ヲ設ケス品位鑑定ノ標準ハ海モノヲ上品トシ河モノヲ下品トス而シテ形態大肥滿セルモノ鱗ノ銀色光輝アルモノ鹽目ノ適當ナルモノ時日ヲ經過セサルモノヲ上品トシ黑色(毛走り)鱗剝脱セルモノヲ下品トス

棒鱈 製品ニ等級ヲ附セス水産組合ノ検査ニヨルモ尙形態小ニシテ洗滌乾燥充分ナルモノヲ良品トス

海參 等級ノ設ケナク商人相互ノ目鑑ニヨリ品位ヲ定ム即チ粒ノ大小色澤疣立ノ善惡砂食ヒノ有無乾燥等ニヨル一斤三十乃至五十ノ大粒物多數ナリ

貝柱 ハ三ツ割四ツ割ヨリ六ツ割アリ清國ニテ三角ト稱ス八尺物ハ品位一定セサル爲メ潛水器ニテ漁獲セルモノニ比シ一割安ナリ色澤、乾燥、形態可ナルモノヲ上品トス

鮫鱈 小鮫鱈ニシテ胸部及尾部ノ鱈ノミヲ撰別セル比較的大羽ノモノニシテ肉ノ附着少ク乾燥充分ナルヲ可トス

蟹罐詰 等級ハ一等、二等、三等トス一等ハ雄蟹ヲ以テシ其ノ肉量ノ撰澤ハ同業組合ノ規定ニヨルモノナルヲ以テ製品ハ殆ント一定セリ二等ハ一等品ニ亞クモノ三等ハソボロ肉ヲ以テ製ス

鮭鱒罐詰 一等、二等トス其等差ヲ生スルハ主トシテ肉ノ崩壞液汁ノ混濁等ニヨル而シテ一等、二等ノ市價ノ差ハ五十錢乃至一圓以下トス

昆布 品位ノ等級ハ水産組合ノ定ムル處ヲ其マ、採用セルモノニシテ一等、二等、三等トス而シテ一般ニ當地方産ノ中水品島ノモノ最モ良品ニシテ多來島ノモノ之ニ次キ此ノ兩者ノ間ニハ百石ニ付約十圓ノ差アリトス國後島産ノモノ最モ下等品トス鑑定法ハ產地別老若ノ如何ヲ見ル外他地方ト異ナルコトナシ一般ニ二百十日過キノモノハ夫レ以前ノモノニ比シ約三割方低價ナルヲ常トス

鯨搾粕 ハ極上、上々、上次ト標準アレトモ當地ニテハ上、中、次ト區別シ目鑑ニヨリテ原料鮮度、煮熟度、乾燥度、砂ノ有無、色澤(山吹色ヲ可トス)銀度(光輝アルヲ銀上ト呼フ)等ヲ標準トシテ鑑定ヲ行フ

其他鯨粕 肉多キヲ好ム(半身粕)鯨粕ハ殊ニ色澤ヲ撰フ鯨粕モ同様乾燥、色澤及砂ノ混合ニ注意スルハ勿論ナルカ三者共黑色ノ地アルヲ忌ム蟹粕ハ細粉シ砂ノ混入ナキヲ良品トス



(は) 賣買單位及價格

賣買單位 昆布、棒鱈 百石 罐詰類 一箱(一斤罐ハ四打) 海參、貝柱、鮫鱈 百斤 鹽鮭鱈 圓貫  
魚油 箱 粕類 百石

當地貿易品相場ハ近時直輸出ヲ爲スニ至リシ結果仲繼港タル函館、神戸、横濱ノ相場並ニ支那市場相場及銀塊相場等ヲ參酌シテ決定ス

棒鱈 當地品ニ限り九分迄支那輸出品ナルカ爲メ夏期香港ニ出荷セサル時季ハ格安タルヲ免レス爲メニ夏期前ニ輸出シ盡スヲ普通トス

海參 當地産頗ル良品ニシテ根室海參ノ名聲高ク從テ價格ニ變動ヲ來スコト稀ナリ

鹽鮭鱈 ハ函館市場ノ相場ヲ標準トス但シ東京ノ其レヲ參考ニ供ス

五月ノ走り物ヲ櫻鱈ト稱シ價格頗ル高ク六月中旬ニ入り本鱈ノ出廻トナレハ價額ハ下落ノ一方ナリ是レ品傷ミノ恐レアルト沿海洲勘察加物ノ入荷ハ其主ナル原因ニシテ則チ五、六、七、八月ト次第ニ下落シ十月頃ニ至レハ漸次價格ハ落付ヲ示スヲ通例トス而シテ時々價格ニ小變動ヲ示スハ需要地タル東京近海ノ鮮魚ノ出廻ノ狀況ニヨル秋口ニ至レハ安價ニシテ一圓ニ付二貫四百多ヨリ五貫目ノ間ヲ上下ス

蟹、海老罐詰類 米國其他ノ相場ヲ標準トシ横濱、神戸等ノ商人ニ於テ生産者ト隨時相場ヲ決定ス但シ商人ト産者トノ間ニ資金融通ノ關係アル時ハ例外トス本品ハ輸出品ナルト共ニ其需要大ナルニ反シ其供給ニ限リアルヲ以テ一ケ年中ニ於テ定期的ノ高低ヲナサス寧ろ漸次高價トナルノ傾向アリ今參考ノ爲四十二年ニ至ル一等品相場ノ昇騰ヲ示サン

年次	函 價 格		年次	函 價 格	
	一 磅 罐	半 磅 罐		一 磅 罐	半 磅 罐
四十一年	一、一〇〇	一、二〇〇	四十四年	一、六〇〇	二、一〇〇

年次	函 價 格		年次	函 價 格	
	一 磅 罐	半 磅 罐		一 磅 罐	半 磅 罐
四十二年	一、四〇〇	一、九〇〇	大正元年	一、九〇〇	二、二〇〇
四十三年	一、五〇〇	二、〇〇〇	大正二年	二、〇〇〇	二、六〇〇

鮭、鱈、北寄、帆立、罐詰類、東京、横濱相場ヲ標準トス

尙在荷ノ多少ヲ考慮スルハ勿論ナリ殊ニ鱈ニ於テ然リトス四十四年迄ハ製造數量多ナラサシ爲メ五月出廻リノ初期常ニ高價ナルヲ普通トセシカ翌年ヨリ生産過剩ト北米産鮭罐詰ニ壓倒セラレ毎年低落ノ一方ナリ北寄、帆立罐詰ハ殆ト變動ナシ今大正二年ニ至ル數年間ノ價格ヲ表示セハ左ノ如シ

年次	鮭 罐 詰		北寄 罐 詰		帆立 罐 詰		年次	鮭 罐 詰		北寄 罐 詰		帆立 罐 詰	
	一 磅 罐	半 磅 罐	一 磅 罐	半 磅 罐	一 磅 罐	半 磅 罐		一 磅 罐	半 磅 罐	一 磅 罐	半 磅 罐	一 磅 罐	半 磅 罐
四十一年	五、〇〇	六、〇〇	六、五〇	六、五〇	六、五〇	六、五〇	四十四年	五、〇〇	六、五〇	六、五〇	六、五〇	九、五〇	九、五〇
四十二年	六、五〇	六、五〇	六、五〇	六、五〇	六、五〇	六、五〇	大正元年	五、〇〇	六、五〇	六、五〇	六、五〇	九、五〇	九、五〇
四十三年	六、五〇	六、五〇	六、五〇	六、五〇	六、五〇	六、五〇	大正二年	五、〇〇	六、五〇	六、五〇	六、五〇	八、〇〇	八、〇〇

沃度及鹽化加里 東京若シクハ大阪ノ相場ヲ標準トス内地産沃度ノ多少等ヲ參酌シ價格ヲ上下スルコトナシ之レ實際ニ於テ沃度ノ製出量ハ北海道及内地共殆ト一定セルヲ以テナリ

昆布 當市場ノ相場ハ内地神戸、大阪外國ハ上海、天津ノ相場ヲ標準トスルモ亦一方産地ニ於ケル産額ノ多少等ヲ顧慮ス殊ニ産者側ヨリ見ル時ハ一漁期中ニテ一等、二等昆布ノ平均相場カ百石ニ付六百圓以下ニアリテハ收支相償ハサルノ事情アルヲ以テ此點ニ於テモ參考ニ供ス今産者ノ生産スル數量ヲ各等級別ニ割合ヲ示セハ

一等品 八、五 二等品 一、〇 三等品 〇、五  
而シテ八月最高ク次テ一ケ月ヲ經タル後(九月半頃)ニ至レハ最低トナリ更ラニ十二月ニ入りテ漸次恢復シ三月ニ至リテ上騰ス而シテ八月ニ於テ高キ所以ハ在荷ノ少ク一時ニ支那商ノ購買力ヲ促スカ爲ニシテ九月ニ最低ナルハ一時購買ヲ中止



スルニ依ル(從來ノ經驗ニヨレハ翌年春季迄持越シ多少ノ利益アリタルハ只ニ今年ニ過キス是ヲ以テ見ルモ特別ノ事情ナキ限リハ直ニ賣リ放ツヲ利トス)而シテ最高最低價ノ開キハ普通二百圓内外トス  
粕類 ハ東京及四日市ノ相場ニヨリテ決定ス今各種類毎ニ示セハ鯨粕ハ西海岸ノ春鯨粕ノ相場ニ左右セラル、鯨粕東京名古屋ヲ中心トシテ消費セラレ一般ニ上品ナルカ故ニ他肥料ノ價格ニ左右セラル、コト殆ントナシ、鯨粕ハ樺太物ノ相場ニテ押サル、蟹粕ハ需要地狭少生産額モ少シ從テ需要地タル越中滑川ノ商人ト當地商人トノ間ニ於テ商談行レ他ノ影響ナシ

(イ) 入荷方面ニ關スル調査

(v) 供給地及期節

鹽鯨 根室支廳管内一圓到ル處ニ産スルモ殊ニ國後郡大瀧村及目梨郡羅臼ヨリ魚ノ個所ヲ主産地トス出廻期節ハ鹽鯨ハ六月ヨリ八月迄鹽鯨ハ九月ヨリ十一月迄テ  
棒 鯨 國後郡ヲ主産地トシ各方面ニモ産ス年ニヨリ多少アルモ當市場ニ出廻ル數量ハ凡ソ八千石期節ハ六月ヨリ八月最モ多シ  
海 參 國後郡ノ西海岸ヲ主トス期節ハ八月ヨリ九月トス  
貝 柱 水晶島、志發島、國後郡泊ヲ主トシ其他別海等多少産ス期節ハ七月下旬ヨリ九月ニ至ル  
鮫 鱈 斜里知床岬間國後郡泊其他及各離島トス出廻期節ハ八月中旬ヨリ十月トス  
昆 布 落石、花咲、友知、齒舞、瑤瑤瑠及水晶、志發並ニ國後島トス就中主ナルハ瑤瑤瑠ノ離島及花咲郡ヨリ落石ニ至ル間トス入荷時期ハ八月ヨリ十月迄トス  
蟹 罐 詰 國後、色丹、瑤瑤瑠ノ離島、擇捉トス五月始ヨリ六月末占守、幌延島ハ八月若シクハ九月  
鱈 罐 詰 落石、友知六月中旬國後、擇捉其他七月ヨリ九月  
蝦 罐 詰 國後郡及野付郡、花咲郡、瑤瑤瑠村離島ニシテ七月ヨリ十月

北寄罐詰 國後、野付等八月ヨリ十月

帆立罐詰 水晶、志發島八月ヨリ十月

鯨 粕 類 鯨ハ根室ヨリ目梨ニ到ル沿岸國後ノ北岸三分ノ一ハ大鯨小鯨粕ヲ花咲郡ノ外海岸ハ鯨、鯨粕ヲ産ス出廻期節小鯨ハ三月ヨリ大鯨ハ五月下旬夏鯨六月以後トス

鯨 粕 ハ管内到ル處ニ産スルモ野付、目梨、根室三郡ニ多シ期節ハ四月下旬ヨリ六月上旬迄

鯨 粕 ハ國後東海岸北岸ハ中央三分ノ一トス就中白糠泊ニ多シ期節ハ五月上旬ヨリ七月迄

雜 粕 ハ色丹、羅臼、多樂島、花咲、外濱ヲ主トス期節ハ四月ヨリ十二月迄

鯨 粕 ハ知床岬ヨリ斜里間ノ沿岸期節ハ八月中旬ヨリ十二月迄

蟹 粕 ハ國後東海岸殊ニ東沸ヨリ留衣別迄及志發島トス又花咲蟹粕ヲ産ス期節ハ八月中旬ヨリ十月迄トス

魚油類 産地ハ鯨粕ト同一ナリ然レトモ鯨肝油ハ目梨ヲ主トシ鯨油モ亦同地ヲ主産地トス

(ろ) 生産地トノ取引狀況

生産地トノ取引狀況 全部同一ニシテ資本主及ヒ經營者カ根室以外ニ散在セサルカ故ニ産地取引ハ更ニナク品物ハ全部當港ニ集聚ス商團ハ落石ヨリ根室全沿岸知床半島全部各離島及國後ニシテ此ノ場所ニ於テ漁業ニ從事スルモノハ九分迄根室ヨリ仕込ヲ受ルモノカ又ハ根室ヨリ出渡スルモノカノ二種ニシテ何等ノ關係ナキモノハ只捉鯨島ニ於ケル一分ニ過キス次ニ仕込主ニ種々アリ日用品ノ店主又ハ雜貨店ノ店主アリ仲賣アリ海産商アリ海産問屋アレトモ海産問屋ハ比較的仕込ヲナスコト少ナシ然レトモ現在ニ於テハ仕込主タル海産高又ハ雜貨商モ漸次商機ヲ見テ問屋ノ手ヲ經ス自己ニテ輸出スルモノ生シ來リタルモ其額僅少ナリ以上ノ理由ニヨリ商品ハ大部分當港ニ集散ス而シテ當地ニ於テ商談行ハル

根室物産商組合員ヲ類別スル時ハ左ノ如シ

(一) 純然タル輸出ノミヲ行フ所謂問屋ナルモノ四軒



(二) 問屋ニシテ多少仕込ヲ行ヒ自己ニ集ル商品ノ外他ヨリ買入レ輸出スルモノ五軒  
仲買人九名

(三) 單ニ仕込ヲ行ヒ其ニ對スル貨物ヲ直ニ仲買ノ媒合ニヨリ土地ノ問屋ニ賣却スルモノ十九名但シ時ニ自己ノ名ニテ販出  
スルコトアリ

魚 油 當地ニ於ケル魚油取引ハ頗ル美風アリ即チ受渡ノ際荷主及仲買立合ニテ各箱ヲ開キ水引看貫ヲ行ヒ不足ヲ補フ此  
費用ハ兩者ノ負擔トス(一個ニ付テ、費用五錢ヲ要ス)爲メニ根室産ハ他所産ニ比シ常ニ市價ヨリ一個ニ付十錢ノ高價トス  
蟹罐詰類 產地ヨリ一先ツ根室倉庫ニ搬出シ又ハ一旦自己ノ仕上工場ニ運ヒ京濱、神戸等ノ商人ト取引ヲナスヲ以テ生産  
地取引ナク直ニ販賣取引ニ移ル

沃度及鹽化加里 產地ノ取引ハ大部分根室町商人ノ仕込及工業會社並ニ製藥會社ノ買付ニ依ルモノトス而テ從來根室町商  
人ハ東京、大阪ニ搬出スルカ又ハ買付ノ方法ヲ取り來リシモ明治四十年ヨリ是等出張店根室ニ開業セルヲ以テ目下ハ主ト  
シテ當地ニ於テ現金取引ヲ爲スニ至レリ然レモ尙比較的規模大ナル一二ノモノハ其本店ニ向ケ直接賣渡シヲナス而シテ送  
荷ニ際シテハ普通八掛内外ノ荷爲替ヲ附ス  
生産地取引ニ於ケル仕込ノ條件左ノ如シ

物 資 時價ヨリ二乃至三分高

現 金 金利八月二分乃至二分五厘

口 錢 ナシ

昆 布 生産者ノ大部分ハ問屋ノ仕込ヲ受ケ經營ス(但シ内一割ハ仕込關係ナシ)ルヲ以テ製品ノ大部分ハ仕込主ニ收容セ  
ラル斯クテ問屋ニ集リタル後ハ仲買人アリテ問屋ト問屋トノ間若シクハ生産者(仕込ヲ受ケサルモノ)ト問屋トノ間ニ賣買  
行爲ヲ行フハ上記セル如クナルヲ以テ問屋ハ自己ノ仕込セル製品ト更ニ他商店ヨリ購入セルモノトヲ收容スルコトトナル  
ヘン而シテ其ノ割合ハ殆ント相半ス

仕込ノ狀況ハ左ノ如シ

一、現金ト物資トノ二者ヲ仕込シ現金ハ金利月一分五厘乃至二分物資ハ時價若シクハ時價ヨリ稍々高クス(信用程度其他

ノ理由ニヨリ一定セス)

一、歩下ハ二分五厘乃至五分トス

一、入目ハ五分トス

一、看貫料一駄ニ付壹錢トス

一、自産地至根室港運賃ハ生産者ノ負擔トス

(ウ) 出荷方面ニ關スル調査

(v) 仕 向 地 及 期 節

製品ノ大部分ハ輸出貨品トス

棒 鱈 香港行ノ中繼港トシテ横濱ニ移出スルモノ七八割ヲ占メ他ハ内外國ノ商況ニヨリ神戸、大阪、東京等ニ移出ス

貝 柱 横濱及神戸ニ出ス

海 參 全部函館ニ出ス

鮫 鱈 横濱トス

魚油類 横濱、神戸送リトス

鹽鮭鱈 東京、青森、函館トス

筋 子 青森、函館、東京ニ出ス

罐詰類 仕向地ハ横濱、東京、大阪、神戸ニシテ横濱ヲ主トス

出荷期節 出廻リト同時ニ搬出ス



(ろ) 需要地トノ取引状況

棒 鱈 大部分ハ支那輸出ニシテ内地需要ハ全額ノ一割トス香港行ノ中継港トシテ横濱ニ輸出スルモノ七八割ヲ占メ他ハ外國及内國ノ商況ニヨリ神戸、大阪、東京等ニ移出ス

貝 柱 香港行ノ中継港トシテ横濱、臺灣行ノ中継港トシテ神戸ニ販出ス然レモ近時臺灣ニハ直接取引ノ傾向ヲ生シタリ

海 參 上海向ニシテ函館商人ヲ通スルカ或ハ直接ニ在函館ノ支那商トノ取引トス

鮫 鱈 横濱へ仕向ク

小鯿 關東ニシテ栃木縣ハ赤色ノモノヲ好ミ福島ヨリ宇都宮方面ハ白色ノモノヲ好ム而シテ大鯿及ヒ鯿人ヲ嫌フ

氷魚 東京ヲ仕向地トシ白色ヲ好ム福島、宇都宮方面ニ需要セラル

蟹 粕 田肥ニ使用セラレ越中地方トス

鱈 粕 關東及長野地方ニシテ田肥及桑肥ニ使用サル

鯿 粕 大阪、越中地方

鮫 粕 大阪、四日市、名古屋ニ等分ニ仕向ケラル

魚 油 横濱及神戸ニ仕向ク

鹽 鱈 主トシテ東京、青森、函館ニ仕向ケラレ幾分ヲ支那ニ輸出ス

以上ノ諸品ニ對シ取引法ハ大部分賣付ケニシテ貸込最モ普通ナレトモ着値ニヨルモノ亦少ナカラス鮭鱈ハ主ニ乗値トス荷爲替ハ普通八掛ナルモ海參、貝柱ハ合爲替ヲ付スルモノアリ

蟹及其他ノ罐詰類 蟹ノ取引先ハ横濱、東京、神戸ニシテ殊ニ横濱ヲ主トス今其取引方法ヲ詳述スレハ左ノ如シ

一、青田賣買ニヨルモノ 一、仕込ニヨルモノ 一、隨意契約ニヨルモノ

青田賣買ニヨルモノハ一函ニ付内金トシテ二圓乃至三圓ヲ受取り殘金ハ生産ノ上ニテ精算シ若シ其數量契約額ヨリ以下ナル時ハ他人ノ製品ヲ買入レ渡スカ又一函ニ付二圓乃至三圓ノ違約金ヲ仕拂スル方法ナリ

仕込ニヨルモノハ大体ノ豫定數ヲ定メ之ニ若干ノ仕込ヲ受ケ現金ニ對シテハ利子ヲ附シ生産品渡シニ際シ歩下ケ即チ口錢トシテ五分ヲ仕拂フモノトス利子ハ主トシテ銀行利子ト同様ナレトモ一定セス

隨意契約ニヨルモノハ比較的資金ニ富メル一小部分ノモノ間ニ行ハル

其他ノ罐詰類ノ取引ハ總テ隨意契約ノ方法ニヨルヲ常トス

計算ノ方法ハ貸込又乗値ノ何レカヲ取ルモノトス荷爲替ハ八乃至九掛ニシテ着六十日ニテ決算ス廢罐若シクハ不賣罐ハ六ケ月以内ニアリテハ荷主ノ負擔トシ以後ノ方法ハ買主ノ負擔トス

需要先ニ於ケル賣行ノ狀況 蟹罐詰一等品ハ全部外國(歐米)ニ二等品ノ八割ハ外國ニ二割ハ内國ニ三等品ノ一部ハ新潟方面ニ仕向ケラル、モ其殘部ハ外國輸出トナル鱈罐詰ハ二割ハ外國ニ輸出シ八割ハ内國需要トス但シ目下ノ狀態ハ生産過剩ニ陥レリ其他ノ罐詰類ハ全部内國需要ナリトス

今各種罐詰類ノ仕向地ニ對スル割合ヲ示セハ左ノ如シ

仕 向 地 名	蟹 罐 詰		鱈 罐 詰		北 寄 罐 詰		帆 立 罐 詰	
	割	計	割	計	割	計	割	計
横 濱	七	一	一	一	二	五	一	一〇、〇
東 京	一	一	六	五	二	五	一	一
神 戸	二	一	三	五	二	五	一	一
大 阪	一	一	三	五	二	五	一	一

昆 布 取引先ハ函館、神戸、大阪、横濱、東京ニシテ内函館ヲ主トシ全額ノ六割五分、兵阪三割、京濱五分ノ割合ナリ

シモ四十四年度直輸出ノ開ケタル以來函館其他ヲ經由シテ輸出セラレタル數量ハ減少ヲ來シ上海及天津直輸出量ハ全數ノ一割以上ニ達セリ

取引方法 買付賣付ノ二種ニシテ前者ハ八分後者ハ二分トナス値段ハ貸込着値ノ何レカニ依ル荷爲替ハ普通八掛トス



各仕向地ノ倉敷料倉出入料口錢目引看貫料ヲ示セハ次ノ如シ

仕向	先倉敷料	倉出入料	口錢	目引	看貫料
函館	百石ニ付 九圓	一駄ニ付 一圓	二分五厘	三分七厘五毛	— 錢
横濱	同六圓	—	五分	—	— 錢
大阪	同	—	四分	四分	— 錢
兵庫	同	—	四分	四分	— 錢

支那市場トノ取引 明治四十四年函館經由上海大倉組ニ宛直接輸出セリ其數量四千石ニシテ委託販賣方法ニヨル次ヲ四十五年大倉組ニ二万石支那商ニ七千石ヲ同様委託ニ附シタリ諸掛リ運賃等ハ實際ノ仕切狀ニヨリ揭示スルコト左ノ如シ

葉商店	賣上	勘定書	自根室	何丸積
昆布	150個	22.318斤	@ TB 2.00	446.36
同	78個	11.566斤	@ TB 1.96	225.54
		以上合計スレバ	TB	671.90.....(1)

輸送	入關	税引	共取	他貨
通庫	關引	敷保	除力	料賃
火荷	災渡	保苦	口數	錢料
張當	房仲	買口	數	料
				39.84
				11.40
				13.68
				1.34
				4.56
				13.44
				33.44

換算	算 @ TB	70.00	當時ナルヲ以テ
天津	換算ノ結果	¥. 791.48	
拂運賃	¥. 212.40		
		¥. 579.08	手取金
		以上合計スレバ	TB 554.04.....(3)
			(1)-(2)スレバ
			(3)ハ換算ノ結果

昆布需要ノ狀況 長切昆布ハ當地産ノ八割ハ函館若シクハ横濱、兵阪ヲ經テ若ハ直接天津及上海ニ送致シ二割ハ兵阪ヨリ更ニ九州方面ノ内地需要ニ應スルモノトス又下等昆布ノ一部ハ東京ニテ刻昆布ノ原料ニ使用セラル此處ニ注意スヘキハ從來支那商トノ取引ニ於テハ何等ノ等級ヲ付スルコトナカリシモ四五年前ヨリハ彼等ノ嗜好程度ノ進ムト同時ニ漸次上中下等ノ品位ヲ付スルニ至リシコト之レナリ  
直輸出ノ動機 當地中陳商店ハ從來ヨリ函館在任支那商店トノ取引アリシヲ以テ該商上海本店トノ取引ヲ行フニ至リタルニ外ナラス

二、商工業者団体並商慣習及規約

當市場ニ於ケル主ナル商工業者団体ハ根室物産商組合及根室千島海産物鐘詰業同業組合ナリトス以上ノ外野業者、荷造業者等ノ組合並賃金ニ關スルモノハ下段商業機關ノ部ニ舉ルヲ便トシ此處ニハ專ラ狹義ニ於ケル商業者間ノ団体及慣習等ニ就テ述ヘシ

根室物産商組合規約摘要

- 一、當組合ハ根室町内ニ居住シ海陸物産賣買ヲナス營業者ヲ以テ組織ス
- 一、當組合ノ目的左ノ如シ
- 一、組合員一同ノ信用ヲ増進シ併セテ一同ノ信義ヲ厚フスルコト



- 一、取引上ノ商習慣ヲ一定スルコト
  - 一、各地商買ト氣脈ヲ通シ益販路ノ擴張ヲ計ル事
  - 一、組合員及組合員外トノ間ハス粗製濫造品ノ賣買ヲ防遏シ之カ矯正ヲ計ルコト
  - 一、組合員ニシテ營業上ノ利害ニ關シ意見アル時ハ其旨組長ニ申出協議實行ヲ求ムルコト
  - 一、新ニ當組合ニ加入セントスルモノハ申込書及加入料金五圓ヲ添ヘ組長ニ差出スヘシ
  - 一、組合經費ハ組合員一名ニ付年額金二圓ト定メ毎年二期ニ徵收ス
- 根室千島海産物罐詰業同業組合定款摘要
- 一、本組合ハ根室千島二國ニ於ケル海産罐詰業ノ改良發達並ニ組合員共同ノ利益ヲ圖ルヲ以テ目的トス
  - 一、本組合ノ業務左ノ如シ
    - 一、海産物罐詰罐詰ノ試験調査指導ニ關スル事項
    - 一、製品検査ニ關スル事項
    - 一、販路ノ調査ニ關スル事項
    - 一、組合員間ノ紛議調停ニ關スル事項
    - 一、共進會及品評會ノ開設ニ關スル事項
    - 一、博覽會共進會ノ開設ニ關スル事項
  - 一、本組合ハ組合區域内ニ於ケル海産物罐詰業者ヲ以テ組織ス
  - 一、本組合區域内ニ於テ組合員ト同一ノ業ヲ營ムモノハ其營業ノ種類及住所氏名ヲ記シ組合加入ヲ組長ニ申出ヘシ
  - 一、組合員ハ技術者其他總テ從業者ヲ雇入タル時ハ直ニ組合ニ届出ヘシ
  - 前項ノ届出アル時ハ組合ハ直ニ組合員ニ之ヲ通知スヘシ
  - 一、組合員ハ自己ニ專屬セル原料供給者アリタル時ハ其原料並ニ氏名ヲ明記シ組合ニ届出ヘシ

- 前項第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ同シ
- 一、組合員ハ新ニ技術者ヲ雇入レントスル時ハ組合員タル前雇主ノ承諾ヲ得ヘシ
  - 一、組合員ハ他ノ專屬原料供給者ヨリ原料ヲ購入スルコトヲ得ス
  - 一、組合員ハ各營業期終末毎ニ製造高ヲ組合ニ申告スヘシ
  - 一、本組合ハ組合員ノ製造スル海産物、罐詰、罐詰ニ對シテ検査ヲ行フ検査ニ關スル規定ハ定款ノ一部トシテ別ニ之ヲ定ム
  - 但シ検査ニ關シテ監督官廳ノ指揮命令ヲ遵守スルモノトス
  - 一、組合員ハ製造品ヲ組合地區外ニ搬出シ又ハ組合員ニアラサル者ニ賣渡サントスルトキハ組合ノ検査ヲ受クヘシ
  - 一、検査員製造品ヲ検査シ合格シタルモノニ對シテハ函ノ外部妻板ニ證書ヲ押捺シ又貼付スルモノトス不合格品ノ改造若クハ所在變更セムトスル場合ニ組合ニ申出テ承認ヲ求ムヘシ
  - 組長ハ検査員ヲシテ不合格品ニ對シ時々臨檢セシムルコトアルヘシ
  - 一、何種ノ罐詰罐詰ノ製品ヲ問ハス検査未済品又ハ不合格品ハ之ヲ組合員間ニ讓渡スル場合ヲ除クノ外他ニ販賣シ又ハ地區外ニ輸出スル事ヲ得ス若シ組合地區外ニ搬出シタル組合員アル事ヲ發見シタル時ハ組長ハ是ヲ逆送ヲ命スル事ヲ得
  - 前項逆送ニ要スル費用ハ違背者ノ負擔トス
  - 一、検査済ノ製品ト雖モ其内ヨリ粗悪品若シクハ品位ヲ損シタル品ヲ發見シタル時ハ前検査ヲ取消シスル事アルヘシ
  - 此場合ニ於テハ更ニ検査ヲ受クルニアラサレハ輸出販賣スルコトヲ得ス
  - 一、組合員検査ニ不服アル時ハ再検査ヲ請求スルコトヲ得
  - 前項請求アリタル時ハ役員立會ノ上再検査ヲ行フ
  - 但シ再検査ニ於テ前検査ヲ正當ナリト認ムル時ハ再検査ノ費用ハ請求者ノ負擔トス
  - 一、組合員ノ使役スル技術者其他ノ從業者中ニテ其業務ノ爲死亡又ハ身体ヲ毀損シ將來何等ノ業務ニ堪ヘ得サルニ至ルモノアル時ハ其本人又ハ遺族ヲ救恤スヘシ



- 一、蟹、蝦罐詰罐詰ニハ特ニ左ノ規定ヲ遵守スヘシ
  - 壹封度罐ハ鐵葉板壹函九十五封度以上半封罐ハ九十封度以上「チャコール」又ハ塗漆シタルモノニシテ其質完全ナルモノ
  - 磨損及錆アル鐵葉板使用スヘカラス
  - 製罐ハ卷締ト成スヘシ但シ己ヲ得サルモノニ限り當分外嵌トナスコトヲ得
  - 罐胴ノ合目ハ「ハセ折」トナスヘシ
  - 外嵌罐ヲ使用スル者ハ胴罐ノ切斷面ニ鍍錫ヲ爲スヘシ
  - 蟹、蝦ハ漁獲後直ニ殺シ日光ニ直射セシメス其日ノ内ニ蒸熟シタルモノヲ用ヒ可成即日ニ罐詰罐詰トナスヘシ
  - 剥肉ハ洗滌後輕壓ヲ加ヘ水切ヲ爲スヘシ
  - 剥肉ハ水又ハ湯ニテ洗滌スヘシ
  - 肉ハ良好ナル硫酸紙ヲ以テ包被スヘシ
  - 調理ニハ錆ヲ生セシ及物ヲ使用スヘカラス
  - 肉詰スル場合ハ必ス熱湯ヲ以テ罐又ハ壺ヲ洗滌スヘシ
  - 用鹽ハ一封度罐ニ付苦土、石灰分等ノ夾雜物ナキ本邦二等鹽以上ノモノ又ハ獨逸鹽八分乃至一匁ヲ使用スヘシ
  - 内容肉量ハ製了後ノ固形肉一封度罐ナレハ百五匁以上半封度罐ナレハ五十匁以上トナスヘシ
  - 煮釜ハ常ニ洗滌シ錆ヲ生セシムヘカラス
  - 蟹蝦煮沸用水ハ硫黄分又ハ鐵分ヲ有スルモノヲ使用スヘカラス
  - 礦物性酸又ハ醋酸ヲ使用スヘカラス
  - 排氣孔ハ可成細小トナスヘシ
- 一、組合員常組合地區内外ニ於テ製造シタルモノ又ハ組合員外ノ製造シタル海産物、罐詰、罐詰ヲ移入シ更ニ移輸出セン

トスルトキハ本定款及検査規定ニ依リ検査ヲ受クヘシ

但當組合ト同種同業組合ノ検査ヲ受ケタルモノハ此ノ限リニアラス

- 一、蟹罐詰、罐詰原料ニハ稚蟹肉ヲ使用スヘカラス
  - 一、組合員ハ無許可製造者ノ製品ヲ讓受ケ又ハ自己ノ標記商標ヲ貸付スルコトヲ得ス
  - 一、届出ヲナスヘキ事項ニ付之ヲ怠リタルモノハ拾圓以内ノ過怠金ヲ課ス
  - 一、規約中重要事項ニ付キ違背シタルモノハ五十圓以内ノ過怠金ヲ課ス
- 備考 以上ノ外會議役員選舉等其他一般の規約ニシテ當組合ニ限リ特定ノモノニ非サル限リハ此處ニ抽出スルノ要ナキヲ以テ畧ス

同組合 罐詰 検査 規定

第一條 本組合ニ於テ検査ヲ行フ罐詰ノ種類ハ左ノ如シ

- 一、蟹罐詰 一、蝦罐詰 一、鱒罐詰 一、鮭罐詰 一、北寄罐詰
- 一、海扇罐詰 一、鮓罐詰 一、海苔罐詰 一、雲丹罐詰

第二條 検査ハ組合検査所ニ於テ之ヲ行フ

但シ請求ニ依リ船積品又ハ現品所在地ニ於テ之レヲ行フ事ヲ得此場合ニアリテハ検査ニ要スル費用ハ請求人ノ負擔トス

第三條 擇捉以北ニ於ケル製品ニ限リ函館、横濱、東京ニ於テ受檢ノ請求ヲナスコトヲ得

此場合ニ於テハ製品搬出前ニ於テ其旨届出テ承認ヲ受クヘシ

第四條 検査ヲ受ケントスルモノハ様式第一號ニ依リ検査請求書ヲ差出スヘシ

第五條 検査ヲ受ケタルモノハ規定ノ検査料ヲ納付スヘシ

第六條 検査請求者ハ検査ニ立會シ検査ニ必要ナル勞力ヲ提供スヘシ

第七條 検査ニ合格シタル製品ニハ各函ノ外部ニ第十條規定ノ検印ヲ押捺シ受驗者ニ第二號様式ノ検査證ヲ交付スルモノ



トス

但受検者ノ申出ニ依リ検査ノ函數ヲ區分シ検査證ヲ交付スルコトヲ得

第八條 検査ハ請求ノ順序ニ依リテ之ヲ行フ  
但シ組長又ハ検査員ニ於テ必要ト認ムル時ハ請求ヲ俟タズシテ検査ヲ爲シ又ハ現品所在工場等ニ臨檢スルコトアルヘシ  
組合員ハ前項ノ検査又ハ臨檢ヲ拒ムコトヲ得ス

第九條 検査ノ方法左ノ如シ

- 一、検査ハ抜検査ヲナスモノトス
- 二、外觀検査ハ五拾函迄ハ參函五拾函以上ハ五拾函ニ付貳函ノ割合ヲ以テ検査ヲ行フ
- 三、前項ニ依リ參函ヲ検査シ不合格品アル時ハ更ニ參函ヲ検査シ尙不合格品アルトキハ不合格品トシテ全部改造ヲ命ス
- 四、内容ノ検査ノ外觀検査ニ合格シタルモノ五拾函以下ハ五罐以内五拾函以上百函未満ハ八罐以内百函以上五百函迄ハ貳拾罐内五百函以上ハ百函ニ付參罐以内ノ割合ヲ以テ検査ヲ行ヒ該數ノ内壹罐タリトモ不合格品アリタルトキハ再同一検査ヲ行ヒ尙壹罐タリトモ不合格品アリタル場合ハ全部不合格品トス
- 五、荷造ハ第十一條ノ標準ニ依ル

第十條 製品合格印章左ノ如シ

第十一條 各種罐詰検査標準左ノ如シ

タラバ蟹 蝦 罐詰 検査標準

検査事項	壹等合格	不 合格
一、罐ノ標記及商標	完全ニシテ制規ニ適スルモノ	不完全ニシテ制規ニ適セサルモノ
二、罐ノ外形	罐ハ卷縮又ハ外嵌ニシテ打檢善良封蠟罐形ニス塗共ニ完全ナルモノ	肉嵌罐、錆罐、膨脹セルモノ封蠟ニス塗不完全、罐ノ損シタルモノ

品 位	内容	肉 量
三、品	形態完全色澤良好ニシテ國有ノ香味ヲ有スルモノ	蟹ハ一封度罐固形肉量百〇五匁以上ニシテ足肉五十匁以上アルモノ半封度罐ハ固形肉量ノ五十匁以上足肉廿五匁アルモノ
四、内 容	蝦ハ一封度罐肉量六十匁以上半封度罐肉量卅匁以上アルモノ	肉ノ腐爛變色變味臭氣アルモノ又ハ稚蟹花咲蟹肉ヲ詰タルモノ「タラバ」蟹以外ノ蟹肉ヲ混同スルモノ
五、反 應	中性又ハ弱アルカリ性ノモノ	酸性又ハ強アルカリ性ノモノ
六、有 害 物	有害物ヲ含マサルモノ	有害物ヲ含ムモノ
七、罐 材	壹封度罐ハ薄葉鉄壹函九十五封度以上半封度罐ハ九十封度以上「チヤコール」又ハ塗漆シタルモノニシテ其質完全ナルモノ	上欄重量ヲ有セサル其質不完全ナルモノ
八、荷 造	函材ハ妻板ノ一面ヲ鉤掛トシ厚正六分以上蓋底銅板ハ正五分以上ノ干燥品質良好好結節拔節ナキ板ヲ使用シ堅固ニ荷造セルモノ	上欄ノ材料ヲ使用セス荷造不完全ナルモノ

タラバ蟹、花咲蟹及蝦検査標準

検査事項	貳等合格	不 合格
一、罐ノ標記及商標	完全ニシテ制規ニ適スルモノ	不完全ニシテ制規ニ適セサルモノ
二、罐ノ外形	罐ハ卷縮又ハ外嵌ニシテ打檢善良封蠟罐形ニス塗完全ナルモノ	肉嵌罐、錆罐、膨脹セルモノ封蠟ニス塗不完全ナルモノ
三、品 位	形態完全ニシテ國有ノ香味ヲ有スル色澤良好一等品ニ次クモノ	肉糜爛變色變味臭氣アルモノ



検査事項	貳等	合格	不	合格
四、内容肉量	蟹ハ一封度罐固形肉量百五匁以上ニシテ足肉五十匁以上アルモノ半封度罐ハ固形肉量五十匁以上ニシテ足肉廿匁以上アルモノ	蝦ハ一封度罐固形肉量六十匁以上半封度罐ハ固形肉量三十匁以上アルモノ	二種混同肉詰シタルモノ	
五、反	中性又ハ弱アルカリ性ノモノ	酸性又ハ強アルカリ性ノモノ		
六、有	有害物ヲ含サルモノ	有害物ヲ含ムモノ		
七、罐	一、封度罐ハ葉鐵一函九十五封度以上半封度罐ハ一函九十封度以上アルモノ「チヤコール」又ハ漆塗ケタル其質完全ナルモノ	上欄ノ重量ヲ有セサル其質不完全ナルモノ		
八、荷	造	上欄材料ヲ使用セス荷造不完全ノモノ		

鮭鱒検査標準

検査事項	壹等	貳等	合格	不	合格
一、罐ノ標記及商標	完全ニシテ制規ニ適セルモノ	同	不完全ニシテ制規ニ適セサルモノ		
二、罐ノ外形	打檢善良封鎖罐形ニス塗完全ナルモノ	同	膨脹罐封鎖ニス塗不完全ニシテ罐ノ損シタルモノ		
三、品	位	同上ニシテ一等品ニ次クモノ	肉ノ糜爛崩壊セルモノ變味變色セルモノ臭氣アルモノ		
四、内容肉量	一、封度罐ハ固形肉量百五匁以上	同	上		

検査事項	合格	貳等	合格	不	合格
五、反	應	半封度罐ハ五十匁以上ニ封度罐ハ二百匁以上ノモノ	同	強酸性又ハアルカリ性ノモノ	
六、有害物	有害物ヲ含マサルモノ	同	有害物ヲ含ムモノ		
七、罐	材	二封度及一、封度罐ハ一函九十五封度以上半封度罐ハ九十封度以上アルモノ「チヤコール」又ハ「IC」印又ハ漆塗シタル其質完全ナルモノ	同	上欄ノ重量ヲ有セサル其質不完全ノモノ	
八、荷	造	同	上	上欄ニ適セサル材料ヲ使用シ荷造不完全ナルモノ	

海扇貝柱北寄其他検査標準

検査事項	合格	不	合格
一、罐標記及商標	完全ニシテ制規ニ適セルモノ	不完全ニシテ制規ニ適セサルモノ	
二、罐ノ外形	打檢善良封鎖罐形ニス塗不完全ナルモノ	膨脹罐、錆罐、損シ罐、封鎖ニス塗不完全ナルモノ	
三、品	位	形態完全色澤良好ニシテ固有ノ香味ヲ有スルモノ	腐敗又ハ惡臭ヲ放テ臟腑汚物ノ附着セルモノ
四、内容肉量	壹封度罐固形肉六十匁以上半封度罐三十匁以上アルモノ	強酸性又ハアルカリ性ノモノ	
五、反	應	中性又ハ弱酸性ノモノ	



検査事項	合格	不合格
六、有害物	有害物ヲ含まサルモノ	有害物ヲ含ムモノ
七、罐	葉鐵九十封度以上ノ「チャコール」又ハ「IC」印又ハ漆塗シタル其質完全ナルモノ	上欄ノ重量ヲ有セサル不完全ノモノ
八、荷	函材ハ妻板ノ一方ヲ削リ厚正六分以上蓋底節ナキモノヲ使用シ堅固ニ荷作セルモノ	上欄ノ材料ニ適セサルモノヲ使用シ又ハ荷造不完全ノモノ

第一號様式

検査請求書

一 品名  
 一 製造地名  
 一 受檢場所  
 一 輸出船名  
 右御検査相成度及請求候也

一 數  
 一 罐ノ標記及商標  
 一 仕向地

年月日

住所

氏

名

印

組合宛

第二號様式

検査證明票

検査番號

受檢者

一 製造所地名

一 品名

一 數

一 罐ノ標記及商標

一 品位等級

一 検査年月日

右検査規定ニ依リ検査ニ合格ス

年月日

組合名

商慣習及規約

當市場ニ於ケル重ナル商慣習及商取引上ニ於ケル一般的规定ハ左ノ如シ

取引規定

魚 粕	風袋壹貫目引	昆	布	砂引入目共五分
白子、笹目、胴鯨、鯨、身欠	風袋有目引	干公魚、干蝦、北寄、帆立、黒干、其他干魚類	同	入目貳分引
棒鱈、開鱈、鮎	同	帆立柱、海參	同	入目壹分五厘引
海蘿、銀杏草	同	鮭、鱒、鱈、鯨、其他鹽魚	同	入目三分引

物品受渡看買人夫賃

賣入持

買付注文ニ對スル手附金

魚 粕 魚 油

壹 割

昆布棒鱈

二 割

海蘿銀杏草

貳 割

鹽鮭、鱈

二 割

魚 粕 魚 油

貳 割

割



買付注文壹週間後ハ相當金利倉敷受ルコト

仲買口錢ハ商談ノ如何ニヨリ多少ノ變動アルモ大要左ノ標準ニヨル

粕見布 百石ニ對シ五圓  
 魚油 一個ニ對シ貳錢  
 棒 鱈 同 拾圓  
 帆立貝柱 同 拾錢  
 其他雜貨ニハ金高ノ一步トス

三、鮮魚市場

當地ハ鮮魚集散地トシテハ殆ント云フニ足ラス則チ當地ヲ初メ附近ニ於テ漁獲セラル、魚類ハ總テ各生産地ヨリ直接冷蔵運搬船或ハ普通ノ汽船ニヨリ内地青森又ハ函館市場へ搬出セラル、ト一方ニハ幾分カ附近山地方ノ農村へ陸送セラル從而根室ニ於テハ鮮魚市場トシテ見ルヘキモノナシ依テ茲ニハ單ニ鮮魚ニ對スル移出額ト需給地トヲ示スニ留ム

入	移	出移	品名	數量	價格	仕向地	及供給地
生	生	鮮	魚	三三〇	八五九	函館、釧路、霧多布、厚岸	
鱈	鱈	魚		一三九七一	四三三	白糠泊、乳香路、植内、東濟、斜里、春	
				三二一	四三九	刈古丹、釧路	
				一一三	八七六	瀬石、東沸、別海	
						同	上

四、輸移出入海産物表

大正元年移出表

品目	數量	價格	仕向地	及供給地
蟹 罐詰	一五七〇四一	一〇六、四七〇	神戸、横濱、大阪、函館	
昆 切 昆 布	二六、八八七	六八、八〇六	神戸、兵庫、横濱、大阪、箱崎、函館、釧路、鎮南浦	
長 切 昆 布	一六、八八七	一一、八三三	神戸、兵庫、横濱、函館	
棒 鱈	九、六六三	一七、〇二八	神戸、兵庫、横濱、大阪、函館	
鹽 鮭	一〇、七九八	一三、四七五	神戸、兵庫、横濱、大阪、箱崎、門司、長崎、函館、釧路、霧多布	
魚 鮫	一四九、三二〇	一一、九四二	神戸、横濱、函館	
魚 鮫	四、四三八	六、五七〇	兵庫、深川、大阪、函館	
魚 鮫	三、七五一	五、四二六	横濱、函館	
魚 鮫	五、一五〇	二、七八五	横濱、函館	
蟹 身	三〇、六四〇	三、四三三	横濱、大阪、函館	
銀 杏	一一、五六八	九、〇〇三	横濱、箱崎、函館、釧路、厚岸	
筋 子	二、四六八	六、八二七	横濱、函館	
貝 柱	三、四六八	八、七〇七	横濱、箱崎、函館	
鹽 化 加 里	五〇、八七〇	一、四七三	大阪、箱崎、函館	
海 羅	四九、七〇〇	一、五八六	大阪、函館、釧路	
魚 鱈	二、七、一〇五	一一、四四	函館	
蝦 鱈	四、五五五	八、五九	函館、釧路、霧多布、厚岸	
生 魚	三、三三〇	一〇、七〇九	函館	
鮭 鱈	九、七二九	二、六、四一	函館、釧路、網走	
其他 罐 詰	八七、六四八	三、一六〇	霧多布、函館、釧路、厚岸、網走	
鹽 鱈	四、二四五			



品目	數量	價格	仕向地
干魚	三五三七二	六三〇九	函館、釧路、霧多布、厚岸
干北魚	三三、一九	四九、六〇	函館、釧路、霧多布
干寄	四七八〇	一四〇四	函館
干蝦	五一四〇	一七七九	同
沃度	六八五〇	二六九、六〇	大阪、函館
合計		四〇八五、七五	
其他計		七〇、八四	
總計		四七、七、六三五	

大正元年移入表

品目	數量	價格	仕向地
昆布	六三〇七	九〇、三三	藥取、白糠泊、斜古丹、乳吞路、瀨石、中古丹、勇留、春別、水晶、泊、網走、斜里、春刈古丹、喉無異、標津、別海
長切昆布	一五、三七	九、七五	藥取、內保、乳吞路、植内、瀨石、古丹消、東沸、良牛、作万別、泊、春刈古丹、標津、水晶、斜古丹、齒舞
海蘿	二一、八七	一四、二四	乳吞路、中ノ古丹、水晶、勇留
銀杏草	一八、四五	八、六一	紗那、藥取、白糠泊、乳吞路、瀨石、東沸、作万別、水晶、志發、多樂、斜古丹
沃度	一五、五五	三、七三	乳吞路、水晶、勇留、志發、多樂
沃度	一五、三〇	五九、三二	乳吞路、瀨石、作万別、水晶、齒舞、勇留、志發、多樂

品目	數量	價格	仕向地
棒鱈	四四八	八一、七六	藥取、白糠泊、乳吞路、良牛、齒舞、勇留、斜古丹
魚油	七三八	二〇、五五	藥取、乳吞路、瀨石、古丹消、東沸、泊、標津、網走、斜里、良牛、喉無異、勇留、斜古丹、薰別
蟹罐詰	三七、五二	六、七五	藥取、留別、東沸、古釜布、作万別、志發
其他罐詰	二八、五七	一三、四八	補内、古釜布、作万別、春刈古丹、喉無異、標津、春別、別海、斜古丹、薰別
蟹粕	一〇、九五	九、九元	乳吞路、植内、東沸、古釜布、作万別、泊、志發、斜古丹
海扇	一三〇、四九	三、六七	古丹消、東沸、泊、春刈古丹、良牛、喉無異、薰別、標津、別海、志發
蝦罐詰	四九、四二	二二、五五	古釜布、作万別、志發
開鱈	六〇〇	一〇、八〇	斜古丹
鹽魚	二一、六六	二、八五	紗那、藥取、留別、內保、白糠泊、乳吞路、植内、東沸、斜古丹
生魚	一三、九七	四、二二	白糠泊、乳吞路、植内、古丹消、東沸、喉無異、釧路、中ノ古丹、斜里、春刈古丹、良牛、標津
鹽鮭	五、六八	一、三六	紗那、藥取、留別、白糠泊、乳吞路、植内、喉無異、標津、古丹消、東沸、斜里、春刈古丹、良牛、斜古丹
鮫鱈	二八、八〇	九、一四	乳吞路、古丹消、中ノ古丹、作万別、泊、網走、斜里、喉無異、標津、斜古丹
筋子	五九、一七	四、九四	藥取、白糠泊、乳吞路、植内、羅牛、薰別、斜古丹、泊、古丹消、東沸、斜里、春刈古丹、標津
鹽化加里	一、七〇〇	三、〇〇	齒舞
生鮭	三、一一	六、三九	瀨石、東沸、良牛、薰別、別海







品目	仕向地	數量	價格	品目	仕向地	數量	價格
鹽	基隆	三七二石	一〇〇	昆布	上海	五七三石	四二四〇
鹽	同	二二三石	七〇七	昆布	香港	二五四	一八八〇
昆布	同	二二三石	二二五	計			二一四八四
昆布	同	四打	二〇	計			二一四八四

五、商業機關

(ア) 倉庫業

當港ニ於ケル營業倉庫業者ハ共同倉庫株式會社、獨倉庫ノ二營業者アリ後者ハ前者取扱貨物數ノ約半數トス  
營業倉庫ノ數及建坪

當市場ニ於ケル營業倉庫ハ木造拾棟七百六十九坪煉瓦造リ五棟五百四十坪トス内譯左ノ如シ

共同倉庫 木造 三棟 三百坪 獨倉庫 木造 七棟 四百六十九坪  
株式會社 煉瓦 三棟 三百四十二坪 煉瓦 二棟 百九十八坪  
共同倉庫株式會社營業狀況

第七期損益計算書 (大正二年一月)

利	益	損	失
藏敷料	四六三四・三三	借地料	六三一六〇
手數料	一〇五八九	給料及手當	七七二〇〇
雜益	三六二九四七	修繕費	四九七三七六
合計	五、二七六六九	諸稅金	四九七九四〇
		雜費	四七九七五七
		當期利益	二二四八九七六
		合計	五、二七六六九

第七期貨借對照表

資	產	負	債
未拂込資本金	六〇〇〇〇〇〇	資本金	三〇〇〇〇〇〇〇
倉庫	一三〇〇〇〇〇〇	積立金	一〇〇〇〇〇
什器	一九三〇〇	前期繰越金	六七二二〇
預金	一、四〇〇〇〇〇	當期利益金	二二四八九七六
合計	一、六二〇〇〇	合計	三、一四六、一〇六

損益勘定

一金五千壹百貳拾七圓六拾六錢九厘  
一金貳千八百七拾八圓六拾九錢參厘

總損益金  
一二五



差引 貳千貳百四拾八圓九拾七錢六厘  
 金六拾七圓拾參錢  
 合計金 貳千參百拾六圓拾錢六厘  
 此ノ配當計算左ノ如シ  
 金壹百拾六圓  
 金壹千九百貳拾圓(年八分壹株ニ付)  
 金壹百圓  
 金壹百八拾圓拾錢六厘  
 第七期貨物増減月次表

當期利益金  
 前期繰越金  
 積立金  
 配當金  
 賞與金  
 後期繰越金

月	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
前期繰越高	三三八四〇	二八八七九	三〇、一四二	三七一、六五	四四七、〇七	五三、八八	三六、四七	三六、〇五六	四七、八〇〇	四九、一〇七
當期入庫高	一一、一〇	三、六四九	一〇、一九八	三〇、一九四	三四、〇九七	六四、一三三	五七、五四一	六二、七六	六一、二五	七、八四二〇
合計	三四、九五〇	三二、五二八	四〇、三三九	六七、三五九	七八、〇九四	一一、八〇九	九四、〇八九	九八、八二六	一〇九、〇五九	二七、六二七
當期出庫高	六、〇七〇	二、三六七	三、一七四	二二、六五二	二四、九七六	八一、五四四	五八、〇三二	四九、五三二	五九、八三二	七、二八五〇
差引殘高	二八、八七九	三〇、一四二	三七、一六五	四四、七〇七	五三、八八	三六、四七	三六、〇五六	四七、八〇〇	四九、一〇七	五、四七七

月	十一月	十二月
前期繰越高	五四、七六七	五、八五五二
當期入庫高	四、〇九三	一、五八〇六
合計	九、八六〇	七、四三五八
當期出庫高	四、〇三八	五、七三三
差引殘高	五、八二二	一、七二五

明治四十四年自十一月至十二月貨物出入表

種類	前期繰越高	當期入庫高	合計	當期出庫高	差引殘高
棒 齧	一六、七五〇	三、八一四	二〇、五六四	一六、七五〇	—
同 東	三、八一四	三、八一四	七、五二八	三、八一四	—
散 鱈	三、〇六〇	一一、九	三、〇六〇	三、〇六〇	—
函 入	一、一九	—	一、一九	—	—
函 入	四、七二	—	四、七二	—	—
散 鮭	一、五三九	—	一、五三九	—	—
函 入	一、〇〇六	—	一、〇〇六	—	—
筋 子	九、四七	—	九、四七	—	—
干 魚	二、五二	—	二、五二	—	—
貝 柱	一、六	—	一、六	—	—
鮫 鱈	八、三	—	八、三	—	—
魚 油	七、六	—	七、六	—	—
鹽 化	九、三九	—	九、三九	—	—
加 里	二、三九	—	二、三九	—	—



種類	前期繰越高	當期入庫高	合計	當期出庫高	差引殘高
昆布(太)	七九二	七三三	七九三〇	五四九三	一四三七
布海苔		一九	一九	一九	
雜海產物	二	一一八六九	一一八六九	九九九九	一九二〇
白米	五二〇〇	一四六	四一九一七	三九四四七	二四七〇
麥	四八	二八	二八九	二三三	六六
大豆	四三五	一六八	六〇三	五〇六	九七
小豆	七四二	一八六	九二八	七八九	一三九
雜穀	二九四	二六	三二〇	三〇〇	二〇
清酒		六二七	六二七	五八九	三八
燒酎		一七	一七	一七	
味噌		一五	一五	一五	
醬油		五〇	五〇	五〇	
繩類	七六	四二九	一三三八	四二九	三六
草鞋類		二六	二六	二六	
網類		一七	一七	一六	一
船具	二	三	五	二	三
空罐	四七	二五九	二六六	四七	四五六
雜貨	四〇	二五九	二六六	二二九	四五六

大正元年度貨物出入表

種類	前期繰越高	當期入庫高	合計	當期出庫高	差引殘高
荷捌貨物	一五二三四	九〇三四六	九〇三四六	九〇三四六	
合計	二八四〇	六〇〇一五六	六〇〇一五六	五六七四一六	三三八四〇

種類	前期繰越高	當期入庫高	合計	當期出庫高	差引殘高
棒		三四三〇五	三四三〇五	三三九九六	三〇九
同東		四七五一	四七五一	四六四九	一〇一
海參		二二七四	二二七四	二二五二四	一九〇
散鱈	二八四〇	一〇七八七	一三六二七	一三六二七	
函鱈		五〇四	五〇四	五〇四	
散鱈		八四二	八四二	八四二	
不時		一六八三九	一六八三九	一六八三九	
函時		五八六	五八六	五五四	三
不時		三八三	三八三	三八三	
鮭		四九八	四九八	一一	四八七
筋子		二八	二八	二八	
筋子		三七	三七	三七	
函時		七九	七九	七九	
干魚		八〇	八〇	八〇	
貝柱	三〇五	一三三三	一六三八	一六三一	七







品名	數	量	保管料	品名	數	量	保管料
目梨昆布	一個	壹錢五厘		筋子	一個	四錢	
刻昆布	一個	壹錢		魚包鹽	一個	壹錢貳厘	
散鹽	一個	八錢		昆布	一個	七錢	
同鱈	一個	四毛		鹽化里	一個	六錢	
函入鮭鱈	一個	七錢		沃度	一個	一錢貳厘	
大樽入鮭鱈	一個	四錢		雜海産物	一個	自參壹錢五厘	

荒物之部

品名	數	量	保管料	品名	數	量	保管料
津輕乾蕨	一束	六厘		越中中間繩	一個	貳錢五厘	
秋田乾蕨	一個	貳錢		蟹繩	一個	貳錢	
越中乾蕨	一個	壹錢貳厘		阿羽	一個	貳錢	
秋田荷造蕨	一個	貳錢		菜網	一個	參錢	
同米皮蕨	一個	貳錢五厘		實子	一個	參錢	
秋田建蕨	一個	壹錢六厘		草鞋	一個	貳錢	
能登同	一束	八厘		草履	一個	貳錢	
秋田中間繩	一個	壹錢八厘		石炭	卅枚合	壹錢八厘	

穀物類ノ部

品名	數	量	保管料	品名	數	量	保管料
米雜穀類	以四下斗	一俵	九厘	雜穀類	五斗入	一俵	壹錢壹厘

樽物ノ部

品名	數	量	保管料	品名	數	量	保管料
大坂酒	一樽	五錢		醬油	九升入	一樽	壹錢
大山酒	一樽	貳錢					

雜貨之部

品名	數	量	保管料	品名	數	量	保管料
蕨繩籠	二〇〇合	一個	貳錢五厘	武力板	一個	壹錢	
櫓腕	一枚	貳錢		同大判	一個	貳錢	
棍	一枚	參錢		鯨釜	一枚	七錢	

今般協議ノ上貨物保管料定額ヲ前表ノ通り改正シ左記ノ規定ニヨリ七月一日ヨリ實施可致候

大正二年七月

共同倉庫株式會社  
羽渡邊倉庫

一、本表保管料ハ一ヶ月ヲ三分シ一日ヨリ十日迄十一日ヨリ二十日迄二十一日ヨリ末日迄ノ三期トス











品名	數	東ノ古丹沸	近古布釜内布	植別、瀨石	乳吞路、福文蔵方面	自アトイ迄
根室鹽	一俵	九錢	十錢	十二錢	十三錢	十五錢
實子網	三本合	二十八錢	三十三錢	三十八錢	四十錢	四十五錢
掙粕	一俵	二十二錢	二十四錢	二十八錢	三十五錢	三十八錢
鹽切鮭	百石	四十五圓	五十圓	六十圓	七十六圓	八十圓
昆布	同	二十七圓	三十圓	三十四圓	三十八圓	四十圓
雜粕	一俵	二十三錢	二十六錢	三十錢	三十五錢	四十圓
線	五十匁	七錢五厘	八錢五厘	九錢五厘	十錢五厘	十二錢

品名	數	大丹消	ウエンシリ	イカバノツ	島登	シベトロ
白米	一俵	十四錢	十五錢	十六錢	十八錢	二十錢
味噌	一俵	十四錢	十五錢	十六錢	十八錢	二十錢
味噌	一俵	十四錢	十五錢	十六錢	十八錢	二十錢
乾菜	一俵	十四錢	十五錢	十六錢	十八錢	二十錢
建菜	一俵	十四錢	十五錢	十六錢	十八錢	二十錢
大中間	一俵	十四錢	十五錢	十六錢	十八錢	二十錢
鍊釜	一俵	十四錢	十五錢	十六錢	十八錢	二十錢
鹽	一俵	十四錢	十五錢	十六錢	十八錢	二十錢
實子網	一俵	十四錢	十五錢	十六錢	十八錢	二十錢
掙粕	一俵	十四錢	十五錢	十六錢	十八錢	二十錢

品名	數	朱戸賀、ハ	古丹消	ウエンシリ	イカバノツ	島登	シベトロ
鹽鮭	百石	三十五圓	四十圓	四十五圓	六十五圓	六十圓	七十六圓
雜粕	一俵	十七錢	二十一錢	三十錢	三十三錢	三十錢	三十五錢
棒	五貫匁	七錢	七錢	八錢	九錢	八錢五厘	九錢五厘

根室運送解營業組合及船内仲仕業

當市場ニ於ケル解業者ハ約四名アリ其々分屬ノ船數左ノ如シ

伊藤 九隻

共立解合名會社 八隻

渡邊 七隻

共盛 四隻

從業者數常時二百名ニシテ繁忙期ハ二百五拾名内外ノ臨時雇ヲナス

船内仲仕業者ハ杉山一名ニシテ使用人夫三十名トス

根室港内船積解賃

(海産物及重要貨物)

品名	數	量	解賃	金	摘要
米	壹	俵	五錢	一厘	壹錢六厘一毛
石炭	壹	俵	參錢	五厘	壹錢〇六毛
昆布	一	駄	一錢	七厘	散入 一噸 拾八錢五厘
同	一	駄	一錢	七厘	散入 同 三十錢
下等	十貫匁内外	一駄	貳錢	一四厘	三ッ合 一錢七厘三毛
散	百	石	拾六圓	四十五錢	下等 五錢六厘
散	百	石	拾七圓	七拾錢	四圓八十錢



品名	數量	量	解貨金	摘要
越中	壹	個	五錢	一錢七厘
仙臺	壹	個	八錢	一錢八厘
建蓮	貳	束	四錢	二東一錢
食鹽	壹	俵	貳拾六錢	九厘二毛
鯨油	壹	個	貳拾六錢	壹錢四厘、大樽入二錢一厘
醬油	壹	個	貳拾六錢	六錢
雜貨	壹	個	三錢	一錢三厘一毛
罐詰	二	個	三錢	八厘
桐鱈	壹	個	七錢	四厘
干鱈	壹	束	貳錢	壹錢八厘
建寄物	壹	個	六錢	五厘八毛
同形函	壹	個	四錢	一錢六厘一毛
新並函	壹	個	四錢	一錢五厘
同形函	壹	個	六錢	一錢八厘四毛
海藻類	壹	本	五錢	一錢六厘
石油函	壹	個	參錢	一錢壹厘五毛
桐鱈	壹	個	貳錢	五厘八毛
鱈	壹	個	參錢	一斤入四打 壹錢五厘
鱈	壹	尾	六錢	二厘

品名	數量	量	解貨金	摘要
秋田	壹	個	四錢	一錢五厘
津輕	壹	個	四錢	一錢五厘
實子	壹	個	四錢	一錢五厘
阿羽	壹	個	四錢	一錢五厘
菜網	壹	個	七錢	二錢三厘
味噌	壹	個	四錢	一錢五厘
干菜	貳	合	三錢	一、八厘 二、一錢四厘 三、一錢六厘
同地	壹	個	拾四錢	四東合一錢八厘五毛 五東合貳錢二厘
氷力	壹	個	三錢	
武力	壹	個	六錢	
ボイ	壹	個	貳圓	
昆布	壹	個	七錢	
沃里	壹	個	拾錢	
鹽化	壹	個	四錢	
沃里	壹	個	四錢	
沃里	壹	個	四錢	

右定額ハ濱渡シノ事

- 一、倉入ノ場合ハ特ニ倉入貨申受ケル事但花咲行ハ港内倍増シ
- 一、十一月一日ヨリ翌年三月卅一日迄港内積定額ヨリ二割増シ
- 一、港外ハ解氷ヨリ十月三十日迄港内積定額ヨリ三割三分増シ
- 一、港外ハ十一月一日ヨリ翌年三月卅一日迄港内積定額ヨリ五割五分増シ



- 一、遠方ノ倉庫ニ出入スル貨物ハ荷主ト協定シテ相當ノ割増料ヲ申受クル事
  - 二、倉敷看貨料トモ荷主渡済迄ハ賣主ヨリ申受クル事但倉敷料ハ倉庫會社ノ同額ニテ申受クル事
  - 一、港内回漕貨物ハ解賃定額同格ニ申受クル事但遠方ノ倉庫ニ庫移シノ場合ハ特ニ割増ヲ申受クル事
  - 一、外航貨物ハ解賃定額ノ壹割増ノ事
- 産地ヨリ回漕港内庫入迄賃金

地	名	品名	割合	賃金	地	名	品名	割合	賃金
春國岱金岩ヨリ二本松迄	同	ベ粕	壹俵	拾七錢四厘	スナバウス乃至厚岸沼	同	ベ粕	一俵	七錢六厘
同口ヨリ棒久漁場迄	同	同	同	拾五錢五厘	ハツタラ、ユルリイソ	同	同	同	七錢六厘
ランテツトヨリ	同	同	同	拾貳錢六厘	ベニケムイ、ルイカ	同	同	同	六錢三厘
トボケナイヨリ	同	同	同	拾貳錢	ノツカマツブヨリ	同	同	同	拾貳錢
ボンモシリヨリ	同	同	同	拾錢八厘	コタン消ヨリ	同	同	同	拾錢二厘
ニユラン消ヨリヒルカラム	同	同	同	九錢六厘					

- 一、回漕直積ハ港内壹俵ニ付貳錢六厘ヲ増ス
- 一、同 上 港外壹俵ニ付參錢五厘ヲ増ス

沖揚賃金

地	名	割合	賃金	地	名	割合	賃金
トヲバイヨリ春國岱棒久迄	同	百石積壹艘	拾五圓拾八錢	ランテツト	同	百石積一艘	拾參圓貳拾八錢
コタン消ヨリ、ノツカマツブ	同	拾參圓貳拾八錢	拾參圓貳拾八錢	ボンモシリヨリ、トボケナイ迄	同	拾貳圓六拾五錢	拾貳圓六拾五錢

スナバウスヨリ、厚岸沼ニ至ル	同	拾圓拾五錢
----------------	---	-------

荷造賃金

品名	個數	賃金	摘要
棒 鱈 鮪	壹個	拾六錢七厘	看貨料壹個六厘、バラ鹽百石ニ付四圓、但一束ニ付八厘ミガキ百石六圓一束一錢二厘
蓮 包 鮭 鱈	並造 壹個	參錢三厘	詰替荷造共七錢
筋 子	壹個	五錢	看貨料壹個八厘、バラ鹽壹兩九厘、ミガキ壹兩壹錢貳厘
石 油 函 入 魚	同	七錢	看貨料壹個壹錢貳厘、バラ鹽壹兩ニ付壹錢四厘ミガキ同貳錢
新 造 函 入 魚	同	參錢五厘	看貨料壹錢貳錢、バラ鹽同二錢八厘、ミガキ同四錢
建 物 其 他 小 口 直	壹本	拾五錢	
四 斗 樽 入 魚	壹樽	拾五錢	
新 造 替 造	壹本	拾七錢	
草 類、貝 柱、北 寄 海 棒 鱈 手 直	壹個	九錢二厘	
魚 油	壹函	貳錢三厘	
昆 布	壹片小口	七厘	
同	兩小口	八厘	
同	壹重掛	九厘	
同	二重掛	一錢	
同	三重掛	一錢二厘	
同	四重掛	一錢四厘	
同	二駄合	一錢六厘	



魚	昆	棒	同	鹽	昆	建	品
函				鮭			名
鐵				鱒	布	物	個
卷	布	鱈					數
壹	印	看	料	倉	受	看	貨
個	付	貫	場	庫	貫	貫	金
	一	料	百	百	料	料	品
	駄	壹	石	石	料	料	名
		個	積	積	料	料	個
			付	付	料	料	數
							貨
							金
							品
							名
							個
							數
							貨
							金

最近三ヶ年間船舶出入表

大正元年根室港出入商船表

入	出	類	入	出	類
計	計	別	計	計	別
港	港	別	港	港	別
		隻			隻
		定期			定期
		不定期			不定期
		計			計
		噸			噸
		定期			定期
		不定期			不定期
		計			計
		噸			噸
		定期			定期
		不定期			不定期
		計			計
		噸			噸

同 出入帆船和船表

入	出	類	入	出	類
計	計	別	計	計	別
港	港	別	港	港	別
		隻			隻
		定期			定期
		不定期			不定期
		計			計
		噸			噸
		定期			定期
		不定期			不定期
		計			計
		噸			噸

明治四十四年根室港出入商船表

入	出	類	入	出	類
計	計	別	計	計	別
港	港	別	港	港	別
		隻			隻
		定期			定期
		不定期			不定期
		計			計
		噸			噸
		定期			定期
		不定期			不定期
		計			計
		噸			噸

同 出入帆船和船表

入	出	類	入	出	類
計	計	別	計	計	別
港	港	別	港	港	別
		隻			隻
		定期			定期
		不定期			不定期
		計			計
		噸			噸
		定期			定期
		不定期			不定期
		計			計
		噸			噸



明治四十三年根室港出入商船表

入出計	類別	隻數		計	噸數		計
		定期	不定期		定期	不定期	
計	港	二七六	六八	三四六	一五二八〇八	七二三四	二五〇四一
		二七八	六八	三四六	一五二八〇八	七二三四	二五〇四一
計	港	五五六	二二六	六九二	三〇五六一六	一四四四六八	四五〇〇八四
		二七六	六八	三四六	一五二八〇八	七二三四	二五〇四一

同 出入帆船和船表

入出計	類別	帆船		和船		船	
		隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數
計	港	六七	三三	三〇	一〇〇〇	五〇〇	一五二七九八
		六七	三三	三〇	一〇〇〇	五〇〇	一五二七九八
計	港	六七	三三	三〇	一〇〇〇	五〇〇	一五二七九八
		六七	三三	三〇	一〇〇〇	五〇〇	一五二七九八

(エ) 銀行業

當市場ニ於ケル一般金融界ノ状態ヲ見ルニ海產物ノ豊凶ハ其消長ニ至大ノ關係ヲ有ス斯クテ當地ノ生命ハ全ク海產物ノ豊凶如何ニ關スル状態ナリ此點ヨリシテ根室港ハ全ク函館市場ノ運命ト其軌ヲ一ニス今當地ニ於ケル重要ナル銀行業者ヲ示セハ株式會社根室銀行(本店)株式會社第一銀行支店ニシテ茲ニハ專ラ前者ニ就キ調査セル處ヲ示シ以テ當地金融界ノ定期的變動ヲ述ヘ參考ニ供セントス

越年時期 冬物仕入ト來春ノ漁業資金ノ一部融通ノ爲並ニ一部ノ鯨漁ノ爲メ幾分ノ資金運轉ヲ見ルモ市況一般ニ閑散ナリ三月下旬ヨリ四月 此期間ハ鯨漁業ヲ初メ鯨鱈漁業ノ爲毎年預金ノ減少及貸出ノ増加ヲ來タス六月ヨリ八月 此期間ハ漁業資金ノ廻收共ニ一方鯨鱈ノ移出昆布ノ出廻リニヨリ金融急逼ヲ告ク九月ヨリ十一月 專ラ鯨、鱈ノ出廻期ニシテ金融稍動クヲ常トス之ヲ要スルニ當地金融界ノ大勢ヲ制スルモノハ鯨、鯨、昆布、鯨、鱈、鯨並ニ千島方面ノ鯨ニシテ此等漁業ノ豊凶如何ハ實ニ當市場ノ盛衰ヲ左右スルモノトス

根室銀行營業狀況

貸付金 年利

月次	最高		最低	
	月	月	月	月
本店	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
本店	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇

割引日歩

月次	最高		最低	
	月	月	月	月
本店	三三	三三	三三	三三
本店	三三	三三	三三	三三

諸勘定伸縮前期比較

公金預金	一・一九増	國債預金	四四三減	定期預金	一・〇五減	當座預金	二・二二減	小口當座預金	〇九八減	別數預金	七六・七増	預金手形	一三四減	借入金	六五〇減	貸付金	四二七減
------	-------	------	------	------	-------	------	-------	--------	------	------	-------	------	------	-----	------	-----	------



當座預金	預ケ金	引當手形	引他手形	當座荷付	他處荷付	當座代金	他處代金	送金爲替	支拂送金
五七四減	四四四増	二一九増	一	二六八減	六四一減	一二三減	三九〇増	三二九減	五二五減

金銀出納

本店	營業日數	入金	高	出金	高
	一四九	一一五八〇七八七〇		一一一四四三三三六九	

諸預リ金

區分	公金預金	利國預金	定期預金	當座預金	小口當座預金	別段預金	預金手形
本店	一三九、八九七、五三二	一四九、八二七、一四〇	二天、六三九、〇〇〇	五八七、〇二二、九一〇	三三〇、〇九〇、二二二	一一、五五八、八四九	五、四八五、九三〇
拂戻預金	七、三三六、六九九	一三、四九八、五五六	四七、六一六、二〇〇	四九、六三三、三三〇	二〇、五八三、七七〇	四、四三三、二五八	一、四一九、九三〇
現預金	六六、九六一、〇九三	一、四八四、二〇八	七九、〇二二、九五〇	八七、三七九、五六〇	一一、四四七、一四四二	一〇、八三三、二六九二	五〇、〇〇四、〇〇〇

借入金

本店	借入	高	返戻	高	現借	高
		一一五〇〇、〇〇〇		一一五〇〇、〇〇〇		

諸貸付金

勘定科目	總貸金	返済金	現貸金	口數

本店	貸付金	當座預金貸越	四、一九三、〇〇〇	一、五三三、五〇〇	一、七五四、五〇〇
			一六、一九六、六九〇	一四〇、〇一八、六九〇	二、三九七、〇〇〇
					一〇

割引手形

本店	手形種類	枚數	當座	所	他	所
	約束手形	一五九		一八三、九八五、〇〇〇		

荷付爲替手形

本店	各地へ向ケタル分	各地ヨリ受ケタル分	内支拂拒却又ハ組戻
	枚數 九二	枚數 二七〇	各地へ向ケタル分 枚數 一
	額 七、〇七三、〇六〇	額 一、五五一、六一九二〇	各地ヨリ受ケタル分 額 一

送金爲替手形

爲替金種類	各地へ向ケタル分	各地ヨリ受ケタル分	内組戻
公金	枚數 二四	枚數 三	各地へ向ケタル分 額 一
	額 二五〇、八六三、四〇〇	額 一五〇、〇〇〇、〇〇〇	各地ヨリ受ケタル分 額 一
普通	枚數 八二七	枚數 四三三	各地へ向ケタル分 額 一
	額 一八、七〇八、三三〇	額 一、七六二、二二〇	各地ヨリ受ケタル分 額 一
			額 七五〇、〇〇〇

代金取立手形



手形種類	當		所		所		內支拂却又八組	
	枚數	金額	枚數	金額	枚數	金額	枚數	金額
爲替手形	五四〇	七二八五七〇	一〇二	二八六八九〇	六	一四八八八〇	七	一四八三三〇

貸付金年利

本店	七月		八月		九月		十月		十一月		十二月	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
本店	一三六	一一〇	一三六	一一〇	一三六	一一〇	一三五	一一七	一三五	一一七	一三五	一一七

割引日歩

本店	七月		八月		九月		十月		十一月		十二月	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
本店	三五	三〇	三五	三〇	三五	三〇	三七	三二	三七	三二	三七	三二

諸勘定伸縮前期比較

本店	公金預金		國債預金		定期預金		當座預金		小口當座預金		別數預金		預金手形		貸付金		當座預金	
	本店	二〇減	五七減	六六増	六二増	四九増	一九増	四七増	三三増	一八・六増	八・四増	六・四増	六・四増	六・四増	六・四増	六・四増	六・四増	六・四増

金銀出納

本店	營業日數		入金		出金	
	本店	一五五	一八六	三六〇	二八七	一八六

諸預金

本店	公金預金		國債預金		定期預金		當座預金		小口當座預金		別數預金		預金手形	
	本店	一六八・三三・八五九	一四六・六四・八四	一三七・五二・〇七〇	八五・〇〇・六四・四〇	三三六・八三・一六七	一三三・二〇・六〇・七四	五二・八五・七〇〇	一・八三・五五〇	一・八三・五五〇	一・八三・五五〇	一・八三・五五〇	一・八三・五五〇	一・八三・五五〇

諸貸付金

本店	勘定科目		總貸金		返済金		高現貸高		口數	
	本店	貸付金	二八四〇九八〇〇	四七・七三・六〇〇	五八・九四・〇〇〇	四一・七四・八五〇	五九・四七・五八〇〇	一五・九七・四七五〇	二五	六

割引手形

手形種類	枚數		金額		他		金額		他	
	爲替手形	一四三	一四三	一七五・九七・〇〇〇	一四三	一四三	一四三	一四三	一四三	一四三

荷付爲替手形



本店	各地へ向ケタル分		各地ヨリ受ケタル分		内支拂拒絶又ハ組戻	
	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額
二六二		一五五、七五三〇	四三三	二八三、七〇七〇〇	七	五三〇、四四〇
					一六	七五、七六〇

送金爲替手形

爲替金種類	各地へ向ケタル分		各地ヨリ受ケタル分		内支拂拒絶又ハ組戻	
	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額
公金	一六	一五五、〇四九三九〇	二	一五〇、〇〇〇		
普通	一一七	一八三、三〇一六〇	六五五	二四、五三三、〇〇	五	五五九、三五〇

代金取立手形

手形種類	當所		他所		内支拂拒絶又ハ組戻	
	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額
爲替手形	五七六	六二、五六四、八五〇	一八〇	一七〇、三八四、〇〇	二	三六〇、五九六〇
約束手形	九	九六、七三八五〇				
小切手	二	二〇〇、〇〇〇				
賣掛證書	二	一八四、〇五〇〇				

### 第十 釧路海産物市場

#### 總説

釧路港ハ本道東半部ニ於ケル唯一ノ港灣ニシテ農、工、水、林産物ニ對スル重要ノ集散地ナリ現今ニ於ケル重ナル出廻貨物ハ河西支廳管内ヨリノ農産物約六七拾萬俵價格約貳百萬圓並ニ釧路ヲ中心トセル海産物約百五六拾萬圓、其他林、工業物ハ將來最モ有望ナル移輸出貨物トス而シテ全集散貨物ハ年額優ニ千五百萬圓ニ達ス

當地ハ從來函館市場ノ勢力範圍ニ屬シ該市場ノ資本及物資ハ常ニ當港活動ノ原動力タリシカ近年ニ至リ漸ク其支配ヲ脱シ現今ニ於テハ輸入物資(主トシテ日用品)ノ一部分ヲ除クノ内外内地市場タル東京、大阪、横濱、神戸、新潟、秋田、青森ト直取引ヲナスニ至レリ將來十勝、北見方面ノ開發完成スルニ至ルト一方漁業ノ發展シ農、林、水産ニ對スル製造工業ノ勃興ヲ見ルニ至レハ當港ノ將來ハ甚タ有望ナルモノタルヘシ

以上概説スルカ如ク當港ハ現在又將來ニ於テ甚タ有望ナル前途ヲ有スルモノニシテ早晚釧根、釧美鐵道開通ノ曉ニ於テハ根室、北見方面ニ於ケル水産物ノ當港ヘノ集散並ニ此等地方ヘ向ケ物資供給ノ如キ其他一般ノ諸經濟的關係ハ甚タ密接ナルモノトナル可ク從テ當港ノ利害ハ根室港ト或ル程度迄ハ其運命ヲ共通ニスルヤ明ナリ若シ夫レ當港カ米亞兩大陸交通ノ衝ニ當ル位置ニアルヲ思ヘハ本道水産業上ハ勿論、拓殖ノ上ニ於テ一層多忙ノモノタルハ左表ニヨリ畧ホ其一般ヲ推知スルニ足ルヘシ

- 一、シヤトル、 釧路間 四、六五〇海里
- シヤトル、 横濱間 四、八六五海里
- 浦鹽斯德、 釧路間 六〇四海里
- 二、シヤトルヨリ 釧路ヲ經テ浦鹽斯德ニ至ル行程
- シヤトル、 釧路間 四、六五〇海里

十三日間



鋼路小樽間 (下富良野線經由)  
小樽浦鹽間

二六三哩  
四三二哩

十九時間  
一日七時間  
約 十五日間

斯ノ如キ狀況ナルヲ以テ當港ハ所詮世界ノ一大商港タルノ運命ト地理ノ位置ニアルモノタルヤ論ナク殊ニルシシノ炭礦ノ如キ甚タ有望ナル石炭ノ供給地ヲ控ユルニ於テヲヤ然レトモ是レト同時ニ理想的漁港ヲ修築シ海洋ノ漁利ヲ收メ一方水産工場ヲ建設シテ鮮魚並ニ水産製造品ヲシテ内外供給ノ中心點タラシメハ優ニ本道東海岸ニ於ケル一大海產市場タルコトヲ得ルハ必スシモ難事ニ非ス唯現下ニ於ケル一大缺點ハ實ニ資本ノ缺乏ニアリ故ニ此方面ニ於ケル缺ヲ補ヒ次ヲ生産ト分配機關(漁港及魚市場)ノ完成ヲ得ハ斯業ノ發展蓋シ期セスシテ來ルモノアル可シト信ス

一、製品市場

當市場輸出水産物約百五十萬圓中大部分ハ水産製造品ニシテ就中魚粕殊ニ小鯨粕、鯨粕ヲ重要トシ次ヲ昆布、開鱈、鮫鱈其他魚油、銀杏草等ナリ、食用製品中開鱈、昆布及鮫鱈ハ何レモ支那向重要輸出品トス

(ア) 商品ノ方面ニ關スル調査

(イ) 市場ニ顯ハル、商品

- 肥料 小鯨粕、鯨粕、雜粕
- 食料品 開鱈、鮫節、鮫鱈、煮干、昆布
- 工業用品 魚油、銀杏草

(ロ) 品位等級

當地ニ於ケル粕類ノ等級ハ東京ト同一ニシテ左ノ如シ

粕類 一等、二等、三等、三等五分、四等、四等五分、五等以下ナレトモ普通品ハ四等格ナリ而シテ實際ニ於テ當地方ノ最上等品ハ前等級中三等格ニ相當ス

今參考ノ爲メ東京、名古屋、兵衛地方ノ等級別ヲ示ス

東京 一等、二等、三等、三等五分、四等、四等五分、五等以下  
名古屋 極上、上上、上、中上、並以下  
兵 阪 同上

内名古屋ノ極上ハ東京ノ三等ニ當ル

以上等級ノ標準ハ次ノモノニ依ル

一、色澤及形狀(原料ノ鮮否) 二、香氣(玉ツカレ如何) 三、油有無(原料及煮熟ノ如何) 四、乾燥程度、

五、雜物混淆如何、 六、鱗片ノ有無ニシテ東京地方ハ淡黃色ヲ好ミ兵衛地方ハ濃赤色ヲ欲ス(油燒ニ非ス)鯨粕雜粕

ハ大体鯨粕ノ例ニヨル

昆布 一、乾燥程度 二、葉面ニ白粉ノ發生ナキモノ 三、色澤ノ黒色ヲ帶ヘルモノ 四、葉面ノ皺縮セサルモノニシ

テ收穫時期ニヨリ云フ時ハ大体二十日前後ヲ以テ標準トシ以前ノモノハ「夏採リ」ト稱シ後者ハ「秋物」又ハ「秋採リ」ト云ヒテ下等品ナリ

開鱈 別ニ品位ニ關スル等級ナシト雖モ當業者カ支那向キトシテ嗜好セル條件ハ次ノ如シ

一、形狀(楕圓形) 二、大小(小形ニシテ百五十目位ノモノ) 三、乾燥 四、色澤(無色ノモノ) 五、鹹度(中

鹽) 小形ハ大形ヨリ一割高ナレトモ出廻品ノ大部分ハ大形(二百目位)ナリ而シテ小形ハ臺灣ニ大形ハ支那向トス

銀杏草 一、乾燥 二、色澤ノ黒色

魚油 魚油ノ種類ハ鱈油、鮫油、鯨油、鯨油トス此等ヲ通シ品質撰擇ノ標準ハ一、滓有無 二、色澤有無(無色ハ

真好)







品目	單位	三	六	九	十二	平	均
鹽	百石	700,000	700,000	700,000	700,000	700,000	700,000
開	同	1,700,000	1,600,000	1,700,000	1,750,000	1,687,000	1,687,000
長	同	350,000	400,000	510,000	400,000	400,000	400,000
若	一貫目	250	250	250	250	250	250
鯉	同	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000
石	二噸	4350	4350	4350	4350	4350	4350
石	一噸	5500	5500	5500	5500	5500	5500
薪	一貫	100	160	160	120	180	180
炭	同	700	600	550	500	587	587
苳	一〇枚	800	850	900	900	862	862
同	一〇枚	750	800	800	800	787	787
繩	(越後丸)	2,100	2,100	2,100	2,100	2,150	2,150
同	(津輕丸)	2,000	2,000	2,100	2,100	2,100	2,100

小鯉粕 就中鋼路、白糖、大津、厚内、昆布森ニシテ就中鋼路、白糖トス其時期ハ七月頃ナリトス  
 雜粕 大津、厚内、白糖ヨリ時季ハ年中トス  
 鯉大漁ノ際ハ川崎船業者(即チ手操網業者)ト雖モ生鯉ヲ一部分ヲ買取り粕製造ニ從事シ爲ニ雜魚粕ノ出廻リ減少シ之ニ反

(イ) 入荷方面ニ關スル調査

(ウ) 供給地及期節

對ニ小鯉不漁ノ際ハ鯉及雜粕ハ増加ス

昆布 跡永賀、鋼路、白糖迄ニシテ就中昆布森(二千五百石)桂戀(千石)トス出廻リ時期ハ拾昆布ハ年中ナレトモ長切ハ

八月初旬ヨリス

銀杏草 知人ヨリ昆布森迄ニシテ殊ニ桂戀ヲ主トス(二千俵ヲ出ス)出廻リ期節ハ三月ヨリ七月迄トス

魚油 鯉油、鯉油、鯉油ニシテ前三者ハ鋼路、後者ハ白糖、仙鳳趾ヲ主トス而シテ鋼路ノモノニ付キ記セハ左ノ

如シ

鯉油 出廻期 四、五月 鋼路 鯉油 七月 鋼路

鯉油 五月ヨリ七月(盛期) 同上 鯉油 七月八月 同上

開 鯉 跡永賀ヨリ白糖間平均七千五百担(百五十斤入)鋼路ハ五六千担ニシテ八、九、十月ヲ除ク外鯉漁業ニ從事スル

ヲ以テ年中出廻レル盛期ハ四、五、六月ナリトス

鯉節 七、八、九月主トシテ鋼路トス

鯉 主トシテ鋼路方面出廻時ハ六月末ヨリ十一月中頃迄トス

(ろ) 生産地トノ取引關係

粕類 粕類ノ買入ハ仕込、買出、買附、委託等ニシテ仕込及買出ヲ普通トス

仕込ノ際ハ金利二分乃至二分五厘ニシテ收穫物ヲ全部引渡ヲ約シ賣上口錢トシテ七分ヲ收ム則チ生産者ハ豫定委託販賣ニ

附スル習慣トス又無利子ニテ仕込ミ收穫後、仕込ノ際ニ於ケル相場ニテ買取ル方法アリ

白糖方面ヨリ當市場迄ノ運賃(噸扱)其他ノ關係ヲ例示セハ次ノ如シ

白糖ニ於ケル扱賃 壹圓(七噸六十俵) 積込料 七拾五錢

白糖保管料 壹圓 汽車賃 參圓九拾錢

第十 鋼路海産物市場

一五九



當市場ニ於ケル扱賃

七拾錢

荷下シ賃

六拾錢

庫入レ賃

壹圓貳拾錢

計

九圓拾五錢

昆布 買入ハ産地仲買人ニ對シ無利子ニテ資金ヲ貸付ケ七、八月ニ入り再ヒ資本ヲ融通シ以テ其買集メヲ委託ス即チ前

者ハ生産人ノ直接企業資本トナリ後者ハ單ニ買入レ資本トス取引上ニ於ケル習慣左ノ如シ

看 買 料

百石ニ付貳圓(荷主即チ産地仲買人持)

砂引及入目

六分四厘

銀杏草 昆布ノ場合ト同一

魚 油 昆布ノ場合ト同一

開 鱈 産地買集メハ仕込ニシテ金利二分乃至二分五厘ト無利子トアリ何レモ用鹽戻金下付ノ關係上中川倉庫前ニ持來

(イ) 出荷ノ方面ニ關スル調査

(ウ) 仕向地及期節

粕 類 鯨粕ハ東京、名古屋、兵阪、四日市方面ニ鯨粕ハ東京、名古屋、四日市ニ雜粕ハ名古屋、四日市ヲ主トシ兵坂ハ少量、

及ヒ越中地方トス而シテ其時期ハ何レモ函館、小樽市場ノモノト同シ

昆 布 大坂兵庫ヲ主トシ僅ニ東京、函館ニ仕向ケ期節ハ出廻リト同一トス

開 鱈 兵坂及横濱トシ其出廻時期ハ前者ト同一

鮫 節 長野縣下諏訪郡、伊奈郡、静岡縣下殊ニ静岡、沼津、蒲原、清水、甲州郡内方面、横濱、富山附近及道内トス期

節ハ十一月乃至翌年五月迄ニシテ賣行相場ハ次ノ如シ

富山縣 拾貳圓

静岡縣 拾四圓

横 濱 拾壹圓

信 州 拾五圓

右ノ内最モ有利ナルハ静岡縣地方トス斯ハ交通ノ便ト廻收金ノ早キトニ由ル

鮫 鱈 俗稱よしきり鮫及小鮫(つのだめ)鱈ノ如キ下等品ハ主トシテ神戸、横濱(ハ上品(鼠鮫)ハ函館ニ仕向ケ而シテ兩

者價格ノ差ハ一欄平均四拾圓内外ニシテ又同一品種ニ於テモ函館ト神戸及横濱トハ五圓内外ノ開キアリ

銀杏草 東京、大阪トス出廻時期ト同一

魚 油 横濱トス出廻時期ト同一

(ろ) 仕向地トノ取引關係

粕 類 一般ニ東京地方ハ淡黄色ヲ兵阪地方ハ濃黄色ヲ好ミ種類ヨリスレハ小鯨粕ハ東京向キ其他ノ地方ハ大鯨粕ヲ主ト

シ小鯨粕ハ從タリ、鯨粕ハ特ニ東京地方、中國筋ハ鱈粕ヲ好ム雜粕ハ主トシテ名古屋、四日市ヲ中心トシ兵坂向

キハ少ナク日本海方面ハ越中地方ヲ中心トス

昆 布 昆布ハ殆ント全部支那向キニシテ拾昆布、水昆布、長切、猫足、厚葉ハ其重ナルモノトス而シテ右ノ中猫足ノ四

分ハ國內消費、又拾昆布ハ一部ハ刻昆布ノ材料ニ供セラル

銀杏草 大阪向キハ大葉、東京向キハ小葉トス

開 鱈 小形ハ臺灣向キ大形ハ支那向キトス

一般海産物ノ多クハ買注文、賣附ニシテ委託ハ種ナリトス但シ鮫節ハ賣付、委託多ク買注文少ナシ

計算ノ方法ハ貸込最モ普通ニシテ次ハ着値トシ乘値ハ甚タ少シ貸込ハ荷主ハ運賃ヲ荷受問屋ハ保險料荷爲替内五錢(日歩)

ヲ負担ス着値ハ全部荷受問屋持、乘値ハ本船積込迄荷主持トス斯クテ貸込ハ主トシテ大取引、着値ハ小口取引ニ乘値ハ主

トシテ内地向キ海産物ニ用フ

## 二、鮮 魚 市 場

(ア) 鮮魚市場序説

御路町ニ於ケル鮮魚市場ハ其分配機關甚タ亂雜ニシテ魚市場ニク所、鮮魚商約六七十名アリテ互ニ競争ノ結果秩序ヲ亂シ



從テニケノ魚市場モ甚タ振ハス一ヶ所ハ殆ント休業ノ狀ヲ呈シ他ノ一ヶ所(釧路魚菜市場)モ亦辛フシテ其營業ヲ持續シツ  
 ハアルノ有様トス  
 弊害ヲ醸ス原因ハ六七拾名ノ鮮魚商ニシテ其大部分ハ魚市場ト競争ノ位置ニ立テ直接漁業者ヨリ漁獲物ヲ買占ムルニアリ  
 彼等ハ其營業ニ於テ公私ノ上ニ殆ント何等ノ拘束ナク活動自由ヲ有シ魚菜市場ノ經營ニ取リテハ大ナル困難ヲ與フルモ漁  
 業者ニ對シテハ寧ロ便利ナキニアラス然レモ其反面ニ於テ其レ丈太ナル弊害ヲ發生スルハ免レサル事トス彼等ハ漁獲物ノ  
 多少、種類ノ如何ニヨリ或ハ直接漁業者ヨリ或ハ魚市場ヨリ買取ルヲ以テ魚市場經營者ハ漁業者ト一定ノ契約ノ下ニ秩序  
 アル取引不可能ト同時ニ又仲買人(魚市場ニ於ケル魚類買入人)トモ殆ント何等ノ秩序ヲ保障スルコト能ハス斯クテ此等ノ  
 仲買人(前記鮮魚商)ハ比較的利益アリト認ムル時ハ漁業者ニ對シ前貸其他ノ方法ヲ以テ歡心ヲ買ヒ其漁獲物ヲ購入シ若シ  
 損失其他自己ニ不利ナル結果ニ遭遇スルトキハ漁業者ヲ倒スカ又逐電スルモノ甚タ少カラス斯クテ結局漁業者ニ取リテハ  
 確實ナル漁獲物買取人ニ非ルト共ニ魚市場經營者ニ取リテモ市場ノ攪亂者タリ故ニ彼等ノ一團ハ釧路鮮魚市場ニ於ケル商  
 取引ノ秩序ヲ破壞スルト共ニ之レカ健全ナル發達ノ妨害者トス  
 釧路町ニ於ケル一ヶ年鮮魚水揚高ハ上記ノ理由ニヨリ到底精確ニ之ヲ知り難キモ金額ニ於テ約拾五六萬圓内外ト信ス而シ  
 テ鮮魚ノ大部分ハ旭川ニ其他ハ旭川迄ノ各鐵道線各驛ニ分配セラル然レモ冬期ニ入レハ小樽市場又ハ便船ノ都合ニヨリ青  
 森市場へ送付ス

(v) 商品ニ關スル方面ノ調査

(一) 市場ニ顯ル、商品

目拔魚、さんさん、めいめいせん、章魚、鰻、鱧、蟹、鯉、油子、時不知、鱈、赤蘇魚、大鯿、鼠鮫、鮪、柔魚、秋刀魚、鯉

(イ) 商品取引ノ方面ニ關スル調査

(vi) 販賣

販賣方法ハ羅賣ニヨル今其符號ヲ示セハ

ハ<sup>1</sup> ヤ フ<sup>2</sup> テ キ<sup>3</sup> リ ダ<sup>4</sup> ラ ガ<sup>5</sup> レン ロ<sup>6</sup> ン サ<sup>7</sup> イ ナン バ<sup>8</sup> ン キ<sup>9</sup> ヲ ソ<sup>10</sup> ク 兩

當市場規定ノ手數料及歩戻金左ノ如シ

手數料 一 割 漁業者へ歩戻金 一分五厘 仲買歩戻金 二分五厘

會社ノ手取金ハ六分ニシテ漁業者ノ戻金ハ半期毎ニ決算ス又仲買人へノ戻金ハ積立トシ不拂ノ際ニ於ケル保證トス

(ろ) 賣買單位及價格

他ノ一般市場ト同一ニシテ價格ハ當市場ニテ決定セラル而シテ主ニ旭川ノ相場ヲ其標準トス

(ウ) 出入荷方面ニ關スル調査

(vi) 需供地及其期節

供給地ハ主トシテ當釧路町及其附近漁村ニシテ需要地ノ主ナルモノハ當地並ニ旭川トシ其他岩見澤ヲ初メ鐵道沿線諸驛ナ  
 レモ冬期ハ小樽、札幌市場へ又便船ノ都合ニ依リ青森、東京市場へ仕向ク而シテ仕向期節ハ出廻リト同時トス今主要魚類  
 ニ付種類別ニ其期節ヲ示セハ

自一月至四月目拔魚、さんさん、めいめいせん、鯉、鰻等、自五月至六月時不知、鱈、大鯿等、自七月至十月鱈、  
 鮪、鼠鮫、鮪、秋刀魚、鯉、鱧、大鯿、柔魚等、自十一月至十二月同上

(エ) 會社ト荷主及仲買人トノ關係



有資格者ノ仲買人ハ毎月一、六ノ日精算ヲ行ヒ然ラサル普通ノ仲買人ハ現金取引トス荷主ヘハ着荷後三日間内ニ精算ス  
 有資格仲買人約百名アリテ多キハ三百圓少キモ五拾圓ノ額ニ相當スル擔保物件ヲ當市場ヘ提供セシメ後日ノ保證ニ供ス而  
 シテ彼等仲買人ハ魚商組合ヲ組織セリ  
 以上ノ外ニ非組合員約百四五十人アリ當市場トノ取引ハ何等ノ特權ナキモ魚類買入ヲ許セリ此ノ一團ハ或ハ當市場ヨリ又  
 直接漁業者ヨリ買入レ地賣、又ハ地方ヘ分送ス彼等ハ魚市場ト漁業者トノ中間ニ介在シテ二者ノ連絡秩序ヲ擾亂シ兼テ現  
 金ヲ以テ漁業者ヲ誘ヒ置キ不幸ニシテ彼等取引上損失ヲ來スアレハ直チニ之ヲ漁業者ニ轉換シ魚類ノ買倒シヲ行フ

(オ) 會社ノ營業方面ニ關スル調査

當魚市場ノ營業狀態ハ實ニ不振ノ極點ニ達セリ其原因ハ前記スル如ク競争ノ位置ニ立テル魚商ノ數甚タ多ク從テ市場ハ當  
 沿岸ノ漁獲物ノ全部ヲ引受クルコト能ハス彼等多數ノ魚商人ハ荷物ノ多少如何ニヨリテ或ハ市場、或ハ直接漁業者ヨリ買  
 入ルル一方ニハ供給者(漁業者)ノ結合ナク他方ニハ需要者(仲買人)ノ一致ヲ缺クテ以テ現狀ノ儘ニテハ到底完全ナル鮮魚  
 分配機關ヲ作ルコト能ハス爲メニ漁業者並ニ消費者ノ蒙ル不利ハ決シテ尠カラズ可及的速ニ完全ナル分配機關ノ設立ヲ望ム

附、魚 市場

個人鮮魚問屋ヲ通シテ取扱フ總鮮魚ハ一ケ年約拾五方圓内外トス

移出 入 海 產 物 表

大正元年道外移輸出物種類金額地方名

種類	仕向地	種類	仕向地
昆布	東京、横濱、神戸、大阪、兵庫、四日市、門司	魚	東京、横濱、神戸、兵庫、門司
魚	青森、宮古、仁川	油	東京、横濱、神戸、兵庫
鮭	東京、横濱、名古屋、大阪、兵庫、四日市、熱田		

種類	仕向地	種類	仕向地	地 名	
				輸 出	輸 入
鹽 魚	東京、横濱、石ノ卷、青森	鮮 魚	東京、横濱、青森	四三、七五八	二、五〇四
鹽 化 加 里	東京	其 他	東京	七四、四二六	三〇、一
乾 魚	東京、横濱、大阪、石ノ卷	魚 肥 エ ヲ キ ス	東京	四四、四〇三	六三、三
鮫 鱈	東京、横濱、兵庫	銀 杏 草	東京、横濱、名古屋、神戸、大阪、門司、下ノ關	三八、九二五	一〇、五五六
				二二、九二二	一、三九六
				六二、五四五	一一、六〇〇
				七三、〇七八	一、五五八
					七九

明治四十四年道外移輸出種類金額地方名

種類	仕向地	種類	仕向地
乾 魚	東京、大阪、神戸、兵庫、伏木、魚津	鹽 魚	東京、大阪、神戸、名古屋、四日市、青森、箱崎、伏木、新潟、魚津







種類	仕向地名	種名		仕出地名
		種類	仕向地名	
開鮫	函館	乾魚	厚岸	厚岸
昆布	同	鹽魚	函館、紗那、厚岸、根室	函館、紗那、厚岸、根室
銀杏	同	鮮魚	函館、花咲、厚岸、根室	函館、花咲、厚岸、根室
鮮魚	同	生牡蠣	厚岸	厚岸
魚粕	同			
沃度	同			
地名	那	地名	室	地名
函館	那	厚岸	室	室
花咲	那	室	室	室
紗那	那	室	室	室
移出	159,550	移入	47,260	移出
移入	219	移出	1,300	移入
合計	159,769	合計	48,560	合計

鋼路驛移出魚類及肥料累年統計表

年度	魚類	肥料	仕出	
			種類	仕出地名
四十四年度	2,451	42	179	1,486
四十三年度	2,297	44	28	593
四十二年度	1,894	147	65	1,110
四十一年度	2,242	22	23	229
四十年度	1,092	580	198	2,675
合計	10,981	815	402	6,183

同魚類月別發着噸數調表

年月別	帶廣旭川	小樽(中央小樽)	野付	牛	其他	仕出	
						種類	仕出地名
四十五年四月	22	29	3	19	24	186	24
五月	19	34	2	14	26	187	24
六月	33	44	2	24	35	338	29
七月	24	75	2	22	39	492	29
八月	28	63	2	16	22	339	29
九月	23	71	1	18	26	496	4
十月	28	30	1	21	36	395	23
十一月	23	40	1	17	25	195	23
十二月	9	7	1	8	10	183	26
大正二年一月	8	8	1	9	10	221	24
二月	21	66	1	15	26	226	24
三月	27	49	3	24	33	226	24
合計	224	543	23	186	270	3,070	240

同肥料月別發着噸數調表

年月日	帶廣	其他	仕出	仕出	
				種類	仕出地名
四十五年四月	0	54	1001	3	3
五月	15	16	26	0	0
六月	16	54	20	0	0
七月	15	54	20	0	0



年月日	大正二年十二月	年月日	大正二年十二月
帶發	二	帶發	二
廣	三	廣	三
其他	二	其他	二
驛	三	驛	三
計	三五	計	三五
到	〇	到	〇
各	〇	各	〇
驛	〇	驛	〇
着	〇	着	〇
年月日	三月	年月日	三月
帶發	三	帶發	三
廣	二	廣	二
其他	三	其他	三
驛	二	驛	二
計	三五	計	三五
到	一六〇	到	一六〇
各	二五	各	二五
驛	二五	驛	二五
着	二五	着	二五

四、商業機關

(ア) 倉庫業

當釧路市場へノ平均一ヶ年出廻リ粕類三萬石内雜粕ハ四月頃ヨリ鯨粕ハ七、八、九月頃迄ニ全部出廻リ終リ亦同期間内ニ全部移出シ盡ス状態ナリ而シテ雜穀類ハ全部七十萬俵内外ノ生産アリ内約八割五六十万俵十月乃至二月迄當市場ニ出廻リ同期間内全部移出ス

上記セル如ク九月ハ海産物ト農産物ノ端境期而シテ毎年五、六月ハ倉庫業ノ閑散期ニシテ收入ハ海産物ハ陸産物ノ約半分トス

今重ナル倉庫業者及建物並ニ建坪等ヲ示セハ

中川倉庫	煉瓦造 六百七十坪 建上十六尺	前田倉庫	煉瓦造 百八十坪 建上十五尺
	土藏造 百五十七坪 同 十五尺		土藏造 百二十六坪 同 十五尺
	亞鉛板造 二百廿二坪 同 十五尺		木造 百二十八坪 同 十五尺
	板 葺 百二十八坪 同 十五尺		

之ノ外豊島倉庫ハ米、繩、蕈類ノ如キ主トシテ輸入品ヲ取扱フ

釧路倉庫業組合保管料  
海産物ノ部

品名	單量	一期保管料	品名	單量	一期保管料
鯨、雜魚	三十貫以下	一錢五厘	棒	三十五貫以下	二錢
虫	三十貫以下	二錢	鱈	三十貫以下	二錢二厘
昆布	四尺切以下一駄	四厘	油	三十五貫以下	二錢五厘
銀杏	三十貫以下	一錢五厘	石	一	一錢
草			油	罐入	

第一、本表ノ保管料ハ一ヶ月ヲ三分シ一日ヨリ十日迄、十一日ヨリ二十日迄、廿一日ヨリ末日迄ノ三期トス

但シ一期未滿ノ日數ト雖モ一期トシテ計算ス

第二、保管料ノ計算ハ每期入庫貨物ノ積數ニヨリ算定シ毎月末日ニ申受クヘシ

但シ支拂未済ノ貨物出庫スル時ハ全部出庫ハ全額一部出庫ハ其割合ニ應スル金額ヲ出庫ノ際申受クヘシ

第三、本表ニ掲ケサル貨物ノ保管料ハ表中類似貨物ノ割合ヲ準用シ類似貨物ナキトキハ實物ニ就テ之ヲ定ムヘシ

(イ) 運送業

陸運業

陸送業者六組アリ多キ時ハ五百人少キ時モ二百人ノ人夫アリ夫々荷主(商人側)ニ專屬セリ故ニ一倉庫内ニ於テ同時ニ異組ノ人夫入庫貨物ノ取扱ニ從事スル時ハ混雜ヲ來スコト屢アリ

釧路陸送業組合賃金表

海産物ノ部







